FB22
1308

0052432000

0052432-000

FB22－1308

朝鮮総督府水原高等農林学校一覧

朝鮮総督府水原高等農林学校

昭和６年

1931. 9

AHN

シセK 90

創立二十五周年記念

朝鮮總督府水原高等農林學校一覽

昭和六年

貴族院
昭和
12.8.-4
調査課

朝鮮總督府水原高等農林學校一覽正誤表

頁	行數又ハ箇所	誤	正
一一	七行	便所背後の道の續く	横（附圖の□）の
三五	第五條中	第一條ニ	第一條ノ
三八	四行	第一條ノ一	第一條ノ二
四二		三月	四月
四六	參照標題中		長後法施行規則（昭和二年十一月陸軍省告示第二十四號）
二行ノ次ニ標題			
四九	第三條中		本校各學科ノ學科目
六三	聲書本文中	限ニ	限リニ
六五	七行	學校服制	生徒服制
六五	學校服制中次ノ	金色	銀色

朝鮮總督府水原高等農林學校一覽正誤表

頁	誤	正
一一	七行	便所△△△△△△△△の道の續く
三五	第五條中	第一條ニ△
三八	四行	第一條ノ一△
四二	參照標題中	三月
四六	二行ノ次ニ標題	四月
四九	挿入第三條中	本校ノ各學科目
六三	盤書本文中	長渡法施行細則（昭和二年十一月陸軍省告示第二十四號）
六五	七校服制中衣ノ	本校各學科ノ學科目
六五	學△校△服△制	服ニ生徒服制
六五	金△色△	銀△色△
六八	第十三條第二號	免除スルコト
七三	第十八條中	樣式ハ別ニ之ヲ
七六	四行目ニ挿入	第 號
七六	行生徒服制朝鮮	幅四分
七六	制式幅七△	第何學年
八一	入學願書本文中	何學年
八二	平鐵盤書中	位勳學位
八六	第十三條第一號	調育
一〇〇	第一條中	實習場ヲ
一〇八	第五條中	保シ
一一二	初行中村	大正
一三〇	初行内田幸夫ノ	林學大意
一三一	三行李在甫ノ下	昭和
一三五	六日李容勳ノ	昭和五・六・二一
一三五	十四日長東正	八田吉平
一三六	規ノ次行ニ挿入	李在甫
一四一	六日本田字三	（臨時助手
一四五	郎ノ次行ニ挿入	助手
一四七	十二日淺川繁	五・五・二三）ノ次行
一五二	喜ノ行ニ挿入	二十四名
一五二	林學科第一學年	杉原安男（佐賀）竹平敏矩（鹿島）藤
一五三	二行ノ次行ニ挿	（鍋島）渡邊 徹（鍋島）
一五六	入内ノ下棚末尾	七二
一六九	ヨリ三行	（削ル）
一七六	初行	水上茂敏
一七六	二行ノ下	日ヨリ之ヲ施行ス
附則中	日ヨリ施行ス	校務
附圖中	改正	生徒ノ調育
第九條中	教務	職員定員表
〃	生徒調育	雜
第十一條中	職員表	特待生ノ資格ヲ失フト認ムルトキハ直ニ其ノ特待生タルコトヲ止ム
六	雜	農林學校校友會
三	第十九條中	農林學校校友會
一一	水上義敏	農林學校校友會
三四	第十四條ノ次行ニ挿入	在校職員
五〇	十四行ノ（校友會ノ下	推薦
五〇	令ヲ則ノ二ノ下	上記
五一	第一條中	贈圖ノ二
五二	第四條名譽會員	水原移轉當時
附圖ノ一	第十一條中	贈圖ノ三
附圖二枚目	四行	
附圖ノ二	初メノ餘白棚外	
附圖三枚目	標題ニ挿入	
	初メノ餘白棚ニ挿入	
	創立當時	
	推薦	
	左記	

緒言

本校ノ前身タル農林學校カ韓國政府農商工部所管ノ下ニ京城壽進洞ニ創設セラレタルハ明治三十九年ニシテ本年九月十日ハ恰モ其二十五周年ニ當ル　此機會ニ於テ沿革ヲ審ニシ變遷ヲ明ニシ以テ現況ニ及フハ蓋シ有意義ノ事タルヘキヲ念ヒ部下職員ヲシテ夫々所要各般ノ資料ヲ蒐集採錄セシメ公ニスル事トセリ之ニ依リテ啻ニ本校一箇ノ歷史ヲ察スルノミナラス朝鮮ニ於ケル農業教育ノ一斑ヲ窺知スルヲ得ハ幸ナリ

昭和六年九月十日

朝鮮總督府水原高等農林學校長　加藤茂苞

FB22 1006
FB22 1308

國立國會
57. 5. 31
圖書館藏書

消
國立國會
45. 6. -5
圖書館藏書

82W28974

829898

水原高等農林學校一覽

目次

第一　沿革略誌……一
第二　關係法令……二九
一　朝鮮教育令抄……二九
二　專門學校令抄……三〇
三　實業學校令抄……三一
四　朝鮮總督府諸學校官制抄……三一
五　官吏服務規律抄……三二
六　陸軍現役將校學校配屬令……三三
七　官立學校長職務規程……三五
八　官立學校授業料規則抄……三六
九　專門學校入學者檢定規程……三九
一〇　公立私立實業學校教員タルコトヲ得ル者ノ指定抄……四一
一一　教員無試驗檢定ニ關スル指定學校名及學科目抄……四一

昭和六年九月

一二　私立學校教員資格ニ關スル規程抄……四二
一三　文官任用令ニ依ル認定學校抄……四三
一四　朝鮮教育令ニ依リ設置セル學校ノ生徒、兒童竝卒業者ノ他ノ學校ヘ入學、轉學ニ關スル規程抄……四四
一五　兵役法抄……四五
一六　兵役法施行令抄……四六
一七　學校醫規則……四九

第三　水原高等農林學校規程及規則……四九
一　水原高等農林學校規程……四九
二　水原高等農林學校學則……五四
三　附置實業補習學校教員養成所規程……六七
四　附置實業補習學校教員養成所學則……六九
五　附置實業補習學校學則……七九

第四　水原高等農林學校細則……八三
一　處務細則……八三
（一）總　則……八三
（二）分　掌……八四
（三）會　議……八九

（四）文書ノ取扱……九〇
（五）會　計……九三
（六）服　務……九四
（七）宿　直……九五
二　實驗農場規程……九八
三　林學實習場規程……一〇〇
四　圖書館規程……一〇一
五　生徒心得……一〇二
六　生徒寮規則……一〇三
七　生徒寮細則……一〇四
八　奬學資金取扱規程……一〇六
九　御眞影竝勅語謄本奉護ニ關スル心得……一〇七
一〇　校旗規程……一〇九
一一　火災豫防及非常心得……一〇九
一二　減額旅費規程……一一三

第五　經費豫算……一一七
第六　土地及建物……一二〇

一　土地……一三
二　建物……一三
第七　職員……一二七
一　現職員……一二七
二　舊職員……一三七
第八　生徒……一四八
一　生徒數……一四八
二　生徒氏名……一四八
三　生徒道府縣別……一四八
四　入學志願者及入學者數(現在竝過去)……一五三
五　在學中ノ諸入費大略……一五六
第九　卒業生……一五九
一　卒業生數……一五九
二　卒業生就職表……一六〇
三　卒業生氏名……一六一
第一〇　研究報告……一七八

附錄

一　沿革略誌附錄……一
官制ノ部……一
規程ノ部……六
校友會々則ノ部……四八
二　水原高等農林學校校友會規則……五六
三　水原高等農林學校校友會支部規程……六二
四　水原高等農林學校校友會積立金規程……六三
五　附置實業補習學校教員養成所農友會會則……六四
附圖……卷末

（一）
林家の
門

（二）
瀟洒な
玄関脇

×印の扉が、三尺の袖壁に
接するところに、今もなお
残されている。
昔はどのような
扉であったのか、
知る人がいない。

◎この門は、林家の
玄関脇にある。
（撮影　林家
所蔵）
（次頁へ入口
下の図）
（高田市指定
有形文化財）

創立時の校舎

講堂

(三)

元禄工事後半焼失

たりしも、ガラス戸の破片が舞い、机上も床も一面に灰塵となり。

(四)

信井学校開校式

先師画像奉掲の上、校長の告辞あり。次いで左の祝詞を朗読せり。

祝詞

今ここに学校を開くや、古の賢人の教えを広く世に施さんがためなり。願わくは、この学校より、忠孝の心厚く、仁義の道明らかなる人物輩出して、国家の用をなさんことを。

(五)

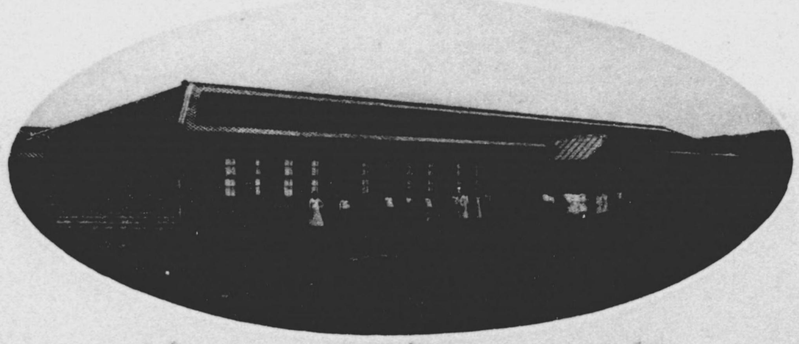
十二月満期卒業式

卒業生に賞状を授与す。

(六)

明治四十年頃迄

（五）水原移轉當時に於ける新築本校舍



（六）現在に於ける本校全景

(五) 水原移轉當時に於ける新築本校舍

(六) 現在に於ける本校全景

飛行機上より見たる本校全景

水原高等農林學校一覽

第一　沿革略誌

記事中〔◎は學校の關係たるを標示す。參照すべき
●は寄宿舍
▲は校友會
○は其他〕官制規程會則等は附錄に收む。

一　先身時代

（自明治三十七年九月至同三十九年八月）

◎李朝第二十六世李太王の晩年に至り漸く實業教育の必要を感じたる韓國政府學部は、京城の中部壽進洞に舍屋を選び、同部直轄の『農商工學校』を創設せり。時恰も日露の戰雲酣なる**明治三十七年**（光武八年）九月にして、此學校の農科を本校の先身とす。

壽進洞は後に松峴洞と併せて壽松洞と改稱せられたるもの、今その百二十七番地の邊に民家に介まれて當時の正門殘存す（寫眞の一）。當時の敷地及び校舍配置の概況は附圖の一に就きて見らるべきが、三本の槐樹（えんじゆ）（寫眞の二）を除き、其頃を物語るべきものは凡て消滅し去れり。但し寫眞の二中小家屋の右手に認めらるゝ塀は、煉瓦教室（附圖の一參照、昭和五年春取拂ふ。詳しくは今冬の校友會報に載すべし）を取毀てる時其の煉瓦を以て舊來の物を修築せるにて略原形を保つと云ふ。

開校當初の一ヶ年は豫科一學級（百名內外の志願者より八十名許收容せりと云ふ）ありしのみ。農林學校本科第一回生は、此農商工學校豫科を了りて農科に入り約一月にして恰も竣成せる煉瓦教室に移り、更に一ヶ年の後農林學校に編入されたるものとす。農科時代の教育に當れるは、農學士赤壁大郎と熊本農學校卒業生李章魯の二名にして、別に附屬の農事試驗場（後に園藝模範場となる）を水口門外蠶島に設け、押切祐作・大磯仁太郎等に場務を擔當せしめ圃場の一部を割きて生徒の實習に供せりき。

其の頃の修學狀況を傳聞するに、農科の時は朝鮮人敎官のみなれば授業も滑かに行はれたるが、農科となりて日本人敎官に學ぶに及び忽ち困難に遭遇せり。元より李敎官は通譯奪務なれば大いに努めたるなれども、自分擔當の學科もあり終日敎壇に立ち通す事は到底堪ふべきに非ずとて、時に生徒（學徒又は學員と稱す）の中稍良く日本語を解する者をして通譯せしめたりしが、最良く日語を解する者と雖今日の普通學校五六年生に及ばず、質疑應答は元より敎示說明極めて徹底せず。困却の餘生徒は敎官所有の敎科書を借り受け、二三人協力の上苦心して每日少量宛繙譯し、學部の印刷所と交涉して之を順次活版に附し、辛うじて納得する程度に漕付けたりと云ふ。

實習は一週に火金の二日書島に赴きたるが、遠隔の地なれば漸く到着して二時間後には晝食となり、晝食後は直ちに歸校する有樣なり。實習の種類も蔬菜園藝の內を出でず、生徒は全く勞働に慣はず、實習とは云へ殆んど其體を成さゞりき。而も實習一日に付二十錢位を支給せり（因に當時は晝食代を給する學校もありき）と云ふに到つては隔世の感以上なり。夏休には生徒の一人（級長申鉉泰）に月六圓を與へて實習地に常駐せしめ、他生は七人宛交代にて之に赴き草取等に從事せりと云ふ。日當を與へたるは勿論なり。尙實習地への往復に李敎官作の實習歌を歌ひたりと云ふも今傳はらず。

◎明治三十九年（光武十年）に到り、實業敎育の發達益々緊要なるに鑑み、各科を分離獨立するの議起る。

蓋し從來の校舍は大部分矮小狹隘なる朝鮮家屋にして何等の設備なく、敷地も人家稠密なる街衢に介まれ將來擴張の餘地を餘さゞるに加へて三科併設の爲す不便夥しく、經營上にも訓育上にも寒心すべきもの多かりき。殊に農科は蠶島の實習地を隔つる事二里に近く、不便不利一層甚しきものありしかば、韓國政府は特に農學士豊永眞里（當時東京帝國大學農科大學敎授、渡韓後間もなく農學博士）を聘して事に當らしめぬ。豊永學士玆に於いて五月渡韓し來り、林學士道家充之・小笠原（改姓戶來）秀太郎入交淸江・物田由藏等と共に劃策に任じ、本校の今日ある基を作れるなり。即ち

◎八月勅令第三十九號（農商工部所管農林學校官制）**を以て農科は獨立して農林學校と改稱し農商工部の所管に移り。**農務局長徐丙壽校長を兼任する事となれり。（官制の一）

右官制の發布と前後して、水原郡日荊面西屯里に於いて民有地約十二町五反步（若干の田ありしも殆ど全部荒蕪地）を七百五十圓にて買收し、大倉組石井某請負にて校舍・寄宿舍・官舍等概計五百六十坪の新築工事に着手す。用材は鮮內にて求むる能はず遠く內地より運搬し來れるが爲に、建築費は當時としては割高にて四萬四千三百餘圓（坪當七十九圓五十錢）を要せり。其の建築材は主として杉なり。當時の敷地校舍の概況は附圖の二及寫眞の五に依つて察すべきが、此の北方には創設間もなき勸業模範場（今の農事試驗場の前身）あり、西には農商工部所管林業事務所あり、尙水原邑內には明治四十三年迄京畿道廳（觀察府と稱す）所在せりき。

二　農林學校時代

（自明治三十九年九月至同四十三年九月）

◎明治三十九年（光武十年）九月一日、新制『農商工部所管農林學校』開校す。（官制の一及規程の一參照）

舊農商工學校の農科生徒二十五名（光武八年九月入學）、京城學堂（押川方義等の海外敎育會の設立に係り、日本語を主とし普通學科を授く）の農業速成科生徒八名（光武九年十二月入學）計三十三名を修業年限二年の本科第一年級に編入し、舊農商工學校豫科の敎室（寫眞の三）に於いて開校す。九月一日生徒を集めて徐校長及豊永校頭より訓辭ありしなれば、此日が眞の開校日なれども、種々の都合により授業を開始せる九月十日を開校記念日と定め、翌年より祝賀の催を爲し大正七年に到れるものとす。

農林學校となるや（或は農科に入りし時とも云ふ）官費を以て制服を調製支給せるが、之に就いて一の插話あり。即ち本科第一回生は一二名を除き全部舊來の丁髷を結び居たるが、學校は之を斷髮せしめんと欲し、斷髮せる者に制服を給與すべしと告げたるに一人の應ずる者なし。依つて某敎官は生徒の重立てる者數名に向ひ說得を繰返して月餘に到り漸く夫等に斷髮せしむるを得たり。次いで此等數名は意を受けて他生の勸誘に力めたるも捗々しからざりしかば、一日無警告にて全部を煉瓦敎室に入れ錠を下

し、床屋なして一人殘らず斷髪せしめ、約束の制服を貰ふを得たり。制服は一着九圓（或は三四圓とも云ふ）、立派な羅紗製なるが帽子靴等は與へざりしかば、皆思ひ〳〵のものを用ゐ頗る異樣の觀を呈したりしが、當時制服ある學校稀なりし以て生徒は意氣揚々たるものありしと云ふ。

◎十月十五日林學速成科授業を始む。

農商工部の模範造林事業に要する技術員を養成する爲に新に設けられたるもの、約八倍の受驗者より十二名を選拔入學せしめたり。尙本科速成科の外に一ヶ年の研究科を本科の上に置き、農學又は林學の更に深き研究に備ふる旨の規程は、全く空文にして一度も實施せられず、遂に明治四十三年十二月府令（朝鮮總督府令のこと以下倣之）を以て廢止せられたり。

◎明治四十年（光武十一年）一月水原に移轉す。

前年十二月初新築工事竣り（寫眞の五）、移轉は其十三日に始め一月八日生徒の入舍を以て終了、十一日授業を開始す。規定に依り今後月五圓の給費を爲す事となる。この五圓を以て四圓足らずの賄費（薪炭費を含む）を支辨し、殘餘を積んで制服實習服等の調製及修學旅行の費等に充當せり。學校よりは更に鉛筆ノート等を時々給與せるが如し。尙教室に於ける日本人教師の通譯は水原移轉後は行はざる豫定なりしが數學物理化學等生徒の難解とする學科には除くを得ずして三月頃に及べり。

◎三月二十六日伊藤統監校務を視察の上生徒に奬勵金若干を與へらる。

◎四月十三日林學速成科第一回生十二名に修業證書を授與す。

此十二名が本校の校門より社會に送られたる最初の校友にして、大部分大邱平壤及水原に新設せられたる樹苗養成所に赴任す。なほ此年本科は五月二十日、速成科は六月十日に入學式を擧げたるが、之は從來の九月入學を四月入學に改むる過渡的情勢と認むべく朝鮮總督府農林學校時代に入りて大正二年頃より三月卒業四月入學の常態に落付けるを見る。

本科第二回生は、先づ各道に依頼し郡守等を通じて志願者を募り、其地方の普通學校又は觀察府にて日語漢文數學に就き試驗して貰ひ、優等者計約五十人を京城の官立高等普通學校に集め第二次試驗を施し、二十九名を選拔せるものとす。此方法は一見極めて良法たれども、實際の成績は豫期に反し公平に人材を拔く途に非ざるを發見したれば、第三回生よりは志願者を初より京城に集めて選拔試驗を行ひ、更にその不便なるに鑑み第五回生の時（明治四十三年、隆熙四年春）よりは、恰も增築成りたる本校に於いて之を施行する事に改めたり。初期の入學試驗には換玉及びカンニング等特に頻出し監督者の勞苦も一方ならざりしが、ある道にては赤監督者自身が相識の受驗生に答解を示せりとて他生の激昂を買ひ、時間の過半を紛擾に費せるなどの事もあり。受驗者の半數は日本語會話にて落伍し去れるを見れば相當の難關たりしを察すべきが、この關門を突破して入學し來る當時の進歩的靑年にもなほ多くの丁髷者ありき。氣銳の學徒は、此舊風を斷絶する事を以て先輩學友の義務なりとし、即ち說得に强制を加へて之を剪る。號哭して赦されん事を乞ふ者あり、事終りて後切落されたる髷を眺めて悲涙滴々たる者もあり。學校生徒の斷髪を强制する事は一般の疑懼を招くとて李學部大臣が誡告を與へたる事もありしが、如上の悲喜劇はなほ幾度となく展開せるものと云ふ。尙新舊潮流の渦卷に動搖せる世情の影響もあるべきが、或時などは暴徒來の戲言に舍生を擧げて周章狼狽し、舍監の制止も上の空にて遁走、中には自宅に潛みて遙に學校移轉の請願書を寄せ來るものもあり、本校職員も仲々に多事なりしと。

◎明治四十一年（隆熙二年）一月一日農林學校官制改正の結果、勸業模範場長農學博士本田幸介校長を兼任する事となる（前年十二月三十日附勅令第七十九號）（官制の一の備考參照）

韓國農業開發の爲に東京帝大農科大學教授たりし本田博士招聘の事は明治三十九年三月に纏り、四月勸業模範場官制の發布を見翌月博士渡韓と運びたり。但し模範場の開場式は事實上の創設より約一年遲れ四十年五月十五日に行はれたり。尙場長は技師に對し技監と稱せられたりき。

本校は創設以來專任の校長なく、實際の校長事務は主席の教官之を執れり。最初の豊永校頭勸業模範場に轉じて後、敎授宮原忠

正校長代理となり明治四十一年一月より四十五年三月中旬に到る。其より四月下旬迄八田教諭、その轉任後七月下旬迄主として植木教諭、翌大正二年八月迄は武田教諭、十二月中旬迄再び宮原教諭其の任に當る。爾後大正三・四・五年を經て六年五月下旬迄永岡慈教諭、八年末まで鏡保之助（模範場技師兼いて本校教授）之を務め、九年一杯は主として大森教授、十年一月より三月中旬迄高橋教授、その後十三年末まで草場教授、十四年一月一杯は再び高樹教授、四月中旬迄植木教授、それより再び本校來任の八田教授の順にて今日に到れるなり。

▲同月本校々友會成立す。（校友會々則の一參照）

本科第一、二回生及林學速成科第二回生の發起に係る。創立當時の會員總數八十二名。會費は通常會員月十錢特別會員年二圓。九月會報第一號を發行、大正八年迄年一回宛。九年夏水原學報と改稱月刊となり、十三年一月より橫書とす。昭和三年七月年二回刊行に改め、同五年十二月校友會報と再改稱縱書に復せるなり。

◎三月四日農商工部令第六十二號を以て學校規則の一部を改正せらる。

多要に應じ歌謠學速成科を置くを得べきこと、卒業生は給費日數の二倍期間を義務年限とし職務の指定に應ぜしむる事、之を辭する者には給費の全部又は一部を返納せしむべき事等追加せられ、月額五圓の給費は六圓に增額せられたるなり。

◎四月十五日第二回證書授與式を擧行す。

本科第一回生二十一名に卒業證書、林學速成科第二回生七名に修業證書を授く。林學速成科は向後廢止となり、二十名の生徒を募集する處の

◎歌謠速成科新に設置せらる。

◎九月下旬校舍其他の增新築成る。

現在圖書室等のある一棟增築され、生徒實習室（現に柔道々場に使用す）とその階の倉庫及び圖室（今の助手合宿）とが新築せられたるなり。

◎十月二日時の韓國皇帝（後の李王殿下）華山陵に御展墓の歸途勸業模範場に臨幸の際、本校の職員及生徒に對し優渥なる勅諚に添へて金百五十圓下賜せらる。

之を「李王殿下御下賜奬學資金」と稱し、銀行預金利子を以て學年末に優等生に賞品授與を爲し來れり。

○農商工部より通牒にて十月十六日より日本國祝祭日には事務に差支なき限り休業敬意を表する事となる。

◎明治四十二年（隆熙三年）二月十八日勅令第十八號を以て本校官制中改正、教授補を四名に增員せらる。

◎四月十日會根統監以下臨場の下に第三回證書授與式を擧ぐ。

本科第二回生二十名卒業す。歌謠速成科は二十名の第一回修業生を送出して廢止となる。

◎六月一日農商工部令第二號を以て學校規則の大部分を改正す。（規程の二參照）

改正の眼目は、從來二ヶ年の修業年限を三ヶ年に延長したるに在り。在學中の生徒は從前の規程に依つて卒業せしむる事となりしが、第一年級よりは特に志願者を募り二十九名を試驗選拔し、新規程に依る修業を爲さしむる事とす。

◎九月二十九日附、改正規程による卒業生は判任文官任用の資格ある旨學部大臣認定す。

●十月初旬寄宿舍一棟及舍監室一棟の新築成る。

前者は今の第七寮舍にて、寄宿舍は是を以て合計三棟となれり。舍監室は今の第六・七寮の間の空地に、ランプ室と廊下を隔てゝ造られたりき。

◎十二月中旬校舍の增築成る。

講堂階段教室等のある部分なり。階段教室は理化學特別教室と稱せり。

斯の如くにして小規模乍ら中等學校としての體裁漸く整はんとする此頃は、生徒數は百内外、職員は專任の教官書記に講師を加へて十四五人、經常費三萬四五千圓を擁し、依然として半島最高の農業教育機關を以て居りしなり。

生徒の出身地は、京畿最多く西北鮮之に次ぎ今羅道等の南鮮に尠し。大抵私立學校（當時舊來の書堂書房なほ一萬を算し、教育熱の勃興によりて新設せられたゝ私立學校にて認可を受けたるもの二千を越え、外人が主となりて設けたる初等學校丈にても八百餘と稱せらる、官公立の甲種普通學校は五〇を越ゆる事多からず）の出身なれば學力極めて不同、年齡の懸隔著しきに加へて地方辯の差違甚だしく時に日本語に依つて却つて良く意志の疏通を見る狀態なりければ生徒間の交遊は案外に疎遠なりしと。亦此頃の生徒を平均年齡より見れば二十二三、既婚者九に對し未婚者は一强を示す。

學科授業時數は一週二十六七、適當の教科書尠き爲學科の三分二位は口述筆記に委ねたり。第一回生の頃は、ともかく筆記を爲し得るもの二三名に過ぎず（それも一兩月苦闘せる後に、放課後に其二三名の筆記（模造紙に鉛筆にて記せるもの）を照合訂正し寮生持廻りにて勉强せりと云ふ。此頃は日語の普及も進みたれども、校友會は毎土曜小集會を催し各級二名宛を出して日語演說を行はしめ、以て其の習熟を期せる樣子なり。教室に於ける生徒は、記憶的學科及語學殊に漢文等には概して優良なる成績を示せるも、物理化學等の學習には多大の困難を感じたるらしく、成績も依然として芳しからざりき。

實習地は明治四十年三月より五月迄掛りて、五町七段歩許の荒蕪地の中二町七段歩許を開墾（粘土質の芝生地なれば開墾は難澁を極め、人夫及生徒丈にては到底物にならず、當時水原に在りたる監獄より二、三十人宛の囚人を借りて幾十回に及び漸く完成せりと云ふ。今の運動場及蔬菜園の邊なり）して田とせる外、當初は畜七段七畝餘、果樹園千坪桑園七百七十坪、普通及應用植物園計六百坪足らず、林木見本園五段六畝餘、演習林一町三段七畝内外なりき。二年後の此頃も右と殆ど變化なかりしが如し。

但明治四十三年八月には、現在の實習畜の北方に當る畜二町三反八畝十五歩餘（時價千七十三圓）を模範場より保管換せり。

右の如き狀態なれば、初期の實習は模範場の圃場（場長官舍の南方の丘陵地、今官舍の集在せる邊と云ふ）に赴きて時々習ふ外は大概開墾とその整理に從事せるなり。而も夜は夜とて果樹の害蟲驅除に度々驅り出され等したれば、苦しさの餘り退學を考へたるもの（青刈大豆等を以て初めて堆肥を作らしめられたる時は殆ど全部が然りと云ふ）多かりき。唯本校は、當時京城にも匹敵する物なき堂々たる新築の校舍を持ち、朝鮮として最初の寄宿舍生活を營ましむる上に、博士學士の肩書ある專門教官が時間毎に交代教授に當り未だ一般には普及せざるテニス・フツトボール等の運動を行はしむる等、青年の好奇心を牽引するもの多々ありしかば退學の決心も何時の間にやら鈍りしと云ふ。

作業は斯の如く無味乾燥なる上に、朝鮮には勞働を卑しむ根强き傳統的習俗あり、生徒は其の風殊に甚だしき兩班階級の子弟なれば、實習の教官は、勤勞を訓ふるに名狀すべからざる困苦を嘗めたゝ。實に當時の實業學校が給費制たりし原因の一は、實習あるが爲に生徒の募集に困難を感じたるに依るなりと。

三　朝鮮總督府農林學校時代　（自明治四十三年十月至大正七年三月）

◎**明治四十三年**（隆熙四年）八月二十九日日韓併合成り、十月一日官制改革の結果『朝鮮總督府農林學校』と改稱同勸業模範場に附置せられ、其の場長本校々長に任ずる事となる。（官制の二參照）

斯て本校は皇國の中等實業學校の一となり、（但し入學資格は內地の小學校六年に對し、四年制又は三年制普通學校卒業なり）教授は敎諭、敎授補は助敎諭と改稱され、祝祭日も內地同樣となりしなるが、校長たるは依然として本田博士たり、敎官にも異動なく、敎授の內容にも大なる變化は起らざりしなり。

◎九月現業事務所、農具舍、肥料舍等新築せらる。

◎十月十二日寺內總督校務を視察し、優等生に賞品授與の資金として金百五十圓を交附せらる。

『寺內總督閣下奬學資金』と稱するもの之なり。取扱は李王殿下御下賜のものと同樣にす。

◎十二月十六日府令第六十一號を以て學校規則中改正せらる。（規程の三參照）

有名無實の研究科廢止され、農林學科の教授に重きを置きて學科課程を變更、科目時間數等に增減ありしなり。尙六圓の給費は五圓に減額せられたり。

◎明治四十四年四月初旬入學試驗を行ふ。

入學試驗の際の換玉には年來對策に腐心し來れるなるが、唯一の機防法とも云ふべき受驗寫眞は當時の民度として到底要求すべからざりしを以て、本年度は新法を案出、受驗者十四五－二十人位宛を一團とし受驗番號を記せる白布を胸に付けて整列せしめ其數團自ら之を撮影せり。當時の教官の講義以外の辛勞之を以ても察すべきなり。尙此年の京畿道農業實習員講習會を皮切として、爾後每年長期又は短期の農業講習會が本校に於いて開かれ來れるは周知の如し。

○明治四十五年一月一日より內地標準時採用、時計を三十分進む。

◎三月三十一日李王殿下及寺內總督の奬學資金を本校々友會をして保管せしむる事とす。

大正七年十一月二十六日さらに校友會より本校出納官吏に移管す。

◎五月五日明治四十年十月東宮（後の大正天皇）御渡韓の砌の御下賜奬學金の中金百六十圓を總督府より分配せられたるを以て、之に『皇太子殿下御下賜奬學資金』と名付け前項同樣の取扱を爲す。

◎同三十一日府告示第二百四十二號（朝鮮人たる官吏の特別任用に關する件）を以て本校本科卒業生は官立高等普通學校等の夫れと同等以上と認定せられ、判任文官に採用され得る事となる。

●八月九日溫突修繕の際乾燥の火を失し寄宿舍一棟燒く。

校舍と現第六寮との間に在りしもの、一部は半燒なりしも將來の危險を慮り取拂へり。蓋し大正と改元十日目の出來事なり。

○十一月『二の橋』及び之より驛に通ずる道路成る。

顯微鏡製造所（後に蠶業試驗所今は農事試驗場蠶絲部）新設せられんとし（元龍山にあり勸業模範場龍山支場と稱せるものを大正三年三月移轉せるなり）その經費を以て先づ橋と驛への道路とを築造せるものなり。

右の道路と橋との出來る迄は、溫突寮便所背後の道の續く邊にて西湖川に小木橋を架し、今の實習畓あづま屋の北方を東して模範場道路に通ずる（交叉の地點は現在の處より三四町模範場側に寄る）羊腸たる畔道を通行せるなり。但し二の橋より校舍前面を東西に走る道は、之より先明治四十一年頃整理築造せるものとす。

◎大正二年三月六日校舍西方の丘陵二十六町八段六畝餘を演習林として借入る。

貸主は東山農場なり。此後數年にして口頭契約にて同農場よりさらに二十數町步を借入れ、同樣演習林として使用ずる事となれり。

◎六月三十日教育勅語謄本を下附せらる。

◎同月府令第六十四號を以て、本校本科卒業生初めて判任文官として採用せらるゝ場合は、教官技術官及特別任用に依る者を除き、見習試驗に合格の上本府又は其所屬官署に於いて一ヶ年以上見習として行政事務の練習を要する事に定めらる。

●十月今の第八寮舍新築成る。

◎十二月十七日府令第百九號を以て學校規則の一部を改正す。

改正の要目は、實習の關係上夏休を廢し冬休を延長したると、學業を奬勵する爲に學資の支給を制限したると、入學志願者は相當の資産（田畓二町歩以上とあり）を有すべき事を規定したるとに在り。

◎大正三年に入れば學校行事も順調に進行しつゝあるを見る。

此年は給費制として最後の生徒募集をなせるが、志願者の數は本校として空前の大さを示し八百六十八に昇り、その中六百二人受驗し七分に足らぬ四十人合格せり。私立學校出身者は受驗者の一分たる一人が合格せるに過ぎざるに對し、公立普通學校出身者は漸次に勢を增し來り一割四分の合格率にて十四人が占む（翌年度は二割九分にて四十人中二十三人の多きを占む）。他は普通學校卒業後（簡易）農學校を卒業せるもの、及び高等普通學校在學中のもの等なり。

此年の入學者には未婚者特に多く、既婚七に對し三の割合なるが、翌年は再び九對一强と下降し依然振はず。但平均年齡は四年前に比し約三年低下し、且從來中北鮮に偏せる生徒が此頃より全鮮略々平均に分布せるを認む。而して既婚の生徒七十七名の結婚年齡を見るに、十二歲の三人を筆頭に二十歲の一人を最後とし、十四—十六歲最多く總數の七割を占む。

入學試驗は四月一日二日に亙つて行はれ、第一日は會話・讀書・身體檢査、第二日は書取・算術・漢文とあり。會話は一人宛呼び出し豫て定め置ける要綱に依つて對話し、國語を以てする會話能力を見る。讀書も同樣一人宛呼出しテキストを音讀せしめ發音理解の程度を檢す。書取は音讀筆記、身體檢査は身長體重其他に呼吸器の簡單なる檢査を加ふるのみ下半身は檢査せず。試驗の際の換玉カンニング等依然として多く、入學式前に四十四年以來の方法に依る寫眞との照合を行ふ外身體を再檢査し、更に簡單乍ら會話の試驗迄施し不正入學の防遏に努むる必要ありき。大正八年春受驗寫眞を豫め提出せしむる事となりて後漸く此の弊の減少を見たり。

◎八月二十五日寺內總督來校々務を視察せらる。

◎大正四年二月二十四日府令第八號を以て學校規則の一部を改正、四年度以降入學の生徒には學資の支給を止むる事となる。

蓋し此數年來入學志願者激增し、最早給費養成の必要なきに到りたる爲、自費を以て修業せしむる事とせるなり。而して自費制となるや四年度の志願者は俄然減少して百八十九人（百四十名受驗）となれり。

○大正五年四月三日記念植樹を行ふ。

總督府に於いて神武天皇祭日を期し記念植樹を行ふ事に定め且實行したるは明治四十四年なるが、本校としては毎年造林を行ひつゝあるなればとて前年迄は合流せざりき。然るに此年は本田校長の意見にて模範場及本校の職員一同演習林に於いて植樹する事となり赤松二年生九百六十本を植えたり。其後天候の都合にて廢したる時もあれど年々續け、昭和五年よりは新設の七寶山演習林に赴きて植樹し、懸賞松蛞蝓驅除を爲し、其夜は講堂にて愛林思想鼓吹の映畵を見る慣例となれり。

◎六月末より翌年二月迄本田校長外遊し、七月三十日勸業模範場技師鏡保之助校長事務取扱を命ぜらる。

◎九月十日第十回開校記念日を迎ふ。

▲此年三月卒業の本科第九回生を合し、卒業生及修業生の總數二百八十三名（內死亡十九名、同年六月末日調）に達せるが、その中の有志發起して開校十周年竝御大典記念事業を企て、前年十一月頃より資金の募集に着手せり。かくて締切迄に九十圓を集め得たるが發起人は之を以て足れりとせず、第二次勸誘を試みて六十圓、さらに個人勸誘を爲して五十圓、新卒業生は就職間もなければとて五十錢宛計八圓、百七名の在校生より二十五圓餘——實に苦心慘憺して總計二百四十三圓に達せしむるを得たり。其中八十圓を投じて演習林西方の山林三町九段歩許を購ひ、記念林として學校に管理を依托せり。之にて水原演習林は五十七町

歩に達したるが、本校所有の分は今回のを合して尚五町二段歩餘に過ぎず、他は凡て借地（今日と雖同樣）なり。尚殘りの百十餘圓を以て一個二十八錢の記念メダルを作り約四百の校友會員に分配せり。

當時は校友會費すら集り難く、未納滯納の金額と人名の報告が校友會報（隆熙二年より毎年一回發行。八十——三百十餘頁、平均百四五十頁のもの）の十四五頁を占むる有樣なりき。

◎**大正六年**三月十四日府令第十九號を以て本校專門科規程發布せらる。（規程の四參照）

蓋し時勢の進展に伴ひて中等程度の農學校各道に普からんとするに際し、中心機關たる本校の昇格は必然の急務に屬し今夫れに到る過渡の形式を取れるなり。而して本科は新年度より生徒の募集を止め、殘る二學級の生徒の卒業を待つ事となれるが、從來朝鮮人生徒のみなりし本校にも、專門科設置と共に內地人の入學し來るべき者あるを察し

●三月下旬內地人生徒の爲に假寄宿舍を都合せり。

夏休頃迄は靜前山本旅館に居り、次いで實習室を柔道々場に模樣替して之に居り、其の冬京畿道林業苗圃の建物（元農商工部の林業事務所、今俗稱プラタナス村と云ふ官舍部落の公園がその跡に當る）に移り、翌年さらに新入生ありて狹隘となりしかば一部は山本旅館に分宿せりと云ふ。

◎同月三十日專門科內地人生徒に徵兵猶豫の特典を附與せらる。（陸軍省陸普第九百二十四號）

◎四月五日より專門科入學試驗、二十六日授業を開始す。

百四十三人の中より二十二名選拔、此中に七名の內地人生徒あり。本校として最初の內地人生徒なり。

專門科入學資格は、中學校又は高等普通學校卒業以上なるが、大正十一年以前の高等普通學校は四年制（普通學校も四年制）なるに依り、稍敎養高き內地人生徒には數學・物理學・化學の敎授時數を減じ又は夫等の一乃至數科目を缺くを得べき旨規定しあり。朝鮮人には國語內地人には鮮語を三年迄課し、外國語としては英語を隨意科とし一週二三時間授くるのみ。其他すべて專門學校時代と同樣なり。

▲四月二十九日卒業生發起にて敎諭植木秀幹の在職十周年記念祝賀式を擧ぐ。

同敎諭は明治四十年（光武十一年）三月二十一日着任せるもの、式上卒業生の醵出せる金百圓の圖書券を贈呈せり。

▲**大正七年**三月二十四日本田校長の在職十周年記念謝恩式を卒業生主催にて擧行す。

記念品としては、卒業生竝に在學生の寫眞を集め各自々筆の綉地名札を其下に貼付せる記念寫眞帖と、校長の油繪肖像とを贈呈せり。

四　農林專門學校時代　（自大正七年四月至同十一年三月）

◎**大正七年**三月三十日附勅令第四十八號を以て朝鮮總督府專門學校官制公布せられ、本校は『朝鮮總督府水原農林專門學校』となり、農林學校を附置せらる。（官制の三參照）

◎四月一日府令第三十號にて右新規程發布され、專門科規程は廢止となる。（規程の四參照）

即ち僅に一年にて過渡の形式を脫して昇格せるものにて、同時に勸業模範場の所屬を離れ學務局の所管に移る。これ迄十二年の久しき間本校は農學部又は學務課局所管外の特殊官立學校として存續し來れるなり。但し校長は依然として勸業模範場長なり。また同じく專門學校と云へども修業年限四箇年宛の普通學校及高等普通學校の上に組織せられたるなれば、內地の夫れに比し遜色あるを免かれず。尙向ふ一箇年間農林學校を附置せられたるは、其の第十二回生（最後の級）の卒業を待てるなり。

◎同月九日本校內地人生徒に徵兵猶豫の特典を與へらる。（陸軍省陸普第千九十三號）

◎同月十五日專門學校としての開校式を擧行す。

長谷川總督關屋學務局長以下臨場。爾來此四月十五日を開校記念日として毎年記念式後運動競技を行ひ來りしが、昭和四年より
は式を廢して記念植樹を此の日に行ひ、農林學校としての開校記念日九月十日は創立記念日と稱して區別する事となる。

◎同月三十日本校學則制定の件認可さる。

右學則の第一、二條は朝鮮出身者に特に優遇を與へたる點に於いて注目すべく、第十・十四・十五條は現行の學則と大いに異なるものなりとす。規程の四に附せる學則を參照せらるべし。

◎五月十七日附本校生徒監督方法に關する諸規則制定の件認可さる。

生徒心得、級長心得、學級當番心得、寄宿舍規則等之に依つて効力を生ぜるなり。生徒心得は九章五十箇條を越えんとし、寄宿舍規則も亦九章にして四十九箇條、此外に實習中の心得もあり、擧措進退に極めて詳密なる標準を示せり。

例へば生徒心得敬禮の章第一條の後半に『但朝ヲ冠リタルトキハ右手ニテ其ノ庇ヲ撮ミ脫帽シタル後其ノ內部ヲ右肢ニ對接セシメタル後敬禮スヘシ』第五條に『師長ノ後方ヨリ進ミテ之ヲ通リ過キントスルトキハ其ノ旨ヲ告ケタル後通過スヘシ』とあり、服裝の章第七條に『頭髮ハ五分刈トナスヘシ』とあるが如し。寄宿舍に於いても、季節に依つて起床就褥喫飯自修始終の時間を定め半鐘を以て報じ、每夜人員點呼を爲せる外に時々就褥後の不時點檢を試み、校則規律の嚴正を期せるものゝ如し。

◎十月十八日文部省告示第二百八號にて本校卒業生は文官任用令に依る判任文官たり得る事を認定せらる。

●十二月十二日寄宿舍一棟の新築成る。

今の第一寮の東側部三分二が一棟として造築されたるにて內地人生徒の爲に設備せられたり。初め西寮と稱せるが、恰も建築成れる時演習林の方向に美麗壯大なる虹顯れるに由つて『虹寮』の別名あり。翌年一月二十六日開寮す。

▲大正八年二月末日校友會規則を改正す。

前年中より會員各自に意見を徵し昇格に伴ふ改正を施せるなり。校友會々則の二を參照すべし。

◎三月三日李太王國葬の當日にて休業す。

三月一日を中心として所謂萬歲騷擾全鮮に蔓延す。本校鮮人生徒も四日午前三時頃全部出奔し數旬行方不明なり。中には地方の書堂の先生に納まり、數月後飄然として歸校せる者もあり。道間暴徒襲撃の浮說頻々、遂に二十九日より四月二日迄宿直員を三人に增し勤勞模範場及蠶業試驗所と合議の上地區を分擔し特別警戒を行ふなどの事あり。三月二十八日より入學試驗を受けて二十二人中より選拔され四月四日入學を許されたる十人の中七人は內地人なり。制定後一年に滿たざる學則が此珍事に依りて坐礎せるは是非もなき次第なるべし。

◎十二月三日全羅北道威鳳山の國有林野二千九百十六町七段七畝を受授す。

之より先五月二十一日演習林として使用許可を受け居りしを今回全羅北道より受授せるものにして、面積は實測の結果二千六百七十九町歩と判明せり。大正九年十二月右に附屬する苗圃として民有地四町歩許を四千九百圓にて買收せり。

◎十二月十日本田校長病氣の爲依願退官し、北海道帝國大學教授農學博士橋本左五郎その後任となる。

◎大正九年三月二十五日農林專門學校として第一回の卒業式を擧行す。

十八名の卒業生中內地人七名朝鮮人十一名なり。

◎大正十年一月三十一日勅令第十九號を以て朝鮮總督府專門學校官制中改正あり、本校職員定員中教授二人助教授二人書記一人增員せらる。

▲四月校友會々則を改正す。

文議體育庶務會計の四部を分立設置せると、通常會員の會費を年六圓に增額せると、各地に支部を置く事になりたるとが要旨。

○四月二十八日經濟實習の目的を持つ自彊組合設立せらる。

在校生徒及職員が組合員となり一株三圓宛出資し、學用品其他の購買を爲す組織にして　五月二十二日正午賣出を始め、昭和四年四月二十六日の總會にて解散するまで八箇年繼續せるものなり。

◎五月從來運動場たりし處に、動植物實驗室及び化學實驗室新築さる。

前者は廊下共九十七坪半二萬六百七圓、後者は同樣九十九坪半二萬四千九十四圓なり。之と前後して生徒の勞力奉仕に依り現在の運動場出來せり。

◎十二月五日橋本校長より奬學金一千圓の寄附あり。

亡令嬢英子記念の爲にとあり。之を『橋本博士奬學資金』と稱し、先揭諸奬學資金と同樣に保管使用す。

◎同月養蠶室、釜場、豚舍、鷄舍及び氷庫成る。

養蠶室は二階建にて延坪二百四十三坪あり、二萬六千七百八十五圓を費せり。

◎大正十一年二月圃場として京畿道より八町四段七畝歩餘を買收す。

寄宿舍敷地と學校敷地との間に發し現業事務所の背後（西）を蠶絲部に到る溝と、學校前面の道路と、演習林裾の道に圍まれ蠶絲部に接する一帶の地なり。價格は二萬三百三十九圓。

◎三月十八日第三回卒業式を擧行す。

之より後本校の卒業式は殆んど三月十八日に定まれる形を呈す。

五　高等農林學校時代　（自大正十一年四月至現在）

◎大正十一年三月三十一日附勅令第百五十一號を以て新に朝鮮總督府諸學校官制公布せられ、本校は『朝鮮總督府水原高等農林學校』となる。（官制の四參照）

◎四月一日府令第五十二號を以て右新規程發布せらる。（規程の五參照）

此度の官制及規程改正の眼目は次の二點にあり。一は入學資格を五年制の高等普通學校（新制）中學校卒業程度以上とせること。舊制の高普卒業生及新制高普四年修了者の爲には昭和二年度迄特科なるものを置きて之を收容し、特科生にして在學中に專門學校入學者檢定試驗に合格せるものは其儘本科に編入する事とす。但本科も特科も同一教室にて同じ授業を受けしなり。二は從來の單科を農學科林學科の二科に分ち夫々專門的に深化し、愈内地の高等農林學校と比肩するに到りしこととなり。

◎四月始より五月十一日迄入學試驗及其補缺試驗を行ふ。

自費制となりて先づ入學志願者の激減を見たる本校は、再度の昇格に依りて益々其數減少せり。依て今回より内地にも志願者を募る事となり先づ下關に於いて入學試驗を行ひたるが、試驗成績極めて意に滿たざるを以て五月二日迄補欠募集を爲し、東京・福岡・岡山等に於いて第二次入學試驗を施行し、辛うじて農學科本科二十五名特科五名、林學科本科十七名特科五名、合計五十二名の入學者を得たり。翌十二年度も本校の外下關にて入學試驗を爲せるが、其後十五年度迄は釜山と本校と二箇所にて施行せり。

◎四月十四日府告示第百五號にて本校卒業生に朝鮮内私立學校の教員たる資格を指定せらる。

私立高普女高普に於いて、農學科卒業生は動物・植物・化學・農業、同特科は農業・動物・植物、林學科卒業生は動物・植物・數

學、同特科は動物・植物の教員たる資格を得、同時に農林學校時代の卒業生は普通學校四年級以下の教員たり得る事となれり。

◎同月二十二日齋藤總督來校々務を視察せらる。

◎五月十日教授草場榮喜新制の本校生徒監に補せらる。

●十月西寮々舍を西方に六十坪擴張す。

◎**大正十一年**二月三日文部省告示第三十四號を以て、大正十一年二月の朝鮮教育令に依る專門學校卒業者は文官任用令第六條第一號に依る判任文官の資格を認定せらる。但本校は本科のみにして特科生に及ばず。

◎三月十五日橋本校長依願退官し、教授草場榮喜校長事務取扱を命せらる。

◎三月十八日高農となりて第一回の卒業式を擧行す。但第二回卒業生迄は農林の科を分たず。

◎五月三日九州帝國大學教授農學博士大工原銀太郎本校々長に任せらる。

◎同月二十一日附勅令第二百五十二號を以て朝鮮總督府諸學校官制中改正あり、本校職員定員中改正せらる

教授六人が八人に助教授七人が八人に增したるなり。

▲七月校友會々則を制定す。（校友會々則の三參照）

●十二月寄宿舍一棟及食堂等新築せらる。

今の第二、三寮の建物、當時階下を中寮階上を新寮と稱へたる二階建一棟と、六十坪の食堂（現在内地人食堂たり）其他が出來せるなり。此時の建築敷地不足分として已に一月四日東山農場より七〇坪を借入れ置けり。

◎同月及大正十五年七月交換に依つて現在の實習畓を得たり。

此度は東拓と千九百八十一坪を交換し、十五年には個人と交換（二千六百二坪を與へ二千二百八十三坪を受く）して計約一町四段一畝歩を得。代價として與へたるは北方の舊實習畓なり。

◎**大正十三年**一月演習林の一部を果樹園に模樣替す。

之を現在の果樹園（一町四段五畝）とす。不足分七段八畝餘は東山農場より借受けたり。

◎四月十八日勅令第九十一號を以て朝鮮總督府諸學校官制中改正、本校教授八人を十人に增員せらる。

同日草場教授生徒監を免ぜられ教授植木秀幹後任となる。

◎七月作業室を新築す。

◎**大正十四年**三月高農第三回卒業式擧行。

始めて農林各科の卒業生を出せるもの、四十九名中農學科二十五名特科三名、林學科二十一名とあり。

◎三月十九日文部省告示第百四十二號にて無試驗檢定學校中に指定せられ、本校農學科卒業生は中等學校農業科につき無試驗檢定による教員の資格ある旨指定せらる。

◎四月一日勅令第八十八號にて職員の定員又々改正せられ、教授十人が九人助教授八人が七人に減せらる。

▲十一月一日大學豫科專門學校體育聯盟第一回運動會を京城グラウンドに催す。

京城に於ける大學豫科及び官立各專門學校の運動會には、假裝行列など盛にして運動會の趣旨に遠ざかり易く、運動場を有せざる學校もあるに同季節に數校の催ありて些か繁雜の感もありたれば之を合同せんとの議九月頃具體化し、本校も加へて六校相談の上運動會の外に各種の競技武道等をも包含する體育聯盟を作る事になり、十月聯盟規約成立す。その第一回の事業として行は

れたるが此運動會なり。翌年より野球・庭球・柔道・劍道・陸上競技・蹴球等につき優勝旗を設けて覇を爭ひ年々盛大になり來れり。總督府よりは年額二千四百圓を聯盟に支出する外、總督總監の優勝盃などもあり士氣の鼓舞に努めらる。なほ城大豫科は間もなく脫退し去りたれど昭和六年よりは京城商科醫專を加へたり。

◎**大正十五年二月四日府令第九號を以て規程中改正、農科選擇科目に土地改良學及び數學を追加せらる。**

朝鮮に於ける土地改良事業の重要性に鑑み、大正十二年以來本校は農業土木科設置の計畫案を提出せるも實現容易ならざる情勢なりしが、十四年本府の產米增殖計畫更新に伴ひ土地改良に關する技術員の養成急務となり右の如き規程改正を見たるなり。之を選修せる者は農林省耕地整理第二種講習修了者と同等の待遇を以て、本府土地改良部技術員として詮衡せられ得る事となれり。

◎**三月十九日大工原校長九州帝國大學總長に轉じ、同學教授農學博士加藤茂苞後任となる。**

加藤校長の着任は四月四日、五日講堂に於いて舊新校長の挨拶あり。

◎**六月二十三日生徒同盟して休校を始む。**

試驗制度改正、校舍改築、內容充實等を要求して直ちに容れられざるを以てなり。幾多の曲折を經て七月に入り、凡て校長の裁量に委ぬる事となり、五日校長並八田教授植木生徒監よりの訓諭ありて解決せり。

○**十二月二十五日午前一時十五分聖上葉山御用邸に於いて崩御、皇太子踐祚し給ひて昭和と改元、五日間の廢朝仰出さる。**

午後二時講堂に祭壇を設けて遙拜式擧行。校長、奏任官總代、判任官總代、雇員以下總代、生徒總代の順序にて玉串を捧げ、終つて先帝の御影德に關する校長の謹話あり。國旗衣服みな喪章を纏ひ、新年の拜賀式も取止めとなり、世を擧げて諒闇に入る。

◎**昭和二年二月八日御大喪儀に付休校す。**

○**三月三日明治節御治定の詔書降る。**

◎**六月二十七日附勅令第百九十七號を以て朝鮮總督府諸學校官制中改正あり、本校に『實業補習學校教員養成所』を附置せらる。**

之に依つて新に主事（教授の中より朝鮮總督之を補し學校長の指揮を受け右養成所の事務を掌る）を置かれ、敎助教授二人の增員を見たり。七月十三日附府令第七十號にて右所規程發布、同十六日學則（昭和三年一月十九日改正）制定の件十月二十日生徒制服制定の件認可あり。生徒は各道知事の推薦に係る者の中より十六名を詮考選拔し八月五日入所せしむ。同十三日湯淺政務總監以下多數臨場の下に開所式を擧行す。之より先八月十日附敎授八田吉平右主事に補せられたり。

生徒の多くは甲種農學校卒業後京城師範學校の演習科を卒へ一年以上實業科敎員の經驗を積めるものなり。最初は養蠶室に假寓し敎室も其一隅を以て充てたりしが、第四・五寮竣工と共に第六寮舍に移轉し、敎室も本校舍の第七號敎室を用ゐる事となり爾來今日に及ぶ。今春第四回生を送り（卒業生累計五十二名）目下第五回生十六名を收容す。在所中學資金として月額二十圓を支給するが、之を以て賄費を支辨する外農友會（第二回生の時に校友の交誼聯絡機關として作られ昭和三年より年一回の會報を發行す、運動其他は殆ど本校々友會と合同して行ふ）費修學旅行費等に充つるを得べし。

○**九月二十七日より氣象概況を揭示す。**

●**十二月初旬寄宿舍一棟新築成る。**

二階建にて元南寮と稱し、今階下を第四階上を第五寮と名付く。寮舍中最新式なるもの、朝鮮人生徒を收容す。

◎**同月二十八日本校學則改正の件認可せらる。**

從來八月三十一日に終りし前學期を九月三十日迄とし、從つて七月に行はれたる前期試驗が九月に行はるゝ樣になりたると、春季休業（四月一日より七日迄）を新に加へたると、入學試驗其他の願屆書樣式を一定にしたるとが改正の要點なり。

●**昭和三年**二月十六日寄宿舍娯樂室成る。
大正十四年三月以降の卒業生及在校生の寄附（自彊組合の出資金三圓を各自寄附）八百十八圓五十錢の中、七百九十五圓を以て造れる三室二十疊敷（但疊代金八十圓は別に會費を以て支辨）外に玄關三和土一坪の木造平屋。第一寮西端の北側に所在す。

▲同月十六日校友會々則を改正す。
積立金規程と入會金（三圓）の制を設け、會費を增額して通常會員年二十圓、特別會費は卒業の際二十圓納付と定めたり。

○三月八日教授植木秀幹東京帝國大學總長より學位（農學博士）を授與せらる。
論文題目は『朝鮮產赤松の樹相及之が改良に關する造林上の處理に就て』。四月二十八日午後三時半より模範場倶樂部後庭に於いて、水原官民有志八十餘名參集して祝賀會を催す。また卒業生有志は六百九十八圓九十八錢を醵出し、內六百三十三圓を以て丸善圖書券を贈ひ昭和四年三月十八日博士に贈呈せり。

◎九月十三日府令第六十三號を以て本校規程中改正、體操科に教練を加へらる。
之より先六月三十日將校一人（步兵中佐吉田貴恒）の配屬を見、十月より規定の學校教練實施せらる。翌年二月二十日第一回の査閱を受く。昭和五年十月四日には龍山練兵場にて閑院宮殿下の御親閱、六年五月二十日には又總督府構內にて鈴木特命檢閱使の覆閱を受けたり。昭和四年七月五日武器庫（十六坪千四百六十七圓）竣工し銃器は所要の二分一を格納す。現在は三分二。

○九月一日所謂『昭和三年不祥事件』起る。
朝鮮人生徒中秘に不穩なる行動を爲す者ありて、此日五名次いで六名拘引されたるに端を發し、同月二十日朝鮮人生徒の大部分同盟退學届を提出して退散す。數日ならずして嘆願書を寄せ復校を乞ふもの陸續たりしが、全部の登校を見たるは約二十日の後なりとす。

◎九月二十七日郡內梅松面七寶山の國有林野五十四町四段六畝歩を演習林として京畿道より移管受授す。

○十一月十日御卽位禮の當日なり教學振興の御沙汰下る。

本校にては當日奉祝式、十四日夜奉祝提燈行列を行ひ、奉祝歌を合唱し祝慶の意を表す。

○同月同日、諸學校に於いて處分を受けたる生徒に關し府訓令第三十一號發せらる。
右に依り本校は除籍生徒中悔悛の情顯著なる者四名を新學年度より復籍せしめたり。

◎**昭和四年**三月十八日の卒業式より皆勤賞を授與する事となる。
諸類學資金を以て從來優等生にのみ賞品を與へ來れるを、今回より三箇年皆勤は金メダル、二箇年は赤銅に金字、一箇年は燻銀に金字のメダル（但意匠と型は三者とも同一）を制定し、卒業生及在校生に授けて勉學奬勵の一助とせるなり。

▲同月三十日校友會規則の全部を改正す。（現行なり）

◎四月十三日學則改正の件認可さる。
無試驗入學者の數を限定し、一年間に百日以上缺席せる者は進級卒業せしめざる事とし、新に假進級竝に修業に關する制度を設けたるが改正の要目なり。

◎同月十五日高松宮殿下の御臨校を仰ぐ。
殿下は午後三時五十分加藤校長陪乘申上げたる自動車にて蠶業試驗所より御着校、校長室にて校長（拉八田敎授）の說明等御聽取の上、四時二分勤業模範場に向はせらる。生徒は正門外道路、職員（判任以上）は門內左側に整列し謹んで迎送す。

◎同月十八日勅令第八十三號を以て朝鮮總督府諸學校官制中改正あり、本校に『實業補習學校』を附置せらる。
右に依り新に敎諭二名を配置せられ、同時に敎授九人は十一人に增員を見たり（現行官制參照）。四月二十六日學則制定認可あり五月二十九日學校より一里以內にある面長區長及有力者十八名を招集し、八田主事竝森川郡守より補習學校設置の趣旨に就き說明指示する處あり。次いで普通學校長小學校長等との懇談協議を經て、將來附近農村の中堅たるべき十一人の青年を詮衡し六月十八日入學式を擧げ、十八日より家庭實地指導を行ふ。開校式は七月二十五日擧行せり。

七月一日校舍敷地並實習地として東山農場の田四千百六十三坪五合を借入れ、外に埜六十八坪の官有等外道路を廢道の上京畿道より移管し（五年四月十一日手續了）、九月十五日校舍其他の建築起工、十二月十八日竣る。校舍は約五十七坪（教室二、職員室一）、其附屬合作業所農夫舍等五十二坪許計百九坪餘、約一萬一千圓を要せり。

季節制の學校にして、農業期は家庭實習、農閑期は登校せしめて學科及作業を授く。修業年限は二箇年にして二學級、現在各十名內外の生徒を有す。

◎六月十四日農民デーの催を爲す。

朝鮮農會主催にて朝鮮に農民デーの行はれたるは前年よりなるが、本校は此年より始む。午前約二時間の講演終つて後職員生徒全部水田にて揮鍬を爲し、晝飯を共にして散會す。揮鍬中山梨總督親祭に來られ記念撮影を爲す。翌年は齋藤總督來校され同樣記念撮影を爲す。

○九月十七日勅令第二十七號にて朝鮮總督府勸業模範場は同農事試驗場となる。

十一月二日勅令第三百十八號を以て本校々長は右農事試驗場長を以て充つる事となれり。

◎十二月三十日御眞影を拜戴す。

加藤校長出府の上該會議室にて拜戴、午前十一時十五分本校御着、助手以上玄關前に整列奉迎す。十一時半より奉藏式を擧げ、終つて奉安庫に御安置申上げたり。

奉安庫は校長室の南側に於いて昭和三年八月二十二日起工、同十月五日出來せしもの。建坪一坪三合六勺、建設費七百八圓なり。

◎昭和五年二月七日御眞影及勅語奉護に關する心得を制定發表す。

◎五月十七日校旗推戴式を行ふ。

校旗は二百六十圓を要し、三月五日出來し京城高島屋より納入せり。五月十六日校旗規定成り、本日運動場にて推戴式が行へるなり。最初の旗手たりしは農學科三年生熊本豊（正）林學科三年生尾石元興（副）なり。

◎三月廿九日勅令第五十四號を以て朝鮮總督府諸學校官制中改正あり、本校職員定員中教諭を三名に改めらる。

○四月四日校內賣店を設置す。

自營組合解散後約一箇年にして請負制度の學用品販賣所を設けたるなり。場所は第六寮の西端の室なり。

○十月六日消防具置場自動車々庫竣工す。

因に本校の自動車は昭和三年十一月十六日初めて設備せるものなり。

◎十月三十日敎育勅語渙發四十年記念捧讀式を行ふ。終て校長の訓話あり。

◎十一月十四日勅令第三百九號を以て高等官官等俸給令第十條中改正され勅任敎授一人を置かるゝ事となる。

右に依り十二月二十二日敎授八田吉平高等官二等に陞叙せらる。

◎十二月九日本校學則中改正の件認可せらる。

九月十八日府令第七十四號以下にて鮮內中等學校の試驗制度改革されたるに應じ本校無試驗入學者の資格に改正を施したるなり

◎昭和六年三月十八日高農第九回、附置養成所第四回、同補習學校第一回の卒業式を擧行す。

◎三月二十二日より入學試驗施行。

二十二日は午前數學午後國漢、二十三日は午前英語午後博物、二十四日は口頭試問及體格檢查と數年慣行の如し。農學科に三十五名林學科に二十四名、計五十九名合格入學せるが、志願者は之も數年來大差なく二百二十一名なり。

○五月二十四日『二の橋』上流の護岸工事成る。

災害復舊費六千三百圓を以て三月二十四日着工せるものなり。五月三十日には河岸傳ひの新道路成り、講堂横の舊道路は廢道となる。また之の爲に附近の洋式庭園（大正十二年度卒業生の寄附せるもの）及び樹木見本園は若干の變形を蒙れり。

○六月十七日齋藤總督退官し、陸軍大將宇垣一成朝鮮總督に親任せらる。

▲七月二十五日本校創立二十五周年記念事業醵金募集狀を發送す。

◎九月十日創立二十五周年記念日を迎ふ。今年より此日を勞働奉仕日と定む。（昭和六年九月脫稿）

附記

右沿革略誌は、從來の沿革誌類が經費等の關係上簡略に失し本校の歷史的全貌を把捉するに遺憾の點多きに鑑み、今回の祝典を好機として、各時代の狀況を察知するに足るべき事件等を可及的多數採錄せるものなるが、材料の蒐集意の如くならず、其の照合補正は更に意の如くならず、關係者の記憶また必ずしも一致せず、編者の不敏を以てしては短少の時日に之が檢討を徹底せしむる能はざるに依り、相當多數の個處に於いて編者の獨斷を加へたるものとす。從つて一切の文責は編者獨り之を負はざるべからず。また諸種の記述が古き時代に精しく現在に粗なるは、一面材料の關係に依るも他面現在の本校生徒を讀者として假想せるに依るなり。

記述上の參考書としては、隆熙二年より大正七年迄（六年度缺く）飛んで大正十二年の本校一覽、初號以後の本校々友會報、光武十年より昭和六年に到る庶務日誌、高橋濱吉氏著朝鮮教育史考、韓國政府學部發行の報告書類等を用ゐたるが、初期の狀況を知る爲には本校在職者以外特に左記の方々に多大の御厄介を掛けたり。記して感謝の意を表す。

總督府視學官玄檍氏及び同高橋濱吉氏、大寶山林部岡衞治氏及び東山農場尹泰重氏（何れも舊職員）、利川郡守申鉉泰氏及び京城農學校金運鏞氏（何れも本科第一回卒業生）、京師附屬普通學校職員數氏。以上。

第二　關係法令

一　朝鮮教育令抄（大正十一年二月勅令第十九號）

第一條　朝鮮ニ於ケル教育ハ本令ニ依ル

第二條　國語ヲ常用スル者ノ普通教育ハ小學校令、中學校令及高等女學校令ニ依ル、但シ此等ノ勅令中文部大臣ノ職務ハ朝鮮總督之ヲ行フ

前項ノ場合ニ於テ朝鮮特殊ノ事情ニ依リ特例ヲ設クル必要アルモノニ付テハ朝鮮總督別段ノ定ヲ爲スコトヲ得

第三條　國語ヲ常用セサル者ニ普通教育ヲ爲ス學校ハ普通學校、高等普通學校及女子高等普通學校トス

第七條　高等普通學校ノ修業年限ハ五年トス（下略）

第十條　入學資格ニ關シテハ（中略）高等普通學校卒業者ハ中學校卒業者ト看做ス

第十一條　實業教育ハ實業教育令ニ依ル但シ同令中文部大臣ノ職務ハ朝鮮總督之ヲ行フ

實業學校ノ設立及教科書ニ關シテハ朝鮮總督ノ定ムル所ニ依ル

第十二條　專門教育ハ專門學校令ニ、大學教育及其ノ豫備教育ハ大學令ニ依ル但シ此等ノ勅令中文部大臣ノ職務ハ朝鮮總督之ヲ行フ

專門學校ノ設立及大學豫科ノ教員ノ資格ニ關シテハ朝鮮總督ノ定ムル所ニ依ル

附　則

第二十七條　本令施行ノ期日ハ朝鮮總督之ヲ定ム（大正十一年二月府令第五號ヲ以テ同年四月一日ヨリ施行）

第二十八條　明治四十四年勅令第二百二十九號朝鮮教育令ハ之ヲ廢止ス

第二十九條　本令施行ノ際現ニ朝鮮ニ存スル（中略）官立ノ專門學校（中略）ハ之ヲ本令ニ依リ設立シタル專門學校トス

前項ノ專門學校ハ現ニ在學スル生徒ニ付其ノ在學ノ間仍舊令ニ依ルコトヲ得

二　專門學校令抄

（明治三十六年三月勅令第六十一號）改正（昭和三年一月第八號）

第一條　高等ノ學術技藝ヲ教授スル學校ハ專門學校トス

專門學校ニ於テハ人格ノ陶冶及國體觀念ノ養成ニ留意スヘキモノトス（昭和三年一月追加）

專門學校ハ特別ノ規定アル場合ヲ除クノ外本令ノ規定ニ依ルヘシ

第五條　專門學校ノ入學資格ハ中學校若ハ修業年限四箇年以上ノ高等女學校ヲ卒業シタル者又ハ之ト同等ノ學力ヲ有スルモノト檢定セラレタル者以上ノ程度ニ於テ之ヲ定ムヘシ但シ美術、音樂ニ關スル學術技藝ヲ教授スル專門學校ニ就テハ文部大臣ハ別ニ其ノ入學資格ヲ定ムルコトヲ得

前項檢定ニ關スル規定ハ文部大臣之ヲ定ム

第六條　專門學校ノ修業年限ハ三箇年以上トス

第七條　專門學校ニ於テハ豫科、研究科及別科ヲ置クコトヲ得

第八條　官立專門學校ノ修業年限、學科、學科目及其ノ程度竝豫科、研究科及別科ニ關スル規定ハ文部大臣之ヲ定ム

第十二條　第一條ニ該當セサル學校ハ專門學校ト稱スルコトヲ得ス

三　實業學校令抄

（明治三十二年二月勅令第二十九號）改正（明治三十六年三月第六十二號）（大正九年十二月第五六四號）

第一條　實業學校ハ實業ニ從事スル者ニ須要ナル智識技能ヲ授クルヲ以テ目的トシ兼テ德性ノ涵養ニ力ムヘキモノトス

第二條　實業學校ノ種類ハ工業學校、農業學校、商業學校、商船學校、水產學校、其ノ他實業教育ヲ爲ス學校及實業補習學校トス

第二條ノ二　實業學校ニシテ高等ノ教育ヲ爲スモノヲ實業專門學校トス

實業專門學校ニ關シテハ專門學校令ノ定ムル所ニ依ル

四　朝鮮總督府諸學校官制抄

（大正十一年三月勅令第百五十一號）改正（昭和二年六月第百九十七號）（昭和四年四月第八十三號）（昭和四年十一月第三百十八號）（昭和五年三月第五十四號）

第一條　朝鮮總督府專門學校ハ左ノ如シ

京城法學專門學校
京城醫學專門學校
京城高等工業學校
水原高等農林學校
京城高等商業學校

第二條　水原高等農林學校ニ實業補習學校教員養成所及實業補習學校ヲ附置ス（昭和二年六月及同四年四月本條追加）

第五條　朝鮮總督府專門學校ニ左ノ職員ヲ置ク

學校長　勅任又ハ奏任
教授　奏任
生徒監
助教授　判任
書記　判任

前項職員ノ外水原高等農林學校ニ主事及教諭ヲ置ク教諭ハ判任トス

京城高等工業學校長ハ朝鮮總督府中央試驗所長、水原高等農林學校長ハ朝鮮總督府農事試驗場長ヲ以テ之ニ充ツ

第七條　朝鮮總督府諸學校專任職員ノ定員ハ別表ニ依ル

第九條　專門學校(中略)ノ學校長ハ朝鮮總督ノ命ヲ承ケ校務ヲ掌理シ所屬職員ヲ監督ス

第十條　教授、助教授及教諭ハ生徒ノ教育ヲ掌ル但シ水原高等農林學校教諭ハ實業補習學校ノ生徒ノ教育ヲ掌リ兼ネテ實業補習學校教員養成所生徒ノ實地授業ヲ指導ス

第十一條　生徒監ハ教授ノ中ヨリ朝鮮總督之ヲ補ス學校長ノ指揮ヲ承ケ生徒ノ訓育ヲ掌ル

第十三條　水原高等農林學校主事ハ水原高等農林學校教授ノ中ヨリ(中略)朝鮮總督之ヲ補ス學校長ノ指揮ヲ受ケ實業補習學校教員養成所、實業補習學校ノ事務ヲ掌ル

第十五條　書記ハ上司ノ指揮ヲ承ケ庶務ニ從事ス

第十六條　朝鮮總督ハ校務上ノ須要ニ依リ專門學校ニ商議委員會ヲ設クルコトヲ得

商議委員ノ委員ハ朝鮮總督之ヲ命ス

(別表)

朝鮮總督府諸學校職員定員

學校名	學校長	教授	教諭	助教授	書記
水原高等農林學校		十一人	三人	九人	二人

(參照)

官立及公立學校ノ囑託教員及講師ニ關スル件(大正六年七月總督府令第四十九號)改正(大正十一年四月第五五號)

第一條　官立又ハ公立學校ニ於テ一定ノ時間ヲ限リ特定學科ノ教授ニ從事スル者ヲ講師トシ一般教官同樣ノ勤務ヲ爲ス者ヲ囑託教員トス

第二條　官立及公立ノ學校ニ於テハ教官ノ定員ノ一部ニ代ヘ囑託教員ヲ置キ又ハ教官ノ外囑託教員又ハ講師ヲ置ク事ヲ得

五　官吏服務紀律抄(明治二十年七月勅令第三十九號)

第一條　凡ソ官吏ハ天皇陛下及天皇陛下ノ政府ニ對シ忠順勤勉ヲ主トシ法律命令ニ從ヒ各其職務ヲ盡スヘシ

第二條　官吏ハ共職務ニ付本屬長官ノ命令ヲ遵守スヘシ但シ其ノ命令ニ對シ意見ヲ述フルコトヲ得

第三條　官吏ハ職務ノ內外ヲ問ハス廉恥ヲ重シ貪汚ノ所爲アルヘカラス

官吏ハ職務ノ內外ヲ問ハス威權ヲ濫用セス謹愼懇切ナルコトヲ務ムヘシ

第四條　官吏ハ己ノ職務ニ關スルト又ハ他ノ官ニヨリ聞知シタルトヲ問ハス官ノ機密ヲ漏洩スルコトヲ禁ス其ノ職ヲ退ク後ニ於テモ亦同樣トス

裁判所ノ召喚ニ依リ證人又ハ鑑定人トナリ職務上ノ秘密ニ就キ訊問ヲ得タルトキハ本屬長官ノ許可ヲ得タル件ニ限リ供述スルコトヲ得

第五條　官吏ハ私ニ職務上未發ノ文章ヲ關係人ニ漏示スルコトヲ禁ス

第六條　官吏ハ本屬長官ノ許可ナクシテ壹ニ職務ヲ離レ及職務上居住ノ地ヲ離ルルコトヲ得ス

第七條　官吏許可ヲ得ルニ非レハ營業會社ノ社長又ハ役員トナルコトヲ得ス

第八條　官吏ハ本屬長官ノ許可ヲ得ルニ非レハ其ノ職務ニ關シ慰勞又ハ謝儀又ハ何等ノ名義ヲ以テスルモ直接ト間接トヲ問ハス總テ他人ノ贈遺ヲ受クルコトヲ得ス

官吏外國ノ君主又ハ政府ヨリ授與セントスル所ノ勳章榮賜俸給並贈遺ヲ受クルニハ天皇陛下ノ裁可ヲ要ス

第九條　左ニ揭ケタル者ト直接ニ關係ノ職務ニ居ルノ官吏ハ其ノ饗燕ヲ受クルコトヲ得ス

一　官廳ノ工事ヲ受負フ者

一　官廳ノ爲替方又ハ出納ヲ引受クル者

一　官廳ノ補助金ヲ受クル起業者

一　官廳ノ用品ヲ調達スル者

一　官廳ト諸般ノ契約ヲ結フ者

六　陸軍現役將校學校配屬令

（大正十四年四月十三日勅令第百三十五號）改正（昭和四年五月勅令第一三一號）

第一條　官立又ハ公立ノ師範學校、中學校、實業學校、高等學校、大學豫科、專門學校、高等師範學校、臨時教員養成所實業學校教員養成所又ハ實業補習學校教員養成所ニ於ケル男生徒ノ教練ヲ掌ラシムル爲陸軍現役將校ヲ之ニ配屬ス但シ戰時事變ノ際其ノ他止ムヲ得サル場合ニ於テハ此ノ限リニ在ラス

前項ノ規定ニ依ル將校ノ配屬ハ陸軍大臣、文部大臣ト協議シテ之ヲ行フ

配屬將校ハ教練ニ關シテハ當該學校長ノ指揮監督ヲ承ク

第二條　私立ノ中學校、實業學校、高等學校、大學豫科若ハ專門學校又ハ兵役法施行令第百條第三號ノ規定ニ依ル認定ヲ受ケタル私立學校ニ於ケル男生徒ノ教練ヲ掌ラシムル爲當該學校ノ申請ニ因リ陸軍現役將校ヲ之ニ配屬スルコトヲ得

前項ノ規定ニ依リテ將校ヲ配屬スル場合ニ於テハ前條ノ規定ヲ準用ス、大學學部ノ申出アルトキハ前二項ノ規定ニ準シテ陸軍現役將校ヲ之ニ配屬スルコトヲ得

第三條　陸軍大臣及文部大臣ハ特別ノ事由アルトキハ本令ニ依ル將校ノ配屬ヲ止ムルコトヲ得

第四條　陸軍大臣ハ現役將校ヲシテ本令ニ依リテ將校ヲ配屬シタル學校ニ於ケル教練實施ノ狀況ヲ査閱セシムルコトヲ得

第五條　官立又ハ公立ノ商船專門學校及商船學校ニハ第一條ニ規定ニ拘ラス將校ヲ配屬セサルコトヲ得尋常小學校卒業程度ヲ以テ入學資格トスル修業年限五年ノ實業學校又ハ之ト同等以上ノ實業學校、修業年限二年未滿ノ實業補習學校教員養成所及夜間ニ於テ教練ヲ課スル學校ニ付テハ第一條及第二條ノ規定ヲ適用セス

第六條　配屬將校傷痍、疾病其ノ他己ムヲ得サル事故ニ因リ服務シ難キトキハ陸軍大臣ハ文部大臣ト協議シテ他ノ將校ヲシテ其ノ職務ヲ代理セシムルコトヲ得

附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

第一條又ハ第二條ニ規定スル學校ニシテ大正十四年二月一日以後ニ於テ設立シタルモノニハ當分ノ內將校ヲ配屬セサルコトヲ得

七　官立學校長職務規程（明治四十四年十月總督府訓令第八十三號）改正（大正十年十月第五四號）

第一條　學校長ハ左ノ事項ヲ專行スヘシ

一　部下職員勤務ノ指定

二　部下職員ノ例規請暇及休暇中旅行ノ許否

三　部下職員ノ官吏服務規律ニ依ル願出ノ許否

四　部下職員ノ除服出仕

五　部下職員ノ出張但シ鴨綠江、豆滿江對岸以外ノ外國出張ヲ除ク

六　宿泊ヲ要セサル修學旅行

七　其ノ他輕微ナル事項

專門學校長ハ前項ノ外部下判任官、同待遇職員及囑託員ノ進退、賞與竝部下職員ノ死傷及退官ニ關スル賜金、手當及諸給與ヲ專行スヘシ

第二條　學校長ハ朝鮮總督ノ認可ヲ受ケ左ノ事項ヲ處理スルコトヲ得

一　部下職員ノ勤務規程竝學校細則ノ制定及改廢

二　生徒服制

三　（削除）

四　宿泊ヲ要スル修學旅行

五　生徒募集

六　其ノ他異例又ハ重要事項

第三條　專門學校長ハ部下職員ノ懲罰其ノ他ノ學校長ハ部下職員ノ進退及賞罰ニ關シ其ノ意見ヲ朝鮮總督ニ具申スヘシ

學校長ハ當該學校諸規則ノ制定改廢ニ關シ意見ヲ具申スルコトヲ得

第四條　學校長事故アルトキハ特ニ代理ヲ命シタル場合ヲ除クノ外上席教官其ノ職務ヲ代理ス

第五條　學校長ハ別ニ定ムル報告例ノ外特ニ必要ト認ムル場合ニ於テハ其ノ事項ヲ朝鮮總督ニ報告スヘシ

（大正十二年六月十四日學務局長通牒）

官立學校長職務規程第二條ニ依リ宿泊ヲ要スル修學旅行ハ總テ認可ヲ經テ施行セラルルコトニ相成度候處爾今旅行日程五日以內ノ修學旅行（宿泊ヲ要スル內地及ハ貴官ニ於テ專行セラレ差支ナキコトニ廳議決定致候條御承知相成度依命此段及通牒候也

八　官立學校授業料規則　抄（大正三年三月總督府令第十七號）改正（大正四年三月第三二號）（大正九年四月第五一號）（大正十一年三月第二二號）（大正十三年五月第三一號）

第一條　官立學校ハ左ノ區別ニ依リ授業料ヲ徴收ス

大學豫科	一學年	五十圓	專門學校

第一條ノ一　授業料ハ大學豫科及專門學校ニ在リテハ左ノ三期ニ分納セシメ其ノ他ノ學校ニ在リテハ每月之ヲ納付セシム

		大學豫科	專門學校
第一期	四月一日ヨリ八月三十一日迄	二十圓	十三圓
第二期	九月一日ヨリ十二月三十一日迄	二十圓	十二圓
第三期	一月一日ヨリ三月三十一日迄	十圓	十圓

第四條　大學豫科又ハ專門學校生徒ニシテ休學スル者ノ授業料ハ次期以後ノ分納額ヲ免除ス

休學ノ事故止ミ各分納期ノ半途ヨリ出席シタルトキハ當該期ノ分納額ハ休學一月ニ渉リタル分ニ對シ大學豫科ニ在リテハ一月四圓、專門學校ニ在リテハ一月三圓ノ割合ヲ以テ免除ス（下略）

第五條　授業料ハ出席又ハ出席停止ノ爲減額又ハ免除セス

第六條　既ニ納付シタル授業料ハ過誤納ニ因ル場合ヲ除クノ外之ヲ還付セス

第七條　授業料徴收期日ハ總長又ハ學校長之ヲ定ム但シ大學豫科及專門學校ニ在リテハ各納期ノ最初ノ月ニ於テ之ヲ定ムヘシ

第八條　總長又ハ學校長ハ授業料徴收期日後滯納一月ニ及フ者ニハ出席ヲ停止シ二月ニ及フ者ニハ退學ノ處分ヲ爲スコトヲ得

九　專門學校入學者檢定規程（大正十四年四月總督府令第四十九號）改正（昭和四年二月第四九號）

第一條　本令ニ依リ檢定ヲ受ケタル者ハ專門學校ノ入學ニ關シテハ中學校又ハ修業年限四年ノ高等女學校ヲ卒業シタル者ト同等以上ノ學力ヲ有スルモノトス

第二條　檢定ヲ分チテ試驗檢定及無試驗檢定トス

第三條　試驗檢定ハ每年少クトモ一回之ヲ行フ

試驗檢定ノ出願期限、試驗施行ノ期日及場所ハ豫メ朝鮮總督府官報ヲ以テ之ヲ告示ス

第四條　試驗檢定ノ學科目及其ノ程度ハ中學校又ハ修業年限四年ノ高等女學校ノ各學科目及其ノ卒業程度トス但シ中學校又ハ高等女學校ニ於テ加除シ又ハ課セサルコトヲ得ル學科目ハ之ヲ省ク

第五條　試驗檢定ヲ受ケムトスル者ハ受驗願書（第一號書式）ニ左ノ書類ヲ添ヘ受驗地ヲ管轄スル道知事ヲ經由シ朝鮮總督ニ出願スヘシ

一　履歷書（第二號書式）

二　戸籍抄本

三　寫眞　手札形トシ出願前三月以內ニ脫帽ニテ撮影シタルモノニシテ裏面ニ撮影年月日本籍氏名ヲ記載スヘシ

四　第七條第二項ノ規定ニ依ル證明書ノ寫

五　第八條ノ資格ヲ證明スル書面

第六條　試驗檢定ヲ受ケムトスル者ハ手數料トシテ金七圓ヲ納付スヘシ

第七條　試驗檢定ニ合格シタル者ニハ合格證書(第三號書式)ヲ交付ス

試驗檢定ヲ受ケタル者ニシテ之ニ合格セサルモ受驗學科中合格點ヲ得タルモノアルトキハ其ノ證明書(第四號書式)ヲ交付ス

第八條　前條第二項ノ證明書ヲ有スル者、試驗檢定ノ學科目中一科目又ハ數科目ニ就キ中學校又ハ修業年限四年以上ノ高等女學校卒業者ト同等以上ノ學力ヲ有スルモノト認ムル者及文部大臣ニ於テ專門學校入學者檢定規程ニ依リ試驗檢定ノ學科目中一科目又ハ數科目ノ試驗ヲ免除スル者ニ對シテハ當該學科目ノ試驗ヲ免除ス

第九條　合格證書ヲ有スル者其ノ氏名本籍ヲ變更シ又ハ合格證書ヲ亡失毀損シタルトキハ其ノ書換又ハ再交付ヲ出願スルコトヲ得

前項ノ規定ニ依リ合格證書ノ書換又ハ再交付ヲ出願スル者ハ手數料トシテ金一圓ヲ納付スヘシ

第十條　試驗ニ關シ不正ノ行爲アリタル者ニ對シテハ其ノ試驗ヲ停止ス試驗後發覺シタルトキハ既ニ交付シタル合格證書又ハ證明書ハ其ノ効力ヲ失フ

第十一條　無試驗檢定ハ當該專門學校ニ於テ入學ノ際之ヲ行フ無試驗檢定ヲ受クルコトヲ得ル者ハ朝鮮總督ニ於テ專門學校入學ニ關シ中學校又ハ修業年限四年ノ高等女學校卒業者ト同等以上ノ學力ヲ有スルモノト指定シタル者ニ限ル

前項ノ指定ニ關スル規定ハ別ニ之ヲ定ム

第十二條　本令ニ依リ納付スヘキ手數料ハ收入印紙ヲ用キ之ヲ願書ニ貼付スヘシ其ノ既ニ納付シタル後ハ何等ノ事由アルモ之ヲ還付セス

第十三條　明治三十六年文部省令第十四號ニ依ル試驗檢定又ハ文部大臣ニ於テ之ト同一ノ効力ヲ認メタル試驗檢定ハ本令ニ依ル試驗檢定ト同一ノ効力ヲ有ス　(書式略)

一〇　公立私立實業學校教員タルコトヲ得ル者ノ指定　抄

(大正八年七月文部省告示第百九十二號)　改正(大正十一年第八號)

明治四十年文部省令第二十八號公立私立實業學校教員資格ニ關スル規程第一條第三號ニ依リ指定スルコト左ノ如シ

(明治三十六年二月文部省告示第三十號)　改正(大正十四年三月第一四二號)

一、實業學校ノ教員タルコトヲ得ル者左ノ如シ

官立公立實業專門學校本科卒業者

一一　教員無試驗檢定ニ關スル指定學校名及學科目　抄

教員檢定ニ關スル規程(第七條第一項第一號)ニ依リ無試驗檢定ニ關シ指定スルコト左ノ如シ(大正十一年勅令第十九號朝鮮教育令ニ依ルモノニ限ル)

學校	卒業學科	檢定科目
水原高等農林學校	本科農學科	農業(大正十四年三月告示第百四十二號ヲ以テ本校追加セラル)

一二　私立學校教員資格ニ關スル規程 抄（大正十一年三月 朝鮮總督府令第二十八號）

第一條　私立學校ノ教員ノ資格及員數ニ關シテハ特別ノ規定アルモノヲ除クノ外本令ニ依ル

第六條　中學校、高等普通學校、高等女學校又ハ女子高等普通學校ノ教員ハ左ノ各號ノ一ニ該當スル者タルコトヲ要ス

一　師範學校、中學校、高等女學校又ハ高等學校高等科ノ教員免許狀ヲ有スル者

二　朝鮮總督ノ指定シタル者

第七條　實業學校ノ教員ハ左ノ各號ノ一ニ該當スルモノタルコトヲ要ス

一　文部省令公私立實業學校教員資格ニ關スル規程第一條ニ該當スル者

二　朝鮮總督ノ指定シタル者

（參照）

私立學校教員ノ資格及員數ニ關スル規程ニ依リ私立學校ノ教員タル資格ヲ有スル者左ノ通指定ス（大正十一年三月告示第百五號）

第一條　左ニ揭クル者ハ普通學校ノ教員タル資格ヲ有ス

一　專門學校卒業者（特科又ハ別科ノ卒業者ヲ含ム）

一ノ二　舊朝鮮教育令ニ依ル專門學校卒業者

第二條　左ニ揭クル者ハ普通學校第四學年以下ノ教授ヲ擔任スル教員タル資格ヲ有ス

二ノ二　實業學校卒業者（實業補習學校卒業者ヲ除ク）

三　舊朝鮮教育令ニ依ル實業學校卒業者

第三條　左ニ揭クル者ハ高等普通學校及女子高等普通學校ノ教員タル資格ヲ有ス

一　左ノ學校ヲ卒業シタル者（中、下略）

學校名	擔任學科目
水原高等農林學校	
本科　農學科	動物、植物、化學、農業
本科　林學科	動物、植物、數學
特科　農學科	農業、動物、植物
特科　林學科	動物、植物

一三　文官任用令ニ依ル認定學校 抄（大正十二年二月 文部省告示第三十四號）

大正十一年勅令第十九號朝鮮教育令ニ依ル

中學校	
高等普通學校	
師範學校	
專門學校	

右ハ文官任用令第六條第一號ニ依リ認定ス但シ認定ノ効力ハ專門學校特科生ニ及ハス

（大正七年十月 文部省告示第二百八號）

水原農林專門學校

（參照）

右ハ文官任用令第六條第一號ニ依リ認定ス但シ專門學校令ニ依リ專門學校ニ入學ノ資格ヲ有シ又ハ專門學校入學者檢定試驗ト同

一程度ノ入學試驗ヲ受ケ入學シ卒業シタル者ニ限リ効力ヲ有スルモノトス

（明治四十五年五月　總督府告示第二百四十二號）

明治四十三年勅令第三百九十六號（朝鮮人タル官吏ノ特別任用ニ關スル件）第五條ニ依リ左記學校ヲ京城專修學校又ハ官立普通學校ト同等以上ト認定ス

朝鮮總督府農林學校但シ認定ノ効力ハ本科卒業者ニ限ル

水原農林專門學校

專門學校令ニ依リ設置シタル　專門學校　但シ認定ノ効力ハ三學年以上在學シ卒業シタル者ニ限ル

大正十一年勅令第十九號朝鮮教育令ニ依ル　專門學校ノ特科又ハ別科

一四　朝鮮教育令ニ依リ設置セル學校ノ生徒兒童竝卒業者ノ他ノ學校ヘ入學轉學ニ關スル規程　抄

（大正十二年一月　文部省令第一號）

第四條　朝鮮教育令ニ依リ設置セル實業學校中實業專門學校（中略）ノ生徒並ニ卒業者ハ他ノ學校ヘ入學轉學ノ關係ニ就キ實業學校令ニ依リ設置シタル入學資格、修業年限及種類ノ相當スル學校ノ生徒並卒業者ト同一ノ取扱ヲ受ク

第五條　朝鮮教育令ニ依リ設置セル專門學校ノ生徒並卒業者ハ他ノ學校ヘ入學轉學ノ關係ニ就キ專門學校令ニ依リ設置シタル入學資格、修業年限及種類ノ相當スル學校ノ生徒並卒業者ト同一ノ取扱ヲ受ク

第七條　本令ハ朝鮮教育令附則ノ規定ニ基キ舊令ニ依ルモノニ之ヲ適用セス

一五　兵役法　抄

（昭和二年三月　法律第四十七號）

第四十一條　中學校又ハ中學校ノ學科程度ト同等以上ト認ムル學校ニ在學スル者ニ對シテハ本人ノ願ニ依リ學校ノ修業年限ニ應シ年齡二十七年ニ至ル迄徵集ヲ延期ス

前項ニ規定スル認定及年齡ノ區分ニ關シテハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第一項ノ規定ニ依リ徵集ヲ延期セラレタル者ハ在學ノ事由止ム年又ハ其翌年ニ於テ徵兵檢査ヲ行フ但シ一ノ學校卒業ノ日ヨリ六月以內ニ他ノ學校ニ入學スル者ニ付テハ徵集延期ノ事由尙繼續スルモノト看做ス

第二項ノ年齡ノ區分ニ基ク最高年齡ニ達スルモ在學ノ事由尙止マサル者ハ最高年齡ニ達シタル年又ハ其翌年ニ於テ徵兵檢査ヲ行フ

一六　兵役法施行令　抄

（昭和二年十一月　勅令第三百三十號）

第百條　左ニ揭クルモノハ兵役法第四十一條第一項ノ規定ニ依ル中學校ノ學科程度ト同等以上ト認ムル學校トス但シ研究科、選科等ノ別科ヲ除ク

一　專門學校

二　宮內大臣、文部大臣以外ノ各省大臣、朝鮮總督、臺灣總督、關東廳長官又ハ樺太廳長官ノ所轄學校ニシテ前號ニ揭クル學校ニ準スルモノ

第百一條　兵役法第四十一條第一項ノ規定ニ依リ學校ニ在學スル者ニ付徵集ヲ延期シ得ヘキ年齡左ノ如シ

學校ノ區分	最高年齢
修業年限三年又ハ四年ノ專門學校	二十五年

第三百十五條　法第四十一條第一項ノ規定ニ依リ在學ノ故ヲ以テ初メテ徵集ノ延期ヲ願ハントスル者ハ本籍地ノ聯隊區徵兵官ニ宛テタル左ノ樣式ノ願書ニ學校長（之ニ準スル者ヲ含ム）ノ在學證明書ヲ添ヘ其ノ年ノ四月十五日迄ニ到着スル如ク本籍地ノ市町村長ニ差出スヘシ

第三百十七條　法第四十一條ノ規定ニ依リ既ニ徵集ヲ延期セラレタル者引續キ法第四十一條及令第百條ニ揭ケル學校ニ在學スルトキハ每年新ニ在學スル學校長ノ在學證明書（前條ニ規定スルモノニ準ジ爾後ノ在學ヲ證明シテルモノトス）ノ交付ヲ受ケ四月十五日迄ニ到着スル如ク本籍地ノ市町村長ヲ經テ本籍地ノ聯隊區徵兵官ニ差出スヘシ

正當ノ事由ナク前項ニ規定スル在學證明書ヲ差出ササル者ハ法第四十一條ノ規定ニ依ル徵集延期願出ノ意思ナキ者ト看做シ取扱フ

第三百十八條　法第四十一條及令第百一條竝ニ第三百十五條ノ規定ニ依リ徵集ヲ延期セラレ居ル者其ノ事由止ミタルトキハ（一時事故止屆ヲ差出シタル後全ク事故止ミタル者ヲ含ム）十四日以內ニ書面ヲ以テ本籍地ノ市町村長ヲ經テ本籍地ノ聯隊區徵兵官ニ屆出ツヘシ其ノ屆書ノ樣式ハ第三百三十四條ニ規定スルモノニ準ス

一七　學校醫規則（大正八年四月總督府令第五十九號）

第一條　官公立學校ニ學校醫ヲ置ク

公立學校ニハ特別ノ事情アルトキハ當分ノ內學校醫ヲ置カサルコトヲ得

第二條　學校醫ハ醫師規則ニ依リ醫師ノ免許ヲ受ケタル者ナルコトヲ要ス

第三條　學校醫ハ官立學校ニ在リテハ朝鮮總督、公立學校ニ在リテハ道知事之ヲ囑託ス

第四條　學校醫ノ手當ハ其ノ學校經費ヨリ支給スヘシ

第五條　學校醫ハ每月少クモ一回教授時間內ニ於テ當該學校ニ到リ教室及寄宿舍等ノ衞生上ノ事項ヲ視察シ其ノ要領ヲ視察簿ニ記入スヘシ

視察スヘキ事項ノ概目左ノ如シ

一　換氣ノ良否
二　採光ノ適否
三　室內ノ溫度
四　煖房裝置ノ適否
五　机、腰掛及其ノ排列ノ適否
六　學校淸潔方法實行ノ狀況
七　飮料水ノ良否
八　職員生徒ノ健康狀態
九　前各號ノ外衞生上必要ナル事項

第六條　學校醫ハ學校視察ノ際疾病ニ罹レル職員生徒ヲ發見シタルトキハ其ノ病症ニ依リ缺勤、缺課、休學又ハ治療ヲ爲

サシムヘキコトヲ學校長ニ申告スヘシ

第七條　學校醫ハ學校附近又ハ學校內ニ於テ傳染病發生シタルトキハ學校ニ到リ必要ナル豫防及消毒方法ヲ講シ尙其ノ狀況ニ依リ學校ノ全部又ハ一部ノ閉鎖ヲ必要ト認ムルトキハ之ヲ學校長ニ申告スヘシ

通學生徒ノ住居又ハ其ノ附近ニ傳染病發生シタル場合ニ於テ其ノ通學生徒ノ昇校ヲ禁止スル必要ヲ認ムルトキハ之ヲ學校長ニ申告スヘシ

第八條　學校醫ハ本令ニ規定スルモノノ外學校長ノ請求ニ依リ職員生徒ノ身體檢査其ノ他學校衞生ニ關スル事務ニ從事スヘシ

第九條　學校醫ハ學校衞生上必要ト認メタル事項ニ就キ學校長學校組合管理者又ハ監督官廳ニ意見ヲ述フルコトヲ得

第三　水原高等農林學校規程及規則

一　水原高等農林學校規程

（大正十一年四月府令第五十二號）改正（大正十五年二月第九號）（昭和三年九月第六三號）

第一條　本校ノ修業年限ハ三年トス

第二條　本校ノ學科ヲ分チテ農學科、林學科トス

第三條　本校ノ各學科目及其ノ程度ハ左ノ如シ

農學科

學科目	第一學年 前學期	第一學年 後學期	第二學年 前學期	第二學年 後學期	第三學年 前學期	第三學年 後學期
修身	一	一	一	一	一	一
國語	三	三	二	二	二	二
英語	四	四	三	三	三	三
物理學及氣象學	二	二	二	二	二	二
化學	三	三	一	一	一	一
動物學及昆蟲學	二	二	二	二	二	二
植物學及植物病理學	三	三	三	三	三	三

學科目	第一學年 前學期	第一學年 後學期	第二學年 前學期	第二學年 後學期	第三學年 前學期	第三學年 後學期
修身	一	一	一	一	一	一
國語	三	三	二	二		
獨逸語	四	四	三	三	三	三
數學	四	四				
物理學及氣象學	二	二				

林學科

學科目	第一學年 前學期	第一學年 後學期	第二學年 前學期	第二學年 後學期	第三學年 前學期	第三學年 後學期
(林學大意)	—	—	—	—	—	—
(殖民學)	—	—	—	—	—	—
(教育學)	—	—	—	—	—	—
(行政法大意)	—	—	—	—	—	—
(獨逸語)	—	—	—	—	—	—
(土地改良學)	—	—	—	—	—	—
(數學)	—	—	—	—	—	—
計	二九	二九	三〇	二七	二二	二一
實驗及實習回數	四	四	四(二)(一)(一)	四(五)(一)(四)	四(三)(八)(四)(一)(一)(二)	四(二)(八)(四)(一)(一)(二)(二)

學科目	第一學年 前學期	第一學年 後學期	第二學年 前學期	第二學年 後學期	第三學年 前學期	第三學年 後學期
地質學及土壤學	三	三	三	三	三	三
肥料學	—	—	—	—	—	—
農具論	一	一	—	—	—	—
農業工學	—	—	二	二	二	二
作物學及育種學	二	二	—	—	—	—
園藝學	—	—	—	—	—	—
養蠶學	二	二	—	—	—	—
畜産學	—	—	—	—	—	—
實驗遺傳學	—	—	—	—	—	—
農産製造學	—	—	—	—	—	—
法學通論	—	—	—	—	—	—
經濟學	—	—	—	—	—	—
農業經營學	—	—	—	—	—	—
農政學	—	—	—	—	—	—
體操	三	三	三	三	三	三
(細菌學)	—	—	—	—	—	—
(生理化學)	—	—	—	—	—	—
(家畜飼養學)	—	—	—	—	—	—
(獸醫學大意)	—	—	—	—	—	—

化學	三	三	一	|	|	|
地質學及土壤學	三	三	|	|	|	|
動物學及昆蟲學	二	二	二	二	|	|
森林植物學及樹病學	二	二	二	二	|	|
經濟學	|	|	二	二	|	|
法學通論	|	|	|	|	二	二
林政學	|	|	|	|	二	二
森林法律及森林管理學	|	|	|	|	三	三
森林測量	二	二	二	二	|	|
森林土木及治水學	|	|	|	|	三	三
造林學	一	一	二	二	二	二
森林保護學及狩獵術	|	|	二	二	|	|
森林利用學	|	|	三	三	|	|
林產製造學	|	|	二	二	|	|
森林數學	|	|	二	二	一	一
森林經理學	|	|	|	|	三	三
體操	三	三	三	三	三	三
(英語)	(二)	(二)	(二)	(二)	|	|
(農學大意)	|	|	|	|	(三)	(三)
(財政學)	|	|	|	|	(一)	(一)
(殖民學)	|	|	|	|	|	(二)
(教育學)	|	|	|	|	(一)	(一)
計	三〇	三〇	二九	二八	二三	二三
實驗實習回數	四(二)	四(二)	四(二)	四(二)	四(五)	四(七)
森林演習	|	|	不定時	不定時	不定時	不定時

國語ヲ常用スル者ニハ國語ニ代ヘ朝鮮語ヲ課スヘシ

體操中ノ教練ノ爲行フ野外演習ハ第一項ノ表ノ時數外トス

本表中括弧ヲ附シタルハ選擇科目トシ生徒ニハ其ノ二科目以上ヲ學修セシムルモノトス但シ土地改良學ヲ選擇スル者ニ在リテハ數學ヲ併セ選擇スヘキモノトス

必要アル場合ニ於テハ學校長ハ朝鮮總督ノ認可ヲ受ケ毎週教授時數ヲ增減スルコトヲ得

必要アル場合ニ於テハ學校長ハ休業期間內ニ於テ實驗實習ヲ課シ又ハ特別講義ヲ聽カシムルコトヲ得

學校長ハ季節ニ依リ各學科目ノ一學年間ニ於ケル教授時數ノ總計ヲ增減セサル範圍內ニ於テ毎週教授時數ヲ變更スルコトヲ得

第四條　各學科目中ノ一科目又ハ數科目ヲ選擇專修セムトスル者ハ選科生トシテ其ノ入學ヲ許可スルコトヲ得

第五條　本校卒業者ニシテ更ニ既修ノ學科目ニツキ研究セムトスルモノハ研究生トシテ二年以內之ヲ在學セシムルコトヲ得

第六條　本校ニ特科ヲ置クコトヲ得

特科ニ關スル規程ハ朝鮮總督ノ認可ヲ受ケ學校長之ヲ定ムヘシ

附　則

本令ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

水原高等農林學校規程ハ之ヲ廢止ス

朝鮮教育令第二十九條第二項ノ規定ニ依リ舊令ニ依リタル水原農林專門學校ノ生徒ニ對シテハ其ノ學科目及程度ハ仍舊令ニ依リ又ハ本令ヲ斟酌スルコトヲ得

附　則（大正十五年府令第九號）

本令ハ大正十五年二月八日ヨリ之ヲ施行ス

二　水原高等農林學校學則（昭和四年四月十三日改正認可）　改正（昭和五年十二月九日）

第一章　學年、學期及休業日

第一條　學年ハ四月一日ニ始リ翌年三月三十一日ニ終ル

第二條　學年ヲ分チテ二學期トシ前學期ハ四月一日ヨリ九月三十日ニ至リ後學期ハ十月一日ヨリ翌年三月三十一日ニ至ル

第三條　休業日ハ左ノ如シ

一　日曜日

一　祝日、大祭日

一　春季休業（自四月一日至四月七日）

一　開校記念日（四月十五日）

一　夏季休業（自七月十五日至八月三十一日）

一　朝鮮總督府始政記念日（十月一日）

一　冬季休業（自十二月二十五日至一月二十五日）

特別ノ必要アル場合ハ朝鮮總督ノ認可ヲ得テ臨時休業ヲ爲スコトアルベシ

第二章　入學、在學、休學及退學

第四條　入學ノ期ハ學年ノ始ヨリ三十日以內トス

第五條　本校第一學年ニ入學ヲ許可スベキ者ハ品行方正志望鞏固ナル男子ニシテ左ノ各號ノ一ニ該當シ且入學檢定ニ合格シタル者トス

一　中學校又ハ高等普通學校卒業者

二　實業學校卒業者但シ專門學校入學者檢定規程第十一條ニ依リ朝鮮總督ノ指定シタル者ニ限ル

三　專門學校入學者檢定規程ニ依ル檢定合格者

前項第一號及第二號ニ該當スル學校在學者ニシテ其ノ年ノ三月末日迄ニ卒業ノ見込アル者ハ當該學校長ノ證明ヲ得テ入學ヲ出願スコトヲ得

第六條　入學檢定ハ學力檢定身體檢査口頭試問竝從來ノ學業成績及性行ノ考査ニ依リ之ヲ行フ學力檢定ヲ分チテ試驗檢定及無試驗檢定トス

第七條　試驗檢定ハ中學校又ハ高等普通學校卒業程度ニ依リ之ヲ行フ其ノ試驗學科目ハ生徒募集ノ都度之ヲ公示ス

第八條　無試驗檢定ヲ受クルコトヲ得ル者ハ第五條第一項第一號該當者及第二號該當者中農業學校卒業者又ハ第二項該當者中中學校、高等普通學校、農業學校在學者ニシテ最近三箇年ヲ通ジ操行優良學業成績優秀ニシテ當該學校長ノ推薦シタルモノタルベシ

前項ニ依ル卒業者ニ在リテハ卒業ノ翌年度ヲ經過セサルコトヲ要ス

第九條　無試驗檢定ニ依リ入學ヲ許可スベキ人員ハ各學科募集人員ノ五分ノ一以內トス

無試驗檢定出願者ニシテ選拔ニ洩レタル者ハ試驗檢定ニ應スルコトヲ得

第十條　入學志願者ハ左ノ書類ニ入學檢定料及寫眞（出願前三ケ月以內ニ撮影シタル脫帽半身手札形臺紙ナシ）ヲ添ヘ本校ニ差出スベシ

一　入學願書（第一號書式）（用紙ハ本校ヨリ交付ス）

二　當該學校長ノ卒業證明書又ハ卒業見込證明書（卒業シタル場合ニハ遲滯ナク更ニ卒業證明書ノ提出ヲ要ス）若ハ專門學校入學者試驗檢定合格證書寫（當該學校長ヨリ直接本校ニ送付スルモノトス）

三　在學中ノ學業成績證明書及性行調查書（第二號書式）及戶籍謄本ヲ差出スベシ

四　身體檢查書（用紙ハ本校ヨリ交付ス）

入學檢定料ハ金五圓トス但シ納付後ハ如何ナル事由アルモ之ヲ返付セズ

第十一條　入學ヲ許可セラレタル者ハ四月三十日迄ニ保證人連署ヲ以テ誓書（第三號書式）及戶籍謄本ヲ差出スベシ

第十二條　保證人ハ本人ノ父兄、後見人若ハ身元確實ナル成年以上ノ男子ニシテ保證人ノ責務ヲ盡スニ堪ユル者タルベシ

學校長ハ保證人ヲ不適當ナリト認メタルトキハ之ガ變更ヲ命ズルコトアルベシ

第十三條　保證人死亡シ又ハ其ノ變更ヲ命ゼラレ若ハ之ヲ變更セムトスルトキハ更ニ保證人ヲ定メ速ニ誓書ヲ差出スベシ

第十四條　生徒又ハ保證人ニシテ改姓、改名、改印、轉籍、轉居ヲ爲シタルトキハ速ニ屆出ツベシ但シ生徒ノ改姓、改名、轉籍ノ屆出ニハ戶籍謄本ヲ添附スルヲ要ス

第十五條　生徒ハ學校長ノ許可ヲ得ルニ非ザレバ他ノ學校ニ入學シ又ハ他ノ學校若ハ官署ニ於ケル各種ノ試驗ニ應ズルコトヲ得ズ

前項ノ許可ヲ受ケムトスル者ハ其ノ事由ヲ具シ保證人連署ヲ以テ願出ヅベシ

第十六條　疾病其ノ他ノ事故ニ因リ缺席セムトスル者ハ其ノ事由ヲ具シ屆出ヅベシ但シ疾病ノ爲缺席五日以上ニ亘ルトキハ醫師ノ診斷書ヲ添附スベシ

第十七條　疾病其ノ他ノ事故ニ因リ引續キ三箇月以上修學スルコト能ハザルトキハ保證人連署ヲ以テ學校長ニ願書ヲ差出シ許可ヲ受ケ一箇年以內休學スルコトヲ得但シ疾病ノ場合ハ醫師ノ診斷書ヲ添附スベシ

第十八條　休學ヲ許可セラレタル者ハ期間滿了後直ニ原學年ニ復スルモノトス但シ休學期間中ト雖其ノ事由消滅シタルトキハ願ニ依リ休學ヲ解除スルコトアルベシ

第十九條　生徒兵役ニ服スルトキハ其ノ期間ヲ休學トシ服務滿了後直ニ原學年ニ復セシム

第二十條　疾病其ノ他ノ事故ニ因リ退學セムトスルトキハ其ノ事由ヲ具シ保證人連署ヲ以テ學校長ニ願出ヅベシ但シ疾病ノ場合ハ醫師ノ診斷書ヲ添附スベシ

第二十一條　願ニ依リ退學シタル者再入學ヲ願出ヅルトキハ試驗ヲ行ヒ入學期ニ於テ原學年以下ニ入學ヲ許可スルコトアルベシ但シ場合ニ依リ試驗ノ一部若ハ全部ヲ省略スルコトアルベシ

試驗ヲ行ヒタルトキハ入學檢定料（金五圓）ヲ徵收ス

第二十二條　左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ學籍ヲ除ク

一　性行不良ニシテ改善ノ見込ナシト認メタル者
二　學力劣等ニシテ成業ノ見込ナシト認メタル者
三　正當ノ事由ナク引續キ一箇月以上缺席シタル者
四　正當ノ事由ナク屢々遲刻缺席シ出席常ナラザル者

第三章　賞　罰

第二十三條　品行方正ニシテ學業優良ナル者其ノ他其ノ行爲他ノ模範ト爲スニ足ルト認メタル者ハ之ヲ褒賞スルコトアルベシ

第二十四條　校規、命令ニ違背シ其ノ他生徒タルノ本分ヲ失ヘリト認ムベキ行爲アリタル者ハ之ヲ懲戒スル

懲戒ヲ分チテ戒飭、停學及放校トス

第四章　試驗、進級、卒業及稱號

第二十五條　試驗ヲ分チテ臨時試驗及學期試驗トス

臨時試驗ハ教官ニ於テ必要ト認ムル場合隨時ニ之ヲ行ヒ學期試驗ハ各學期末ニ於テ之ヲ行フ

第二十六條　疾病又ハ已ヲ得ザル事故ニ因リ試驗ニ缺席シタル者ニハ願出ニ依リ追試驗ヲ許可スルコトアルベシ

第二十七條　各學年課程ノ修了ハ該學年ニ於ケル各學科目、實習、實驗ノ成績及操行ヲ考査シテ之ヲ定ム

第二十八條　前條ノ考査ニ合格セザル者ハ次學年ノ始ヨリ原學年ノ課程ヲ再修セシム但シ場合ニ依リ詮議ノ上假進級ヲ爲サシメ再考査ヲ行ヒ進級セシムルコトアルベシ

第二十九條　一學年間ヲ通シ百日以上缺席シタル者ハ進級又ハ卒業スルコトヲ得ズ

第三十條　第三學年ノ後學期ニ於テ研鑽論文ヲ提出セシメ又ハ卒業試問ヲ行フ

研鑽論文及卒業試問ニ關スル細則ハ別ニ之ヲ定ム

第三十一條　第三學年ノ課程ヲ修了シ研鑽論文又ハ卒業試問ニ合格シタル者ニハ卒業證書(第四號書式)ヲ授與ス

第三學年ノ成績考査ニ合格セザル者ニハ本人ノ希望ニ依リ詮議ノ上修業證書(第五號書式)ヲ授與スルコトアルベシ

前項ニ依リ修業證書ヲ授與セラレタル者ニ對シテハ再考査ヲ行ヒ卒業證書ヲ授與スルコトアルベシ

第三十二條　試驗及成績考査ニ關スル細則ハ別ニ之ヲ定ム

第三十三條　本校農學科卒業者ハ水原高等農林學校農學士、林學科卒業者ハ水原高等農林學校林學士ト稱スルコトヲ得

水原農林專門學校卒業者又ハ舊令ニ依ル本校卒業者ニシテ自著ノ論文ヲ當校ニ提出シテ審査ヲ受ケ合格シテ認可ヲ得タルモノハ水原高等農林學校農學士又ハ水原高等農林學校林學士ト稱スルコトヲ得

第五章　服　制

第三十四條　生徒ニハ制服、制帽ヲ着用セシム其ノ樣式別表ノ如シ

第六章　選科生及研究生

第三十五條　選科生ハ教授上差支ナキ場合ニ限リ學年ノ始ニ於テ資格詮衡ノ上入學ヲ許可スルモノトス

第三十六條　選科生ニシテ修學中ノ成績優良ナリト認メタル者ニハ修了證書ヲ授與ス

第三十七條　研究生タラムトスル者ハ其ノ研究セムトスル事項及在學期間ヲ具シタル願書ヲ學校長ニ提出スベシ

第三十八條　研究生ハ在學期間ノ終ニ於テ研究報文ヲ作リ指導教官ヲ經テ之ヲ學校長ニ提出スベシ

第三十九條　研究報文ノ成績適當ナリト認メタル者ニハ研究證書ヲ授與ス

第四十條　選科生及研究生ニ關シテハ別ニ定ムルモノ、外本科生ニ關スル規定ヲ準用ス

第七章 授業料

第四十一條 授業料ハ左ノ期日内ニ納付スベシ

第一期 四月三十日限 （十三圓）

第二期 九月三十日限 （十二圓）

第三期 一月三十一日限 （十 圓）

第八章 寄宿寮

第四十二條 本校ニ寄宿寮ヲ設ク

寄宿寮ニ關スル細則ハ別ニ之ヲ定ム

書式

（第一號書式）

入學願書

志望學科	第一	學科
	第二	學科
戸主職業		
戸主氏名		
戸主トノ續柄		
氏名（片假名付）		
年 月 日生		

受驗番號	農林第 號	※

本籍				
出身學校				※
※學業成績性行	第一學年 平坪點	學年席次／性行		
	第二學年 平均點	學年席次／性行		
	第三學年 平均點	學年席次／性行		
受信地	受驗前			
	受驗後			
履歷	學業			
	業務			
	兵役			
	賞罰			

私儀御校 學科第一學年ニ入學致度候ニ付試驗（無試驗）檢定ノ上入學御許可相成度此段相願候也

年 月 日

右 氏名 ㊞

朝鮮總督府水原高等農林學校長氏名殿

（注意）

一 總テペン、黒インキヲ用ヒ楷書ニテ自書スベシ、記事ナキ欄ニハ「ナシ」ト記スベシ

二 學業、小學校又ハ普通學校ノ分ハ省略シ其ノ他年月日順ニ入學退學卒業等ノ年月日及學校名ヲ記入スベシ

實業學校ニ在リテハ科名ヲモ記入スベシ

三 業務、就職、退職ノ年月日等ヲ詳記スベシ

四 現職ニ在ル者ハ其ノ長ノ受驗認可證ヲ添附スベシ

五 ※印ノ分ハ記入スベカラズ

六 用紙ハ此上折ルベカラズ

（第二號書式）

身體檢査書

氏名　年　月　日生

檢査年月日			
身長		體重	
胸圍	常時	發育概評	
	盈虛ノ差		
營養		脊柱	
視力及屈折狀態	左 右	色神	
眼疾		聽力障害	
耳疾		齒牙齲齒	
其ノ他疾病異常		監察ヲ要スル事項	
檢査醫住所氏名		學校醫　氏名㊞	

（注　意）

一　本書ハ出願前三箇月以内ニ檢査シタルモノタルヲ要ス

二　本書ハ志願者各自ガ卒業又ハ在學中ノ學校醫ノ檢査ニ係ルモノタルベシ但シ己ヲ得ザル場合ニハ他ノ醫師ノ檢査ニ係ルモノニテモ差支ナシ

三　本書ハ此上折ルベカラズ

（第三號書式）

三錢收入印紙㊞

誓書

私儀

今般御校ヘ入學許可相成候ニ就テハ校規命令及訓育ノ御趣旨ヲ遵守シ專心勉學可致ハ勿論猥ニ退學致間敷此段誓約候也

年　月　日

本籍

氏名㊞

年　月　日生

右（何某）御校ヘ入學許可相成候ニ就テハ前文ノ誓約堅ク履行爲致候ハ勿論退學後ト雖本人在學中ニ係ル一切ノ事項ハ拙者ニ於テ引受可申此段保證候也

年　月　日

本籍

現住所
職業　生徒トノ間柄　保證人　氏　名㊞
年　月　日生

朝鮮總督府水原高等農林學校長氏　名殿

（第四號書式）

卒業證書

學校印

右者本校所定ノ何學科課程ヲ履修シ正ニ其ノ業ヲ卒ヘタリ仍テ之ヲ證ス

年　月　日

學校印

氏　名

第何號

（第五號書式）

修業證書

右者本校所定ノ何學科第何學年ノ課程ヲ履修セリ仍テ之ヲ證ス

年　月　日

學校印

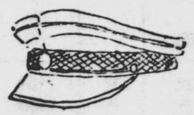
朝鮮總督府水原高等農林學校長位勳學位氏　名

第何號

學校服制

名稱	地質	制式	徽章	釦
帽	黒絨	圓形黒革製前庇及幅四分ノ黒革製顎紐ヲ附ス樣式如圖	前章ハ縱九分五厘横八分五厘ノ金屬製樣式如圖	
衣	紺絨但シ夏ハ紺セル略服ハ綿絨小倉地	立襟一行釦袖口釦二個ヲ附ス樣式如圖	左襟農學科A林學科F右襟ニ第一學年生ハI第二學年生ハII第三學年生ハIIIノ金字ヲ附ス	徑七分金色桐章ニ金色Aノ字ヲ表ス樣式如圖
袴	衣ニ同シ	普通長袴樣式如圖		
外套	衣ニ同シ	折襟四個一行ノ釦シ左右ノ腰部ニ各一個附シ袖口釦二個ヲ附ス樣式如圖		

帽子

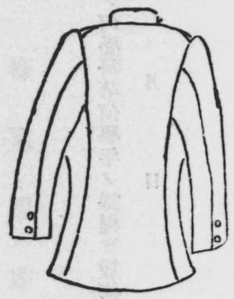


略帽
麥藁帽子
鉢巻黒
繩子
鉢巻ハ一文字形

釦上面

釦側面

上衣背面



上衣前面

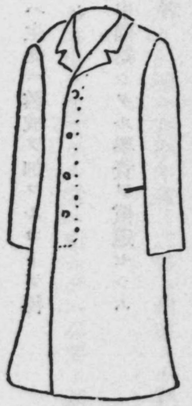
袴

徽章

外套背面

外套頭巾

外套前面



三　附置實業補習學校教員養成所規程

（昭和二年七月府令第七十號）

第一條　水原高等農林學校附置實業補習學校教員養成所ハ實業補習學校ノ教員タルベキ者ヲ養成スル所トス

第二條　本所ノ修業年限ハ一年トス

第三條　本所ノ學科目ハ修身、教育、法制經濟、農業法規、作物學、園藝學、病蟲害論、農藝化學、畜産學、養蠶學、農業工學、林業、農業經營學、農政學及實驗實習トス

第四條　學科課程及毎週授教時數ハ學校長之ヲ定メ朝鮮總督ノ認可ヲ受クベシ

第五條　本所ニ入學スルコトヲ得ル者ハ左ノ各號ノ一ニ該當スルモノトス

一　尋常小學校卒業程度ヲ以テ入學資格トスル修業年限五年以上ノ農業學校又ハ之ト同程度ノ農業學校ノ卒業者ニシテ師範學校演習科ヲ卒業シタル者

二　師範學校卒業者（師範學校特科ノ卒業者ヲ除ク）又ハ之ト同等以上ノ學力ヲ有シ一年以上實業科ノ教育ニ從事シタル

三　第一號ニ掲クル農業學校ノ卒業者ニシテ一年以上小學校又ハ普通學校ノ訓導ノ職ニ在リタル者

第六條　入學ノ期ハ毎學年ノ始トス

第七條　學年ハ四月一日ニ始リ翌三月三十一日ニ終ル

第八條　學校長ハ全學科ノ卒業ヲ認メタル者ニハ卒業證書ヲ授與ス

第九條　學校長ハ成業ノ見込ナシト認メタル者及性行不良ナル者ニハ退學ヲ命ズルコトアルベシ

第十條　生徒ハ自己ノ便宜ニ因リ退學スルコトヲ得ズ但シ已ムコトヲ得ザル事由ニ因リ學校長ノ許可ヲ受ケタルトキハ此ノ限ニ在ラズ

第十一條　學校長ハ教育上必要ト認メタルトキハ生徒ニ懲戒ヲ加フルコトヲ得

第十二條　生徒ニハ學資ヲ補給スルコトアルベシ

第十三條　左ノ各號ノ一ニ該當スル者ニハ在學中補給シタル學資ヲ償還セシム

一　第九條ノ規程ニ依リ退學ヲ命ゼラレタル者

二　第十條但書ノ規定ニ依リ退學シタル者但シ情狀ニ依リ其ノ全部又ハ一部ノ償還ヲ免除ススコトアルベシ

第十四條　本所卒業者ハ卒業證書受得ノ日ヨリ引續キ一年間朝鮮總督ノ指定ニ從ヒ其ノ職ニ從事スル義務ヲ有ス

第十五條　本所卒業者ハ前條ノ指定ヲ受ケタル日ヨリ引續キ在學年數ノ二倍ニ相當スル期間朝鮮內ニ於テ教育ニ關スル職務ニ從事スル義務ヲ有ス

第十六條　前條ノ服務義務ヲ履行スルコト能ハザル事由ヲ生ジタル者ニ對シテハ必要ト認ムル期間內ノ服務義務ヲ猶豫シ又ハ之ヲ免除スルコトアルベシ

第十七條　第十五條ノ服務期間內ニ於テ左ノ各號ノ一ニ該當スル者アルトキハ其ノ在學中補給シタル學資ヲ償還セシム但シ第三號ノ場合ニ於テハ情狀ニ依リ其ノ全部又ハ一部ノ償還ヲ免除スルコトアルベシ

一　正當ノ事由ナクシテ服務ヲ履行セザルトキ

二　懲戒免官若ハ懲戒免職ニ處セラレ又ハ私立學校規則第十四條ノ處分ヲ受ケタルトキ

三　前條ノ事由ニ因リ服務義務ヲ免除セラレタルトキ

第十八條　本所ニ關スル細則ハ學校長之ヲ定ム

附　則

本令ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス但シ昭和二年度ニ限リ第二條、第六條及第七條ノ規定ニ依ラザルコトヲ得

昭和二年度ノ卒業者ニ限リ第十五條ノ規定ノ適用ニ付テハ其在學期間ハ之ヲ一年ト看做ス

四　附置實業補習學校教員養成所學則

（昭和二年七月十六日制定認可）　改正（昭和三年一月十九日）

第一條　學年ヲ分チテ二學期トシ前學期ハ四月一日ヨリ九月三十日ニ至リ後學期ハ十月一日ヨリ翌年三月三十一日ニ至ル

第二條　休業日ハ左ノ如シ但シ休業中ト雖實驗實習ヲ課シ又ハ特別講義ヲ聽カシムルコトアルベシ

一　祝日、大祭日
二　日曜日
三　朝鮮總督府始政記念日
四　開所記念日（八月五日）
五　水原高等農林學校開校記念日（四月十五日）
六　冬季休業日（自十二月二十五日　至翌年一月七日）

第三條　學科目課程及每週教授時數ハ左ノ如シ

學科目	課程	前學期教授時數	後學期教授時數
修身	國民道德ノ要旨、倫理學一般	一	一
教育	補習教育論、農業教授法	一	一
法制經濟	憲法及行政法大意、經濟學一般	一	一
作物學	栽培汎論、普通作物、特用作物、育種	四	三
園藝學	蔬菜、果樹、花卉、造庭一般	二	二
病蟲害論	作物及樹木ノ病蟲害一般	一	一
農藝化學	土壤、肥料、農產製造	二	二
畜產學	畜產、畜產製造、家畜飼養	二	二
養蠶學	養蠶、桑桑、製絲	一	一
農業工學	農具、農業水利、氣象	二	二
林業	林業一般、造林、森林保護、森林利用	四	四
農業經營學	農業一般、農業經濟、農業經營	一	一
農政學及農業法規	農業政策、農業法規	二	二
計		二四	二四
實驗實習		五回	五回

季節實驗及實習ノ都合ニ依リ各學科目ノ修業期間ニ於ケル教授時數ノ總計ヲ增減セザル範圍內ニ於テ適宜每週教授時數ヲ變更スルコトアルベシ

第四條　七月十五日ヨリ八月三十一日ニ至ル間ハ教授時數ヲ短縮シ又ハ實驗實習ノミヲ課スルコトアルベシ

第五條　入學セシムベキ生徒數、出願期日、選拔方法等ハ其ノ都度之ヲ公告ス

第六條　本所ニ入學セムトスル者ハ入學願書、履歷書、身體檢查票（第一號書式）ニ學業成績及性行調查書並戶籍謄本ヲ添附シ學校長ニ差出スベシ

第七條　入學ヲ許可セラレタル者ハ保證人ノ連署ヲ以テ第二號書式ノ誓約書ヲ學校長ニ差出スベシ

保證人ヲ變更シタルトキハ前項ニ依リ更ニ誓約書ヲ差出スベシ

第八條　保證人ハ本人ノ父兄後見人若ハ本人ト確實ナル緣故アル成年以上ノ男子ニシテ保證人ノ責務ヲ盡スニ堪ユル者タルベシ

ルベシ

學校長ハ保證人ヲ不適當ト認メタルトキハ之ガ變更ヲ命ズルコトアルベシ

第九條　保證人ノ住所氏名ヲ變更シタルトキハ直ニ學校長ニ屆出ヅベシ

第十條　疾病其ノ他已ヲ得ザル事由ニ因リ退學セムトスル者ハ其ノ事由ヲ具シ保證人連署ヲ以テ學校長ニ願出ヅベシ但シ疾病ノ場合ハ醫師ノ診斷書ヲ添附スルヲ要ス

第十一條　左ノ各號ノ一ニ該當スルモノハ退學ヲ命ズ

一　性行不良ニシテ改善ノ見込ナシト認メタル者

二　學力劣等ニシテ成業ノ見込ナシト認メタル者

三　正當ノ事由ナクシテ引續キ一箇月以上缺席シタル者

四　出席常ナラザル者

第十二條　生徒ノ卒業ハ操行及學業ノ成績ヲ考査シテ之ヲ定メ第三號書式ノ卒業證書ヲ授與ス學業成績ハ平素並試驗ノ成績ニ依ル

試驗ニ付テハ別ニ之ヲ定ム

第十三條　品行方正ニシテ學力優等ナル者ハ之ヲ褒賞スルコトアルベシ

第十四條　生徒タルノ本分ヲ失シ不都合ノ行爲アル者ハ其ノ輕重ニ從ヒ譴責、謹愼、停學又ハ放校ニ處ス

第十五條　生徒ニハ毎年度ノ豫算額ニ基キ學資トシテ毎月一定ノ金額ヲ補給スルコトアルベシ

第十六條　生徒ノ缺席全月ニ及ブトキハ其ノ月ノ學資ヲ補給セズ

第十七條　授業料及入學檢定料ハ之ヲ徵收セズ

第十八條　生徒ニハ制服制帽ヲ着用セシム其ノ樣式ハ之ヲ定ム（昭和二年十月二十日制定認可）

（第一號書式）

入學願書

私儀貴校附置實業補習學校教員養成所ニ入學致度候ニ付御許可相成度此段相願候也

本籍

族稱並家業　（戶主氏名及戶主ト本人トノ續柄（次三男、兄弟等））

戶主ノ住所

在學若ハ出身學校學科

現奉職學校

本人ニ於テ通信ヲ受クベキ場所

年　月　日

（氏名ニハ片假名ヲ付スベシ）

氏名㊞

年　月　日生

朝鮮總督府水原高等農林學校長殿

履歷（就學以後ノ學業賞罰及出身學校卒業後ノ經歷等ヲ記載スベシ）

年月日	履歷事項
	身體檢査票　年　月　日檢査
	姓名
	生年月日

身長										
體重										
胸圍	常時									
	盈虛差									
脊柱										
體格										
視力	左									
	右									
色神										
眼疾										
聽力										
耳疾										
言語										
齒牙	上顎齲齒數									
	下顎齲齒數									
既往及現在ノ疾病										
本人ニ對スル注意										

（第二號書式）

誓約書

（氏名）儀入學許可相成候ニ付テハ在所中御規定等遵守シ勉學スルハ勿論卒業後ハ服務義務ヲ履行シ萬一學資ノ償還ヲ命セラレタル場合ハ連帶ニテ辨償致スベク仍テ保證人連署ヲ以テ誓約候也

年　月　日

本籍
住所
戶主氏名及本人トノ續柄

本籍
住所
職業

朝鮮總督府水原高等農林學校長殿

檢査醫氏名印

（第三號書式）

卒業證書

本人氏名㊞

保證人氏名㊞

年　月　日生

學校印

氏　名

右者本校附置實業補習學校教員養成所ノ課程ヲ卒業セリ仍テ之ヲ證ス

年　月　日

割印

朝鮮總督府水原高等農林學校長位勳學位　氏　名　學校長印

（參照）

生徒服制（昭和二年十月二十日制定認可）

名稱	地質	制式	徽章	釦
帽	黑絨	圓形眼庇黒革製及幅七分ノ黒革頤紐並黒色綾織ノ帶布ヲ附ス樣式圖ノ如シ	前章ハ縱一寸三分横一寸一分五厘ノ金屬製金色ニシテ稻ノ抱合ニ實教ノ文字ヲ表ス	
略帽		黒リボン付麥藁帽副章ヲ左側結目ニ附ス樣式圖ノ如シ	副章ハ縱六分五厘横五分五厘ニシテ其ノ他ハ前章ニ同シ	
上衣	黒絨　但シ夏ハ紺セル	立襟一行釦五個袖口二個ヲ附ス		徑七分金色、稻ノ抱合ニ實教ノ文字ヲ表ス樣式圖ノ如シ
袴	上衣ニ同ジ	普通長袴樣式圖ノ如シ		
外套	黒絨	折襟四個一行ノ隱シ釦ヲ附シ左右腰部ニ各一個ノ物入及袖口釦二個ヲ附ス樣式圖ノ如シ頭巾緒付樣式圖如シ		

靴

黒革製

帽子

略帽

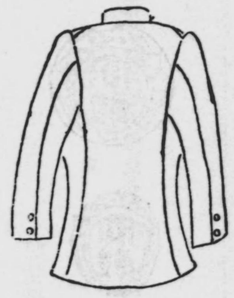
徽章

釦

副章

上衣前面

上衣背面



外套頭巾

外套前面

外套背面

袴

五　附置實業補習學校學則

（昭和四年四月二十六日制定認可）

第一章　總　則

第一條　本校ハ實業學校規程及實業補習學校規程ニ依リ農業ニ從事スル者ニ對シ農業ニ關スル知識技能ヲ授クルト共ニ國民生活ニ須要ナル教育ヲ施スヲ以テ目的トス

第二條　修業年限ハ二箇年トス

第二章　學科課程

第三條　學科課程及毎週授業時數ヲ定ムルコト左ノ如シ

第一學年			第二學年	
學科	課程	毎週授業時數	課程	毎週授業時數
修身	道徳ノ要旨	一	公民ノ心得	一
國語	講讀、作文、習字	六	講讀、作文	三
算術	筆算、珠算	三	實用算術	二
理科	理科大要	二		
農業	稻、麥、大豆、桑蠶等	六	蔬菜、養牛、養豚、養蠶造林、農家經濟等	一二
計		一八		一八
實習	不定時		不定時	

第三章　學年、學期、授業及休業

第四條　學年ハ四月一日ニ始リ翌年三月三十一日ニ終ル

第五條　學年ヲ分チテ左ノ二學期トス

前學期　自四月一日　至十月三十一日

後學期　自十一月一日　至翌年三月三十一日

第六條　前學期ハ主トシテ家庭實習ヲ課ス

第七條　授業始終ノ時刻ハ學校長之ヲ定ム

第八條　休業日ハ左ノ如シ

一　祝日、大祭日

一　日曜日

一　朝鮮總督府始政記念日

一　開校記念日(六月十七日)

一　冬季休業　自十二月二十六日　至翌年一月十四日

一　學年末休業　自三月二十六日　至三月三十一日

學校長必要ト認ムルトキハ休業日ト雖授業ヲ課スルコトアルベシ

第四章　入學、退學、卒業、褒賞及懲戒

第九條　入學期ハ四月一日トス

第十條　本校ニ入學スルコトヲ得ル者ハ年齡十二年以上ノ男子ニシテ尋常小學校若ハ修業年限六箇年ノ普通學校ヲ卒業シタル者又ハ之ニ準ズル者トス

第十一條　入學志願者ハ親權者又ハ後見人ヨリ左ノ書式ニ依ル入學願書ヲ學校長ニ差出スベシ

入學願書

何郡何面何洞又ハ里何番地

何業　某何男　氏　名

年　月　日生

右者御校附置實業補習學校何學年ニ入學致サセ度候ニ付御許可相成度此段及御願候也

年　月　日

右親權者(後見人)　氏　名㊞

水原高等農林學校長氏名殿

履歷ノ大要

一　何年何月何日何々尋常(高等)小(普通)學校卒業

一　何々

第十二條　退學セムトスルトキハ其ノ理由ヲ具シ親權者又ハ後見人ヨリ學校長ニ出願スベシ

第十三條　本校ノ課程ヲ卒業シタル者ニハ左ノ書式ニ依ル卒業證書ヲ授與ス

卒業證書

校印

本校附置實業補習學校ノ課程ヲ卒業セリ仍テ之ヲ證ス

年　月　日

水原高等農林學校長位勳位氏名印

第　號

氏　名

第十四條　成績特ニ優秀ナル者又ハ奇特ノ行爲アリタル者ハ之ヲ褒賞スルコトアルベシ

第十五條　性行不良ニシテ改善ノ見込ナキ者ニハ退學ヲ命ズルコトアルベシ

第四　水原高等農林學校細則

一　處務細則

（大正十五年十月十三日制定　昭和三年四月一日認可）（昭和三年四月一日ヨリ實施）

第一章　總則

第一條　校務ヲ處理スル爲本校ニ庶務課、教務課、生徒課、圖書課、農學部及林學部ヲ置ク

農學部ニ實驗農場、林學部ニ演習林及林學實習場ヲ附屬セシム

第二條　各課ニ課長、各部ニ部長、實驗農場、演習林及林學實習場ニ各其ノ長ヲ置ク

第三條　庶務課長ハ書記ノ中ヨリ教務課長、圖書課長、部長、實驗農場長、演習林長及林學實習場長ハ教官ノ中ヨリ生徒課長ハ生徒監ノ中ヨリ校長之ヲ命ス

第四條　校務ハ總テ學校長ノ決裁ヲ經ルニ非サレハ施行スルコトヲ得ス但シ事ノ輕易ニシテ先例アルモノハ主管者ニ於テ專行スルコトヲ得

第五條　主管者ハ其ノ名ヲ以テ相互ニ文書ノ往復ヲ爲スコトヲ得

第六條　主管者ハ學校長ノ命ヲ承ケ所管事務ヲ掌理シ所屬職員ノ勤怠ヲ監督シ意見アルトキハ學校長ニ具申スヘシ

第七條　主管者事故アルトキハ所屬首席者其ノ事務ヲ代理ス但シ時宜ニ依リ特ニ代理ヲ命スルコトアルヘシ

第八條　所屬ノ職員ハ上官ノ指揮ヲ承ケ事務ヲ處理シ取扱事項ニ關シ其ノ責ニ任ス

第九條　主管事務ニシテ他ノ所屬ト關聯スルモノハ之ヲ合議スヘシ

第十條　事務ノ所屬不明ナルトキハ學校長ノ指揮ヲ承ケ之ヲ處理スヘシ

第二章　分掌

第十一條　庶務課ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル

一　御眞影及勅語謄本奉安ニ關スル事項
二　官印ノ保管及使用ニ關スル事項
三　公文書類ノ接受、審議、發送及整理保管ニ關スル事項
四　發送文書ノ淨書ニ關スル事項
五　儀式ニ關スル事項
六　記錄ノ編纂及保存ニ關スル事項
七　主管者會議ニ關スル事項
八　職員及雇員以下ノ進退、賞罰、服務等ニ關スル事項
九　敍位及敍勳ニ關スル事項
十　規則ノ制定、改廢及命令傳達ニ關スル事項
十一　宿直ニ關スル事項
十二　校舍內外ノ洒掃衞生ニ關スル事項
十三　歲入歲出豫算ニ關スル事項

十四　金錢ノ出納及保管ニ關スル事項
十五　物品ノ出納及保管ニ關スル事項
十六　官有財產及賣金ノ保管ニ關スル事項
十七　建物及校地ノ警備取締ニ關スル事項
十八　官舍ニ關スル事項
十九　不用品ノ處分ニ關スル事項
二十　生產品ノ處分ニ關スル事項
二十一　電燈、電話及電鈴等ニ關スル事項
二十二　他ノ主管ニ屬セサル一切ノ事項

第十二條　教務課ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル

一　教室、教具及教材ノ設備整頓保管ニ關スル事項
二　授業及休業ニ關スル事項
三　生徒募集ニ關スル事項
四　生徒入學、退學、休學、缺席、缺課ノ願屆及學籍ニ關スル事項
五　試驗成績考查、進級及卒業ニ關スル事項
六　教官會議ニ關スル事項
七　修學旅行ニ關スル事項

八　學事報告ニ關スル事項
九　教務課ニ屬スル物品ノ整理保管ニ關スル事項
十　標本陳列所ノ整理保管等ニ關スル事項
十一　其ノ他教務ニ關スル一切ノ事項

第十三條　生徒課ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル
一　生徒ノ調育竝賞罰ニ關スル事項
二　生徒ノ風紀取締ニ關スル事項
三　生徒ノ服制ニ關スル事項
四　生徒ノ衛生、體格檢査及運動ニ關スル事項
五　生徒ノ兵役ニ關スル事項
六　生徒ノ集會及印刷物ニ關スル事項
七　生徒ノ願屆等ニ關スル事項
八　生徒ノ學資(現金出納ヲ除ク)ニ關スル事項
九　生徒ノ入退寮、外泊、歸省、旅行及乘車船割引證ニ關スル事項
十　寮ノ取締及管理ニ關スル事項
十一　寮ノ炊事ニ關スル事項
十二　生徒課及寮ニ屬スル物品ノ整理保管ニ關スル事項

十三　其ノ他他ノ主管ニ屬セサル生徒ニ關スル一切ノ事項

第十四條　圖書課ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル
一　圖書ノ整理及保管ニ關スル事項
二　圖書ノ貸付及閱覽ニ關スル事項
三　圖書ノ購入審査ニ關スル事項
四　閱覽室ノ整理ニ關スル事項
五　圖書課ニ屬スル物品ノ整理保管ニ關スル事項
六　其ノ他圖書ニ關スル一切ノ事項

第十五條　農學部ニ於テハ左ノ事項ヲ監掌ス
一　農學科課程ノ教授ニ關スル事項
二　前號ニ伴フ實驗實習ニ要スル用地及物品ノ整理保管ニ關スル事項
三　教授要旨及教授綱目ニ關スル事項
四　學科目ノ分擔ニ關スル事項
五　實驗農場ニ關スル事項
六　其ノ他農學部ニ關スル一切ノ事項

第十六條　林學部ニ於テハ左ノ事項ヲ監掌ス
一　林學科課程ノ教授ニ關スル事項

二　前號ニ伴フ實驗實習ニ要スル用地及物品ノ整理保管ニ關スル事項
三　教授要旨及教授綱目ニ關スル事項
四　學科目ノ分擔ニ關スル事項
五　演習林ニ關スル事項
六　林學實習場ニ關スル事項
七　其ノ他林學部ニ屬スル一切ノ事項

第十七條　實驗農場ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル
一　農場ノ管理ニ關スル事項
二　耕種實習ニ關スル事項
三　養畜實習ニ關スル事項
四　養蠶實習ニ關スル事項
五　農產製造實習ニ關スル事項
六　生產物ノ處理ニ關スル事項
七　所屬物品ノ整理保管ニ關スル事項
八　其ノ他農場ニ關スル一切ノ事項

第十八條　演習林ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル
一　演習林ノ經營管理ニ關スル事項

二　生產物ノ處理ニ關スル事項
三　所屬建物及物品ノ整理保管ニ關スル事項
四　其ノ他演習林ニ關スル一切ノ事項

第十九條　林學實習場ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル
一　實習場ノ管理ニ關スル事項
二　林學實習ニ關スル事項
三　生產物ノ處理ニ關スル事項
四　所屬物品ノ整理保管ニ關スル事項
五　其ノ他林學實習場ニ關スル一切ノ事項

第三章　會　議

第二十條　本校ニ教官會議及主管者會議ヲ設ク

第二十一條　教官會議ハ教育上重要ナル事項ニ關シ學校長ノ諮問ニ應シ之ヲ審議ス

第二十二條　教官會議ノ議員ハ教授、助教授及專任講師ヲ以テ之ニ充ツ但シ學校長ニ於テ必要ト認ムルトキハ其ノ他ノ職員ヲ列席セシメ又ハ教授ノミヲ召集スルコトアルヘシ

第二十三條　學校長ハ教官會議ヲ召集シ其ノ議長ト爲ル

第二十四條　教官會議ノ記錄ハ教務課長之ヲ掌ル

第二十五條　主管者會議ハ事務上重要ナル事項ニ關シ學校長ノ諮問ニ應シ之ヲ審議ス

第二十六條　主管者會議ノ議員ハ主管者ヲ以テ之ニ充ツ但シ學校長ニ於テ必要ト認ムルトキハ其ノ他ノ職員ヲ列席セシムルコトアルヘシ

第二十七條　學校長ハ主管者會議ヲ召集シ其ノ議長ト爲ル

第二十八條　主管者會議ノ記錄ハ庶務課長之ヲ掌ル

第二十九條　議員ハ會議ニ附セムトスル事項アルトキハ之ヲ學校長ニ提議スルコトヲ得

第四章　文書ノ取扱

第一節　收受及成案ノ施行

第三十條　本校ニ到達シタル文書ハ親展文書ヲ除クノ外庶務課ニ於テ開封文書件名簿ニ登錄シ且文書ニ番號及年月日ヲ記載シ學校長ノ閲覽ヲ經タル上主管者ニ配付スヘシ但シ輕易ナルモノハ之カ登錄ヲ省略スルコトヲ得

第三十一條　親展文書ハ收受簿ニ登錄シ學校長ノ閲覽ヲ經タル上親展文書件名簿ニ登錄シ之ヲ主管者ニ配付スヘシ

第三十二條　主管者文書ノ配付ヲ受ケタルトキハ速ニ成案シ若ハ供覽文書トシテ處理スヘシ

第三十三條　文書ハ總テ庶務課ヲ經テ學校長ノ決裁ヲ受クヘシ

第三十四條　決裁濟ノ文書ニシテ發送ヲ要スルモノハ庶務課ニ於テ淨書スヘシ

第三十五條　同一事件ニ關係スル文書ハ之ヲ合綴シテ同一番號ヲ用フヘシ

第三十六條　成案ハ所定ノ用紙ヲ用フヘシ但シ定例アルモノ又ハ輕易ナルモノハ帳簿ニ依リ若ハ文書ノ餘白ニ朱書シ決裁ヲ受クルコトヲ得

第三十七條　伺定又ハ通牒ニシテ執務上例規トナルヘキモノニハ「例規」ノ記號ヲ附スヘシ

第三十八條　官報公報等ノ掲載事項ニシテ例規トナルヘキモノ其ノ他必要ト認ムルモノハ其ノ主管者又ハ關係員ニ回覽スヘシ

第三十九條　代決文書ニシテ學校長ノ閲覽ヲ要スルモノハ其ノ文書ニ「校長後閲」ノ記號ヲ附スヘシ

第四十條　發送文書ニハ番號ヲ附シ捺印ノ上發送ノ手續ヲ爲スヘシ但シ事ノ輕易ナルモノハ番號ヲ省略スルコトヲ得

第四十一條　發送濟ノ文書ニハ其ノ發送ノ年月日其ノ他ノ事項ヲ回議用紙相當欄ニ記入捺印シ且文書件名簿ニ其ノ處理要領ヲ摘記シ主任者ニ之ヲ返付スヘシ

第四十二條　文書ハ學校長ノ許可ヲ經ルニ非サレハ關係員外ニ示スコトヲ得ス

第四十三條　收受發送文書ノ記號ハ左ノ例ニ依ルヘシ

水高農 15.5.17 第號

第二節　編纂及保存

第四十四條　文書ハ完結年月日ニ從ヒ曆年ヲ以テ區分整理スヘシ但シ會計年度ニ屬スルモノ其ノ他特別ノ事由ニ依リ曆年ニ依リ難キモノハ此ノ限ニ在ラス

第四十五條　完結シタル文書ハ主管ニ於テ其ノ完結月日及件名等ヲ摘記シタル目錄ヲ附シ種類別ニ編纂スヘシ但シ丙種ニ在リテハ目錄ヲ省略スルコトヲ得

第四十六條　同一事件ノ文書ニシテ紙數夥多ニ亘ルモノ又ハ文書ニ附屬スル圖表類ノ本書ニ合綴シ難キモノハ別冊トシテ編纂スルコトヲ得

圖表類ヲ別冊ト爲シタルトキハ本冊及別冊ノ目錄ニ其ノ旨ヲ附記スヘシ

第四十七條　編纂シタル文書ハ年度經過後三箇月以內ニ庶務課ニ引繼クヘシ但シ例規トナルヘキモノ其ノ他主管ニ於テ必要アルモノハ之ヲ留置クコトヲ得

第四十八條　庶務課ニ於テ前條ノ引繼ヲ受ケタルトキハ所定ノ文書臺帳ニ必要事項ヲ登錄スヘシ

第四十九條　文書ノ保存期限ハ別ニ定アルモノヲ除クノ外左ノ三種トス

甲種　永久保存スヘキモノ

乙種　五年保存スヘキモノ

丙種　一年保存スヘキモノ

第五十條　文書ノ保存期限ヲ經過シタルトキ又ハ其ノ他ノ事由ニ依リ保存ノ必要ナシト認ムルトキハ庶務課長ハ關係主管者ニ合議ノ上其ノ廢棄手續ヲ爲スヘシ

第五十一條　廢棄シタル文書ハ文書臺帳ニ廢棄年月日ヲ記入シ其ノ目錄ヲ類別保存スヘシ

第五十二條　文書ノ保存種別適當ナラスト認ムルトキハ庶務課長ハ主管者ニ合議ノ上之カ變更ノ手續ヲ爲スコトヲ得

第五十三條　文書ヲ借受ケムトスル者ハ庶務課備付ノ文書借用簿ニ所定ノ事項ヲ記入シ申込ムヘシ之ヲ返納スルトキ亦同シ

第五章　會計

第五十四條　各主管ニ物品取扱主任ヲ置ク

第五十五條　物品ハ物品取扱主任ニ於テ之ヲ處理シ其ノ目錄ヲ類別保存スヘシ

第五十六條　物品取扱主任ハ備品受拂簿及消耗品受拂簿ヲ備付クヘシ

第五十七條　常時所要ノ物品ハ庶務課ニ於テ一箇年ノ數量ヲ豫定シ一回若ハ數回ニ取纏メ購入ノ手續ヲ爲スヘシ

第五十八條　臨時所要ノ物品ハ物品取扱主任ノ請求ニ依リ庶務課ニ於テ購入ノ手續ヲ爲スヘシ

第五十九條　實驗實習ノ生產及製造品ハ生產品引繼簿ニ依リ之ヲ庶務課ニ引繼クヘシ

第六十條　物品ハ左ノ書類ヲ以テ受入ノ手續ヲ爲スヘシ但シ特ニ規定アルモノハ此ノ限リニ在ラス

一　購入物品ハ請求書

二　生產及製造品ハ生產引繼簿

三　寄附物品ハ其ノ決議書

四　保管轉換ノ物品ハ送付書

第六十一條　物品ノ購入ヲ要スルトキハ所定ノ物品請求書ニ品名、數量及所要ノ事由等ヲ記載シ之ヲ庶務課ニ回付スヘシ

第六十二條　物品ノ修理洗濯ヲ要スルトキハ修理物品請求書ニ品目、數量及修理ノ箇所等ヲ摘記シ之ヲ庶務課ニ回付スヘシ

第六十三條　物品到達シタルトキハ物品會計官吏ト物品取扱主任ト立會檢査ノ上受領スヘシ

物品取扱主任ハ前項ノ手續ヲ經タル後之ヲ備品又ハ消耗品受拂簿ニ登記スヘシ

第六十四條　相互間ニ於テ物品ノ保管換ヲ要スルモノアルトキハ其ノ旨受拂簿ニ摘記シ現品ノ授受ヲ了シタル後物品取扱主任連署ノ上物品會計官吏ニ通知スヘシ

第六十五條　物品取扱主任交代シタルトキハ受拂簿ト現品トヲ照合シ其ノ引繼ヲ爲シタル年月日ヲ帳簿ノ餘白ニ記入シ各自記名捺印スヘシ

第六十六條　物品取扱主任ハ毎年二月物品ノ狀況、現在數ヲ調査シ其ノ概要ヲ物品會計官吏ニ報告スヘシ但シ廢棄又ハ賣却等ノ處分ヲ要スルモノアルトキハ其ノ品名、數量及事由ヲ具スヘシ

第六十七條　物品ヲ亡失毀損シ又ハ盜難ニ罹リ若ハ詐取セラレタルトキハ物品取扱主任ヲ經テ物品會計官吏ニ申告スヘシ其ノ故意怠慢ニ出タルモノハ修理又ハ代品ヲ納付セシメ若ハ相當價格ヲ辨償セシムルコトアルヘシ

第六章　服務

第六十八條　職員登校シタルトキハ必ス出勤簿ニ捺印スヘシ

第六十九條　職員病氣其ノ他事故ニ依リ缺勤セムトスルトキハ出勤時限前ニ其ノ旨届出ツヘシ但シ病氣缺勤七日以上ニ亘ルトキハ醫師ノ診斷書ヲ添附スヘシ

第七十條　忌服ヲ受ケムトスルトキハ死亡者ノ氏名竝自己トノ續柄ヲ具シ届出ツヘシ

第七十一條　新ニ採用セラレタル者ハ履歷書、住所届(官舍居住以外ノ場合ニ依ル)及俸給其ノ他諸給與受領委任届ヲ差出スヘシ

第七十二條　職員轉居、轉籍、改氏名其ノ他身分ニ異動アリタルトキハ直ニ其ノ旨届出ツヘシ但シ改氏名ノ場合ハ戸籍抄本ヲ添附スヘシ

第七十三條　職員出張ヲ命セラレタルトキハ庶務課備付ノ發着届簿ニ所定ノ事項ヲ記入シ届出ツヘシ彙職ニ依リ出張セムトスル場合亦同シ

第七十四條　職員出張ノ用務ヲ了リ歸任シタルトキハ特ニ命令アルモノノ外十日以内ニ復命書ヲ提出スヘシ但シ事件ノ性質ニ依リ口頭ヲ以テ復命スルコトヲ得

第七十五條　職員父母ノ看護、墓參又ハ病氣療養等ノ爲任地ヲ離レムトスルトキハ其ノ事由、日數及旅行先ヲ具シ其ノ病氣療養ニ係ルモノニ就テハ醫師ノ診斷書ヲ添ヘ許可ヲ受クヘシ

第七十六條　官廳其ノ他ヨリ直接受領シタル辭令等ニシテ履歷上ニ關係アルモノハ直ニ其寫ヲ添ヘ届出ツヘシ

第七十七條　本校達其ノ他ノ通知ハ文書ヲ以テ回達ス但シ輕易ナルモノハ揭示スルコトアルヘシ

第七章　宿直

第七十八條　宿直ハ判任官以下ノ職員(他ニ宿直勤務アルモノヲ除ク)毎日一名宛輪番ヲ以テ勤務スヘシ但シ時宜ニ依リ二

名以上宿直セシムルコトアルヘシ

第七十九條　宿直勤務ハ平日ニ在リテハ退廳時限ヨリ翌日出勤時限迄休日ニ在リテハ出勤時限ヨリ翌日出勤時限迄トシ午後四時ニ交替スルモノトス

第八十條　宿直ハ其ノ前日迄ニ庶務課ヨリ本人ニ通知スヘシ

當直員自己ノ都合ニ依リ宿直シ能ハサルトキハ他ノ職員ヲシテ代勤セシムルコトヲ得

勤務順番ハ平日ハ任命順、休日ハ其ノ反對順トス

平日ト休日ト連續スル場合ハ休日ニ勤務セシメ平日ハ翌々日勤務セシム

第八十一條　左記各號ノ一ニ該當スル者ハ宿直ヲ猶豫ス

一　出張ノ前日及歸校ノ翌日

二　新任者着任後七日間

三　父母ノ祭日

四　忌引、賜暇及缺勤後初テ出勤シタル日

第八十二條　宿直室ニ備付帳簿器具左ノ如シ

一　宿直通知簿

二　宿直日誌

三　書狀收受簿

四　送付簿

五　職員住所錄

六　郵便切手及同受拂簿

七　電信符號

八　狀箱及公文書入箱

第八十三條　宿直員ハ退廳時限前ニ庶務課ニ付キ前條ニ示ス諸帳簿、器具及郵便切手等ヲ受領シ翌日庶務課又ハ次番者ニ之ヲ引繼クヘシ

第八十四條　特急發送等ヲ要スル文書ハ宿直員ニ於テ假ニ其ノ手續ヲ爲シ翌日庶務課ニ引繼クヘシ

第八十五條　收受シタル文書中急ヲ要スルモノニシテ學校長宛ノ親展書ハ直ニ學校長ニ送付シ學校宛ノモノハ宿直員ニ於テ開封ノ上臨機ノ處置ヲ爲シ翌朝庶務課ニ報告スヘシ

前項ノ場合ニ於テ校長不在ノトキハ上席者ニ之ヲ送付シ其ノ他職員宛ノ至急文書ハ名宛人ニ送付スヘシ

第八十六條　宿直員ハ火元其ノ他一般ノ取締ニ任シ夜間ハ特ニ巡視シ之カ注意ヲ爲スヘシ

第八十七條　宿直日誌ニハ左ノ事項ヲ記載スヘシ

一　月日(七曜祝祭日天候等)

二　宿直員職氏名及守衞小使氏名(代勤シタル場合ハ其ノ本人ノ職氏名)

三　巡視ノ時限及異狀ノ有無

四　宿直中出入ノ職員其ノ他氏名及入退出時間

五　其ノ他勤務中處理シタル顚末

第八十八條　暴風雨ノ爲雨漏等被害ノ虞アリト認ムルトキハ臨機ノ處置ヲ爲シ近火其ノ他非常ノ事變生シタルトキハ火災豫防及非常心得ニ依リ敏速ニ警備ノ方法ヲ講スヘシ

二　實驗農場規程（昭和六年八月二十七日改定）

第一條　實驗農場ニ種藝係、園藝係、畜産係及養蠶係ヲ置ク

第二條　各係ニ主任並係員ヲ置ク主任ハ教官中ヨリ學校長之ヲ命ス

第三條　主任ハ實驗農場長ノ命ヲ承ケ其ノ係ニ屬スル作物ノ栽培、家畜家蠶ノ飼育、生徒ノ實驗實習、生産品取扱、傭人ノ取締、器具機械ノ保管其ノ他所屬一切ノ事項ヲ分掌ス

係員ハ主任ノ命ヲ承ケ其ノ係ノ事務ニ從事ス

第四條　主任者事故アルトキハ所屬首席係員其ノ事務ヲ代理ス

第五條　實驗農場ニ於テハ毎年二月中ニ各係打合會ヲ開キ翌年度事業並豫算ニ關シ協議ス

第六條　各係主任ハ左ノ書類ヲ作製シ實驗農場長農學部長ヲ經テ學校長ニ提出スヘシ

一　翌年度ニ於ケル豫算調書　四月三十日限

二　翌年度ニ於ケル事業計劃書　二月二十八日限

三　其ノ年度ニ於ケル豫算實行計劃書　五月三十一日限

四　前年度ニ於ケル事業報告書　五月三十一日限

第七條　各係ニ日誌ヲ備付ケ必要ナル事項ヲ記載シ農場長ノ檢印ヲ受クヘシ

第八條　各係ニ人夫使役簿ヲ備付ケ所要事項ヲ記載シ係主任ノ檢印ヲ受クヘシ

第九條　人夫賃ハ毎月十月二十日月末ノ三回ニ區分シ其ノ請求書ヲ實驗農場長ヨリ庶務課ニ回付スヘシ

第十條　實驗實習ノ生産物及製造品ハ各係主任ニ於テ所定ノ生産品引繼簿又ハ動物受拂簿ニ所要事項ヲ記載シ實驗農場長ヲ經テ庶務課ニ引繼クヘシ

第十一條　實驗農場ニ於ケル作業時間左ノ如シ但シ作業ノ都合ニ依リ之ヲ變更スルコトアルヘシ

實驗農場作業時間

月	始業	休憩	終業	始業	休憩	終業
四月	午前八時	午前十時ヨリ十五分間	午前十二時	午後一時	午後三時ヨリ十五分間	午後六時
五月	七時三十分	同	十一時三十分	同	同	同
六、七、八月	七時	九時ヨリ十五分間	同	一時三十分	四時ヨリ十五分間	同
九、十月	八時	十時ヨリ十五分間	十二時	一時	三時ヨリ十五分間	同
十一月	同	同	同	同	同	五時三十分
十二、一、二月	八時三十分	同	同	同	同	五時
三月	八時	同	同	同	同	五時三十分

第十二條　實驗農場勤務以外ノ職員ニシテ實驗農場ニ於テ實驗セムトスルモノハ豫メ各係主任ノ承諾ヲ得テ實驗農場長ニ申出ツヘシ

三　林學實習場規程

第一條　林學實習場ニ造林係、森林利用係、森林經理係、森林土木係ニ分チ各係ニ主任及係員ヲ置ク

第二條　主任ハ林學實習場長ノ命ヲ承ケ各係分掌ノ事務ヲ整理シ係員ハ各主任ノ命ヲ承ケ各係ノ事務ニ從事ス

第三條　各係ニ於テ分掌スル業務左ノ如シ

一　造林係、苗圃樹木園、森林植物溫室、發芽試驗室、昆蟲飼育室竝所屬標本室、管理其ノ他造林及森林保護ニ關スル一切ノ事項

二　森林利用係、森林利用實驗室、森林化學實驗室竝所屬標本室ノ管理其ノ他森林利用及林產製造ニ關スル一切ノ事項

三　森林經理係、所屬標本室ノ管理其ノ他森林經理及測樹ニ關スル一切ノ事項

四　森林土木係、製圖室竝所屬標本室ノ管理其他測量製圖砂防ニ關スル一切ノ事項

第四條　林學實習場長ハ每年各係主任ニ左ノ事項ニ關スル書類ヲ作製セシメ林學部長ヲ經テ學校長ニ提出スヘシ

一　每年四月前年度ニ於ケル事業功程竝收支計算

二　每年三月翌年度ニ於ケル事業計劃

第五條　實驗實習ニ關スル事項及生產物取扱ニ關スル事項其ノ他農夫傭人ノ取締ニ關スル事項ハ林學實習場長ノ命ヲ承ケ各係主任ニ於テ處理スルモノトス

四　圖書館規程

一　總　則

第一條　本校職員ハ圖書ヲ閱覽又ハ借受クルコトヲ得

第二條　本校第三學年生徒ハ學課擔任教官ノ證明ヲ得テ教務上差支ナキモノ三冊ヲ限リ借受クルコトヲ得

第三條　一般統計書類、辭書、定期刊行ノ雜誌類ハ學校長ノ許可ヲ經ルニ非サレハ貸出ヲ爲サス

第四條　圖書館員ノ外圖書ノ出納ヲ爲スコトヲ得ス

第五條　特種ノ事情ナキ限リ同一ノ圖書二部以上ヲ借受クルコトヲ得ス

二　借　覽

第六條　圖書ヲ閱覽セムトスル者ハ書名ヲ指定シ係員ニ請求スヘシ

第七條　閱覽圖書ハ閱覽室以外ニ携出スルコトヲ得ス

第八條　圖書ヲ借受ケムトスル者ハ書名、記號、番號、年月日ヲ借覽簿ニ記入シ署名捺印ノ上係員ニ提出スヘシ

第九條　借受圖書ハ他人ニ轉貸スルコトヲ得ス

第十條　圖書ノ貸付冊數ハ左ノ限度トス

教　官　擔任學科目每ニ　十五冊

其ノ他職員　五　冊

第十一條　學校長ノ許可ヲ得テ教授參考上及事務上必要ノ圖書雜誌ヲ借受ケ之ヲ特別ノ場所ニ備付使用スルコトヲ得

三　返　納

第十二條　借受圖書ハ每年六月三十日迄ニ返納スヘシ

第十三條　第二條ニ依リ借受タル圖書ハ一箇月以內ニ返納スヘシ

第十四條　左ノ場合ニハ卽時返納スヘシ

一　職員　退職、休職、轉任等ノ場合

二　生徒　卒業、休學、退學等ノ場合

第十五條　貸付タル圖書ハ臨時返納セシムルコトアルヘシ

四　保　管

第十六條　借受タル圖書ハ借受人ニ於テ其ノ保存ノ責ニ任シ若シ紛失、汚損等アリタルトキハ其ノ旨屆出ツヘシ

第十七條　圖書ヲ紛失、汚損シタルトキハ其ノ損害ノ程度ニ因リ同一ノ圖書ヲ以テ償ハシメ又ハ相當代價ヲ以テ辨償セシムルコトアルヘシ

五　生徒心得

第一條　本校生徒ハ敎育ニ關スル勅語ノ趣旨ヲ奉體シ心身ノ修養ニ勉メ和衷協同以テ眞摯質實ナル校風ノ振作ニ努ムヘシ

第二條　本校生徒ハ規則命令ト節制トヲ重ンシ堅忍事ニ堪フルノ人タラム事ヲ努ムヘシ

第三條　本校職員ニ對シテハ勿論生徒相互ノ間ニ於テモ禮儀ヲ守リ倨傲不遜ノ擧動アルヘカラス

第四條　風紀ヲ紊ス慮アル場所ニハ出入スヘカラス

第五條　告示ハ別ニ定メタルモノノ外之ヲ揭示シタル日ヨリ一般ニ知了シタルモノト認ムルヲ以テ常ニ能ク注意スヘシ

第六條　登校ノ際ハ所定ノ服裝ヲ着用スヘシ但シ略裝セムトスル場合ハ願出許可ヲ受クヘシ

第七條　校舍內ニ在リテハ所定ノ場所ノ外飮食、喫煙又ハ吐唾スヘカラス

第八條　受持敎官定時ニ至ルモ出講セサルトキハ敎務課ノ指揮ヲ受ケ決シテ隨意ニ退散スヘカラス

第九條　授業時間外ニ於テハ敎官ノ許ナクシテ敎室、實驗室等ニ入ルヘカラス

第十條　本校所屬ノ建造物、物品、樹木等ヲ汚染、亡失、毀損スヘカラス情狀ニ依リ之ヲ辨償セシム

第十一條　諸願諸屆書類ハ總テ學校長ニ宛學生課ニ差出スヘシ

第十二條　集合又ハ揭示ヲ爲サムトスル時ハ必ス生徒監ニ申出テ許可ヲ受クヘシ

第十三條　生徒ノ轉宿、歸省、旅行其ノ他ノ異動ニ就キテハ其ノ理由ヲ申出テ許可ヲ受クヘシ

六　生徒寮規則

第一條　生徒寮ハ本校敎育ノ趣旨ヲ體シ協同生活ノ訓練ヲ爲サシムルヲ以テ要旨トス

第二條　本校生徒ハ本校ノ都合又ハ生徒願出ニ依リ事情止ムヲ得サルモノト認メタルモノノ外全部寮入スルモノトス

第三條　寮ヲ分チ東寮、西寮、中寮及南寮ノ四トシ各寮ニ委員長及副委員長各一名各室ニ委員一名ヲ置ク

第四條　委員長及副委員長ハ各寮內生徒ノ記名選擧セル候補者二名中ヨリ生徒監選拔ノ上之ヲ命シ委員ハ各室ノ互選ニ依ル

第五條　委員長　副委員長及委員ノ任期ハ一箇年ト爲スモ時ニ之ヲ變更シ又ハ再任ヲ命スルコトアルヘシ

第六條　委員長及副委員長ハ生徒監ノ指揮ヲ承ケ命令ノ傳達、風紀ノ取締、寮生ノ親睦、寮日誌ノ記載其ノ他寮內一般ノ事項ニ關スル整理ノ任務ニ當ル

第七條　各室人員ノ配當及門限不時召集人員檢査其ノ他寮内ノ細則ハ其ノ必要ニ應シ生徒監之ヲ定ム

第八條　寮生ハ寮則實行ノ便宜上豫メ生徒監ノ承認ヲ得テ寮生規約ヲ定ムルコトヲ得

第九條　寮生ハ寮費トシテ毎月金二圓ヲ納入スヘシ但シ寮費ハ舍費一箇月未滿ト雖之ヲ減額セス

第十條　寮生ハ毎月三日迄ニ寮費及食費ヲ會計課長ニ前納スヘシ

第十一條　規定外ノ外出、外泊、旅行、歸省等ニ關シテハ左ノ手續ヲ經テ實行スヘシ

一　外出ノ際門限ノ時刻ニ遲ルヘキ事情アル者ハ豫メ其ノ事由ヲ委員長ニ通シ生徒監ノ許可ヲ得ルコト

二　已ムヲ得サル事故生シ門限時間後歸寮セル者ハ委員長ヲ經テ生徒監ニ屆出ルコト

三　已ムヲ得サル事故ニ因リ門限時刻後特ニ外出セムトスル者ハ生徒監ノ認可ヲ受クルコト

四　外出中生徒監ノ許可ヲ得ルコト能ハスシテ外泊シタル場合ハ其ノ理由ヲ詳記シ外泊先ノ證明書ヲ添ヘ生徒監ニ屆出テ認可ヲ受クルコト

五　旅行歸省若クハ臨時外泊ヲナサムトスル者ハ豫メ其ノ事由ヲ詳記シ生徒監ノ認可ヲ受ケ歸寮ノ際ハ外泊先ノ證明書ヲ生徒監ニ差出スヘキコト

第十二條　寮生ニシテ寮内備付ノ器具ヲ破損シ若ハ亡失シタルトキハ其ノ情狀ニ依リ之ヲ辨償セシムルコトアルヘシ

七　生徒寮細則

一　寮生心得

一　校則寮則ハ能ク之カ眞意ヲ知ルニ止マラス常ニ實踐躬行ノ上ニ表スヘシ

一　課業ハ勵ミ言行ハ愼ムヘシ他人ニ對シ恭敬信愛ヲ失フ勿レ

一　居室ト夜具衣服等ハ常ニ清潔ニ保持シ身神共ニ剛健ヲ期セヨ

一　所定ノ時間ヲ嚴守シ靜肅ヲ旨トシ他ノ勤學安眠ヲ妨害スルカ如キ總テ喧騷ノ擧動アルヘカラス

一　寮内ハ勿論寮外ニ在リテモ酒ハ飲ムヘカラサルモノトセヨ喫煙ノ惡習ハ作ル勿レ

一　生徒相互間ニ於ケル金錢ノ貸借ハ不可ナリ

一　燈火暖爐溫突ノ取扱ニ注意シ危險ノ所爲アルヘカラス外出若ハ就褥ノ際ハ殊ニ然リ

一　登校中ハ所定ノ服裝ニ容儀ヲ正シ外出ニ際シ制服ニアラサル場合ハ制帽ニ(袴)(周衣)ヲ着用スルモ可ナリ

一　掲示ハ出入ノ際必ス注視セヨ見サルカ故ニ知ラストナスヲ得ス

二　時　限

一　寮内ニ於ケル起居ノ時限ハ季節ニ依リ生徒監之ヲ定ム

三　召　集

一　召集ヲ分チテ非常召集及普通召集トス

一　非常召集ハ半鐘ヲ亂打シ又ハ其ノ他ノ方法ニヨリ通知ス

一　非常召集ハ火災其ノ他急變ノ起リシ場合ニ於テナスモノトス

一　普通召集ハ隨時必要ニ應シ適宜ノ方法ニヨリ召集ス

一　寮生召集ノ通報アリシ場合ハ非常及普通ノ區別ナク至急指定ノ場所ニ集合スヘキモノトス

一　非常ノ事變ニ際シテハ生徒監其ノ他教官ノ指揮ニ從ヒ協同シテ盡力スヘキモノトス

四　集會及掲示

一　生徒監ノ許可ナクシテ團體ヲ組織スルコトヲ得ス

一　寮ノ内外ヲ問ハス許可ナクシテ集會及掲示ヲナスコトヲ得ス

五　願　届

一　願届ヲ爲スヘキ事項ニ關シテハ其ノ事項ノ生シタル都度遲滯ナク其ノ手續ヲナスヘシ

一　凡テ願届書ハ校長宛トシ生徒監ニ差出スヘシ

六　寮　閉　鎖

一　休暇中及必要ニ應シ寮ノ閉鎖ヲナス

七　寮　日　誌

一　委員長ハ寮ノ内外ニ起リシ事項ヲ寮日誌ニ認メ毎日生徒監ニ差出シ檢閲ヲ受クルモノトス

八　疾　病

一　疾病ニ罹リタルトキハ室委員ヨリ委員長ヲ通シテ生徒監ニ申出テ指揮ヲ受クヘシ

一　重病又ハ傳染病ニ罹リ又ハ其ノ處アルトキハ一時退舍セシメ最寄病院ニ入院セシムルコトアルヘシ

八　奨學資金取扱規程（大正七年十二月制定）

第一條　本校ハ生徒奨學ノ爲メ資金ヲ保管ス

第二條　奨學資金ハ御下賜金及寄附金ヲ以テ之ニ充ツ

第三條　奨學資金ハ東宮殿下御下賜奨學資金、李王殿下奨學資金ト稱シ其ノ他寄附者ノ名稱ヲ附スルモノトス

第四條　奨學資金ノ利金ハ一般ニ奨學賞與ニ充ツルモノトス但シ寄附者ノ意志ニ依リ其ノ他ノ奨學用途ニ充ツルコトヲ得

第五條　奨學賞與ハ左ノ各項ニ依リ全校生徒中ヨリ選拔査定ノ上之ヲ授クルモノトス

一　精勤ニシテ品行方正他ノ模範タル者

一　品行方正ニシテ學術實習共ニ優等ナル者

一　本校教養ノ精神ニカナヒ表彰スヘキ行爲アリタル者

第六條　資金ハ校長名ニ依リ確實ナル銀行ニ預ケ入レ其ノ利子ヲ以テ奨學ノ資ニ充ツルモノトス

第七條　奨學資金ノ取扱ハ會計諸規程ニ準シ其ノ出納ヲ明瞭ナラシム

第八條　本賞與ニハ特ニ殿下ノ御下賜金或ハ何々奨學資金ノ名ヲ冠スルモノトス

（參　照）

奨　學　資　金

皇太子殿下奨學資金

右ハ明治四十年十月　皇太子殿下御渡韓ノ際特ニ生徒奨勵ノ御思召ヲ以テ御下賜金百六十圓朝鮮總督府ヨリ同四十五年五月十六日分配アリタルヲ以テ生徒奨學資金ニ充ツ

李王殿下奨學資金

右ハ明治四十一年十月二日　李王當時韓國皇帝トシテ華山陵へ參拜ノ歸途勅使ヲ差遣勅語竝ニ金百五十圓ヲ下賜セラレシモノニシテ生徒奨學資金ニ充ツ

寺内總督閣下奨學資金

右ハ明治四十三年十月二日　當時ノ朝鮮子爵寺内正毅閣下本校ヲ視察セラレ金百五十圓ヲ寄附セラレシモノニシテ生徒奨學資金ニ充ツ

橋本博士奨學資金

右ハ大正十年十二月五日校長橋本左五郎閣下ヨリ其ノ亡令嬢英子記念ノ爲金一千圓寄附セラレタルモノニシテ生徒奨學資金ニ充ツ

九　御眞影並勅語謄本奉護ニ關スル心得（昭和五年二月七日制定）

第一條　御眞影並勅語謄本ハ奉安所ニ奉置シ萬全ノ安泰ヲ期シ尊重ニ奉護スヘシ

第二條　奉安所ノ開閉ハ四大節其ノ他必要時ノ外絶對開閉セス其ノ開閉ハ學校長及庶務課長之ニ當ル

第三條　非常變災ヲ生シ奉遷ノ必要ヲ認ムルトキハ學校長、學校長不在ノ場合ハ豫メ學校長ノ命ヲ承ケタル教授ニ於テ武裝セル生徒六人ヲ以テ左ノ奉遷所ニ奉遷シ奉護スヘシ

第一奉遷所　朝鮮總督府農事試驗場蠶絲部主任室

第二奉遷所　朝鮮總督府農事試驗場長室

奉遷ノ必要ナシト認ムル場合ト雖現場ニ於テ前記ノ方法ヲ以テ奉護シ萬遺漏ナキヲ期スヘシ

第四條　當宿直員ハ極メテ尊重ニ奉護シ時々奉安所ノ巡視ヲ爲シ奉護上萬遺漏ナキヲ期スヘシ

第五條　奉安所附近ハ常ニ清淨ヲ保チ神聖タラシムヘシ

第六條　猥ニ奉安所附近ニ接近シ散歩遊戲又ハ樹木等ヲ弄スヘカラス

第七條　職員以下生徒ニシテ奉安所ノ前面ヲ通行スルトキハ敬虔ノ念ヲ失フヘカラス

一〇　校旗規程（昭和五年五月十六日制定）

第一條　校旗ハ本校ノ最高標識トス

第二條　職員生徒ハ常ニ校旗ヲ尊重シ敬虔ノ念ヲ以テ之ヲ擁護スルモノトス

第三條　校旗ハ校長室ニ保管シ庶務課長其ノ出納ヲ掌ル

非常變災ノ場合ハ別ニ定ムル非常心得ニ依リ處置スルモノトス

第四條　校旗ハ本校ノ重要ナル儀式其ノ他必要アル場合ハ學校長ノ命ニ依リ出動ス

第五條　校旗ノ爲正副旗手各一人旗護生五人ヲ置ク

正旗手ハ校旗出動ノ際捧持ノ任ニ當リ副旗手ハ正旗手事故アルトキ之ニ代ル旗護生ハ校旗ノ護衛ニ任ス

第六條　旗手及旗護生ハ上級生中身體强健、品行方正、學術優等ナル者ニ就キ毎學年ノ初ニ於テ學校長之ヲ任命ス

第七條　校旗出動ノ際ノ敬禮其ノ他ハ陸軍ノ禮式ニ準ス

一一　火災豫防及非常心得（昭和六年九月四日改定）

第一　警備

第一條　暖爐又ハ火鉢使用期間中ハ巡視及小使時々各室ヲ巡視シ火氣ニ疎漏ナキ樣注意スヘシ

第二條　終業又ハ退廳ノ際ハ小使直ニ暖爐火鉢等ノ殘火ヲ取除キ火氣全ク去リタル後叮寧ニ之ヲ掃除スヘシ

第三條　暖爐又ハ火鉢使用期間中ニ職員居殘又ハ休日ニ登廳シ退廳セムトスルトキハ宿直員、巡視又ハ小使ニ其ノ旨ヲ告クヘシ

第四條　寄宿寮ニ於テハ生徒不在中小使時々各室ヲ巡視シ火氣ヲ警戒スヘシ

第五條　寄宿寮ノ炊事場及風呂場ニ於テハ擔當者ハ常ニ火氣ヲ警戒スヘシ

第六條　火氣及焚灰等ノ取除キ及運搬ノ際ハ疎漏ナキ樣注意シ之ヲ所定ノ場所ニ集メ充分始末スヘシ

第七條　小使ハ火氣、焚灰等ヲ取除キ其ノ始末ヲ終リタルトキハ直ニ之ヲ當宿直員ニ報告スヘシ

當宿直員前項ノ報告ヲ受ケタルトキハ直ニ巡視シ過失ナキ樣注意スヘシ

第八條　室ノ出入口ニ鎖鑰ノ必要アルモノハ火氣ヲ取除キタル後當宿直員ニ於テ點檢ノ上之ヲ施スヘシ

第九條　夜間ハ宿直員及巡視各二回以上各建物ノ內外ヲ巡視シ火氣其ノ他ノ災害ニ注意スヘシ

第十條　構內ニ在リテハ特定ノ場所以外ニ於テ喫煙又ハ焚火ヲ爲スヘカラス

煙草ノ吸殼等ハ必ス備付ノ容器ニ棄入スヘシ

第十一條　職員及傭人ハ終業又ハ退廳ノ際書類、器具及機械等ハ夫々整頓シ非常ノ場合第一ニ持退ノ要アル重要書類其ノ他貴重物品ノ容器ニハ見易キ箇所ニ「非常持退」ト朱記シタル紙片ヲ貼付シ置クヘシ

第十二條　火災其他非常事變ノ警備ニ付テハ職員生徒及傭人等一同常ニ能ク注意シ若シ之ニ關シ不都合ノ行爲又ハ處置ヲ認メタルトキハ臨機ノ措置ヲ爲シ必要ニ應シ直ニ建物監守者、擔任教官又ハ庶務課長ニ之ヲ通報スヘシ

前項ノ通報ヲ受ケタルトキハ嚴重ナル戒諭又ハ適當ノ措置ヲ爲シ之ヲ學校長ニ報告スヘシ

第十三條　火災、漏電、漏瓦斯其ノ他非常事變豫防ノ爲メ建物監守者及庶務課長ハ常ニ警備監督ノ任ニ當ルヘシ

實驗又ハ實習ニ火氣ヲ使用スル場合ハ擔任教官主トシテ其ノ責ヲ負ヒ警備監督ノ任ニ當ルヘシ

第二　手　配

第十四條　校內ノ出火ヲ發見シタル者ハ執務中ニ在リテハ庶務課ニ其ノ他ニ在リテハ當宿直員ニ急報スヘシ

前項ノ通報ヲ受ケタル者ハ直ニ警鍾其ノ他ノ方法ニ依リ最寄ノ者ニ之ヲ急報スルト共ニ備付ノ消火器、喞筒等ヲ以テ手後レナキ樣相當手配ヲ爲シ同時ニ學校長、主席教官、生徒監及庶務課長ニ急報シ一面上官ノ指揮ヲ承ケ警察官署ニ報知スヘシ

進火ニシテ類燒ノ虞アルト認ムル場合ハ前條ニ準シ處置スヘシ

第十五條　前二條ノ急報ヲ聞キタルトキハ職員及傭人一同直ニ駈付ケ上官ノ指揮ニ從ヒ各其ノ部署ニ就クヘシ

生徒ハ所定ノ場所ニ集合シ各掛長ノ指揮ヲ受クヘシ

第十六條　出火又ハ近火ノ場所ニ於ケル御眞影並勅語謄本奉護ニ關シテハ御眞影並勅語謄本奉護心得第三條ニ依ルヘシ但シ非常急迫ニシテ前項ニ依ル能ハサル場合ニハ庶務課長及宿直員ニ於テ奉遷奉護シ其ノ旨學校長ニ報告シ指揮ヲ俟ツヘシ

第十七條　消防ノ手配ヲ分チテ左ノ一部三班トシ夫々分掌ノ手配ニ從事スルモノトス

總務部

防火班

運搬班

警戒班

第十八條　部班ノ分掌ヲ定ムルコト大要左ノ如シ

總務部

一　各班ニ臨時應急命令ヲ爲スコト

二　各班ニ必要ナル材料ノ供給ヲ爲スコト
三　各班間ノ連絡統制ヲ圖ルコト
四　救護ニ關スルコト

防火班

一　校内出火ノ際ハ直ニ備付ノ消火器及喞筒ヲ使用シ專ラ消防ヲ爲スコト
二　近火ノ際ハ適宜ノ場所ニ喞筒ヲ引キ出シ延燒ノ虞アルトキハ建物ニ水ヲ注キ充分警防ヲ爲スコト
三　防火上障害ト認ムルモノハ之ヲ撤去又ハ破壞スルコト

運搬班

一　校族、書類、圖書、器具、機械其ノ他ノ物品ヲ安全ノ場所ニ運搬スルコト
二　物品ヲ運搬スル順序ハ火元最寄ノ場所ヨリ始メ且ツ「非常持退」ト記シタル容器ヲ先ニシ臨機適當ニ他ニ及ホスコト

警戒班

一　災害箇所ノ周圍ヲ警戒シ出入者ヲ取締ルコト
二　受付所ヲ設ケ駈付人氏名等ヲ書キ留メ置クコト
三　始終校内ヲ巡邏シ盜難等ヲ警戒スルコト特ニ搬出シタル物品ニハ監視者ヲ付シ嚴重ニ取締ヲ爲スコト
四　夜中ニ在リテハ受付所其ノ他要所ニ高張提灯ヲ點ス

第十九條　部班ニ長ヲ置キ學校長之ヲ命ス

第二十條　左ノ非常用具ハ庶務課長ニ於テ能ク之ヲ整頓保管シ喞筒其ノ他ノ器具類ハ時々之ヲ點檢試用シ常ニ支障ナカラシメンコトヲ要ス

一　喞筒及附屬品
一　梯子
一　鋸掛矢及頭布(刺子)
一　消火器
一　現場桶(ヅック製)
一　鳶口及引綱
一　運搬用擔架及ヅック袋
一　運水用空罐及ヅック桶
一　高張提灯非常用提灯及懐中電燈
一　蠟燭及燐寸

第二十一條　消火器ハ各建物内適當ノ場所ニ之ヲ配置スヘシ

第二十二條　職員生徒及傭人ハ平素消火器ノ所在及使用法ヲ心得置キ非常ノ場合之ヲ有効ニ使用スル樣心掛クヘシ

毎學年一回以上職員生徒及傭人一同火災手配演習ヲ爲スヘシ但シ警鐘ヲ打チ臨時演習ヲ行フコトアルヘシ

一二　減額旅費規程

（昭和四年十二月三十日制定）　改正（昭和五年九月三日）（同六年三月三十一日）

第一條　本校職員ニ支給スル旅費ノ減額ハ本規程ニ定ムルモノノ外朝鮮總督府減額旅費規程ニ依ル

第二條　事務打合其ノ他ノ用務ノ爲京城ニ日歸出張ノ場合ハ第一號表ノ日額旅費ヲ支給シ車馬賃其ノ他ヲ支給セズ

第三條　學事視察調査研究修學旅行附添又ハ之ニ準スル用務ノ爲朝鮮內出張ノ場合ハ第二號表ノ旅費ヲ支給ス

第四條　生徒實習指導ノ爲七寶山演習林其ノ他ニ威鳳山演習林事務所勤務者其ノ管轄區域內ノ中東上面ニ出張ノ場合ハ第三號表ノ日額旅費ヲ支給シ車馬賃其ノ他ヲ支給セズ

第五條　附置實業補習學校生徒ノ家庭實地指導ノ爲出張ノ場合ハ第四號表ノ日額旅費ヲ支給シ車馬賃其ノ他ヲ支給セズ

第六條　特ニ必要ト認ムル場合ハ前各條ノ規定ニ拘ラズ更ニ減額支給スルコトアルベシ

第七條　臺灣、樺太又ハ滿洲其ノ他ノ外國ニ出張ヲ命ゼラレタル者ニ支給スル旅費額ハ其ノ都度特ニ決定ス

附　則

本規程ハ昭和五年一月一日以降ノ旅行ニ之ヲ適用ス

第一號表　（昭和六年四月一日ヨリ各表減額改正）

等級	日額
勅任官	七圓
奏任官	六圓
判任官、教員、講師	五圓

雇員、助手	三圓五十錢
備考	人三圓

備考　雇員及助手ハ其ノ受クル給料額ノ如何ニ拘ラズ本表ノ旅費ヲ支給スルモノトス以下同斷

第二號表

等級	汽車賃	汽船賃	車馬賃	宿泊シタルトキノ日額	歸廳ノ日船中宿泊ノ日又ハ日歸旅行シタルトキノ日額
勅任官	一等又ハ上級運賃ノ全額及急行料金	一等又ハ上級運賃ノ全額	七十錢	十一圓	五圓四十錢
奏任官	二等又ハ上級運賃ノ全額及急行料金	同	五十五錢	八圓	三圓六十錢
判任官、教員、講師	二等又ハ上級運賃ノ七割及急行料金	二等又ハ上級運賃ノ全額	四十五錢	五圓五十錢	二圓
雇員、助手	三等又ハ下級運賃ノ八割及急行料金	三等又ハ下級運賃ノ全額	三十五錢	四圓十錢	一圓六十錢
備考	三等又ハ下級運賃ノ全額及急行料金	三等又ハ下級運賃ノ全額	三十錢	二圓六十錢	一圓二十錢

備考　汽車賃及汽船賃ノ上級トハ運賃ノ等級ヲ二階級ニ區分セルモノニ適用ス

第三號表

等級	七寶山演習林ニ出張シタル場合 宿泊シタルトキノ日額	歸廳ノ日又ハ日歸旅行シタルトキノ日額	在全羅北道全州郡所陽面威鳳山演習林事務所勤務者東上面ニ出張シタル場合 宿泊シタルトキノ日額	歸廳ノ日又ハ日歸旅行シタルトキノ日額
勅任官	三圓五十錢	一圓五十錢	—	—
奏任官	二圓八十錢	一圓三十錢	—	—
判任官、教員、講師	二圓三十錢	一圓	—	—
雇員、助手	一圓八十錢	八十錢	一圓五十錢	七十錢
傭人	一圓五十錢	六十錢	一圓二十錢	五十錢

第四號表

等級	日額
勅任官	五十錢
奏任官	四十錢
判任官	三十錢
助手、雇員	二十五錢

第五　經費豫算

經常部　其ノ一

區別	俸給	事務費	廳費	雜給及雜費	旅費	給與費	外國人諸給	修繕費	標本費	事業費	官舍補修費	計
明治三十九年度	円 [illegible]	円 —	円 [illegible]	円 [illegible]	円 [illegible]	円 [illegible]	円 [illegible]	円 —	円 —	円 —	円 —	円 [illegible]
同　四十年度	[illegible]	—	[illegible]	[illegible]	[illegible]	—	[illegible]	[illegible]	—	—	—	[illegible]
同　四十一年度	[illegible]	—	[illegible]	[illegible]	[illegible]	—	—	[illegible]	[illegible]	—	—	[illegible]
同　四十二年度	[illegible]	—	[illegible]	[illegible]	[illegible]	—	—	[illegible]	—	[illegible]	[illegible]	[illegible]
同　四十三年度	[illegible]	—	[illegible]	[illegible]	[illegible]	—	—	[illegible]	—	[illegible]	[illegible]	[illegible]
同　四十四年度	—	—	[illegible]	[illegible]	[illegible]	—	—	[illegible]	—	[illegible]	—	[illegible]
同　四十五年度	—	[illegible]	—	—	—	—	—	[illegible]	—	[illegible]	—	[illegible]
大正二年度	—	[illegible]	—	—	—	—	—	[illegible]	—	[illegible]	—	[illegible]
同　三年度	—	事業費ニ包含ス	—	—	—	—	—	[illegible]	—	[illegible]	—	[illegible]
同　四年度	—	—	—	—	—	—	—	[illegible]	—	[illegible]	—	[illegible]
同　五年度	—	—	—	—	—	—	—	[illegible]	—	[illegible]	—	[illegible]
同　六年度	—	—	—	—	—	—	—	[illegible]	—	[illegible]	—	[illegible]

備考　明治三十九年度經費ハ同年九月以降四箇月分ニシテ同四十四年度以降ノ經費ハ俸給ノ經費ヲ除キタルモノナリ

經常部　其ノ二

區別	俸給	廳費	修繕費	旅費	接待費	雜給及雜費	講習費	計
大正七年度	一二、五四七円、六五〇	四、三三二円、〇六〇	一、七一〇円、七二〇	一、八七七円、四三〇	—	九、六一〇円、〇二〇	—	三〇、〇七七円、八八〇
同八年度	一二、九九一、一五〇	五、五三〇、九六〇	二、〇四七、六一〇	二、三二二、六六〇	—	一一、九八三、三四〇	—	三四、八七五、七一〇
同九年度	二三、五七三、三三〇	六、七九一、六五〇	二、一八九、五一〇	四、六〇〇、六六〇	—	二一、六二五、五八〇	—	五八、七八〇、七三〇
同十年度	二八、六四六、四七〇	七、七二〇、九七〇	一、三三九、九〇〇	五、二八四、一二〇	—	二四、七七八、九二〇	—	六七、七七〇、三八〇
同十一年度	三三、四九六、七六〇	六、五二三、五九〇	一、三四九、四八〇	三、七八四、三五〇	—	二五、一一三、七四〇	—	七〇、二六七、九二〇
同十二年度	三六、九三三、三五〇	九、二四五、五〇〇	二、一〇四、〇〇〇	五、〇二四、七九〇	—	三一、九七三、六〇〇	二七一、八八〇	八五、五五三、一二〇
同十三年度	四四、二八四、六七〇	八、五三七、三二〇	一、一四九、七九〇	四、七一七、五二〇	—	三二、四六八、八六〇	—	九一、一五八、一六〇
同十四年度	四五、二四六、四八〇	六、〇六五、八三〇	二、〇四三、八八〇	三、七六〇、二四〇	一一六、四〇〇	二九、二一八、五六〇	—	八六、四五一、三九〇
大正十五年度 昭和元年度	五一、一九六、六七〇	六、九六四、七四〇	三、〇九一、九八〇	六、二三六、六六〇	一一六、九〇〇	二九、六一〇、二五〇	—	九七、二一七、二〇〇
同二年度	六二、〇二八、〇〇〇	九、二五七、七七〇	四、一八五、八八〇	七、一一八、二五〇	一一七、〇〇〇	四〇、六九九、一七〇	—	一二三、四〇六、〇七〇
同三年度	六六、四六五、九二〇	一〇、六五三、九六〇	五、八五四、八三〇	七、三八六、一七〇	一一六、九三〇	三九、五八八、五八〇	—	一三〇、〇六六、三九〇
同四年度	七一、一七七、七八〇	一八、七六〇、二〇〇	三、七三八、四二〇	七、五八八、七二〇	一一六、三一〇	四二、六〇八、三〇〇	—	一四三、九八九、七三〇
同五年度	七〇、七六三、八八〇	一一、四一六、九五〇	一、九四九、〇〇〇	六、三六三、九二〇	一一九、九六〇	四〇、九五六、九五〇	—	一三一、五七〇、六六〇
同六年度	（豫算）六〇、九二二、〇〇〇	一〇、一二二、〇〇〇	一、四〇四、〇〇〇	四、二四七、〇〇〇	一〇八、〇〇〇	三七、〇六六、〇〇〇	—	一一三、八六九、〇〇〇

備考　大正七年度ヨリ俸給等總テ本校扱トナル、本表ハ決算額ヲ示ス

臨時費内譯　其ノ一

區別	新營費	設備費	土地購入費	計
明治三十九年度	四四、三二二円、〇〇〇	八、二六四円、〇〇〇	七五〇円、〇〇〇	五二、三三六円、〇〇〇
同四十年度	—	一、二六七、七五〇	—	一、二六七、七五〇
同四十一年度	一二、一六〇、〇〇〇	一、二五〇、〇〇〇	—	一三、四一〇、〇〇〇
同四十二年度	二八、〇九八、〇〇〇	九〇二、〇〇〇	—	二九、〇〇〇、〇〇〇
同四十三年度	六、四八三、〇〇〇	—	—	六、四八三、〇〇〇
同四十四年度	一、八〇四、〇〇〇	—	—	一、八〇四、〇〇〇
同四十五年度	—	—	—	—
大正二年度	—	—	—	—
同三年度	—	—	—	—
同四年度	—	—	—	—
同五年度	—	—	—	—
同六年度	—	—	—	—

臨時部　其ノ二

區別	新營及設備費	臨時手當	風水害復舊費	俸給又ハ旅費補足	臨時教育施設費	臨時修繕費	退職特別賜金	計
大正七年度	△二一、二八七、〇〇〇円 三〇七、五〇〇	二、七二一、〇一〇円	—	—	—	—	—	二四、三一五、五一〇円
同 八年度	一、五〇九、五二〇	七、二八〇、五一〇	一、一七一、三六〇	一五八、五六〇	—	—	—	一〇、一一九、九五〇
同 九年度	三七九、七六〇	四、一〇三、〇〇〇	—	九六九、〇〇〇	五、一九五、九五〇	—	—	一〇、六四七、七一〇
同 十年度	△九六、三二三、〇〇〇 八、一八六、三八〇	—	—	—	—	一、九九九、七〇〇	—	一〇六、五〇九、〇八〇
同 十一年度	△三七、一六〇、〇〇〇 五、九九九、六一〇	—	二、〇七四、九四〇	—	—	—	—	四五、二三四、五五〇
同 十二年度	△三九、五八九、六六〇 四、九九九、五一〇	—	—	—	—	—	—	四四、五八九、一七〇
同 十三年度	△六、二八〇、〇〇〇	—	—	二、〇九三、三一〇	—	—	—	八、三七三、三一〇
同 十四年度	—	—	—	—	—	—	六五八、九九〇	六五八、九九〇
同 十五年度 昭和元年度	△二五、〇〇〇、〇〇〇	—	四、〇〇〇、〇〇〇	—	—	—	—	二九、〇〇〇、〇〇〇
同 二年度	△二〇、〇〇〇、〇〇〇 六九九、三〇〇	—	—	—	—	—	—	二〇、六九九、三〇〇
同 三年度	二、一〇五、〇〇〇	—	—	—	—	—	—	二、一〇五、〇〇〇
同 四年度	△一四、二六七、〇〇〇 八四〇、〇〇〇	—	—	—	—	四、八八一、八五〇	—	一九、九八八、八五〇
同 五年度	△一七、〇〇〇、〇〇〇 三、三八三、〇〇〇	—	△六、三〇〇、〇〇〇	三三五、四七〇	—	—	—	二七、〇一八、四七〇
同 六年度	二、二九〇、〇〇〇	—	—	—	—	—	—	二、二九〇、〇〇〇

備考 本表△印ハ本府直營ノ本校工事ニシテ決算額又ハ豫算額ヲ示ス

第六 土地及建物

一 土地

所在地	名稱	反別	摘要
京畿道水原郡日荊面西屯里	水原高等農林學校校舍及官舍敷地	一二町九九七	
同	水原高等農林學校校舍敷地	八四七四	
同	水原高等農林學校寄宿舍敷地	▲一一八四 〇二三	東山農事株式會社ヨリ借地
同	水原高等農林學校附屬地	一四〇五	
同	水原高等農林學校用地	二六〇〇	
同	水原高等農林學校果樹園敷地	▲七八五	東山農事株式會社ヨリ借地
同	水原高等農林學校演習林	▲二六八六二	同
同	水原高等農林學校附置實業補習學校敷地	▲一〇二二 三八八	東山農事株式會社ヨリ借地

京畿道水原郡梅松面金谷里 水原郡梅松面好梅實里	水原高等農林學校 七寶山演習林用地	六七	一六〇		
全羅北道全州郡所陽面大興里	水原高等農林學校 演習林及苗圃用地	◎二、六七九三	四〇三 〇〇〇	國有地使用	
計	校有地	九七	二四五	總反別使用內譯 水田 二、六〇〇町 桑園 〇、七二九 補習學校經濟農場 苗圃地 二、六七一 演習林 二、七七四、八二四 樹木園 四、四〇七 校舍、官舍及寄宿舍敷地其他	畑 五、二一二町 果樹園 〇、七八五 〇、八二〇 水原 一、〇七一 全州 一、六〇〇 水原 九四、〇三三 全州 二、六八〇、八〇三 一三、二五五
	▲借地	二九	〇五八		
	◎國有地使用地	二、六七九	〇〇〇		
總計		二、八〇五	三〇三		

二 建物

所在地	名稱	構造種類	員數	建坪	摘要
京畿道水原郡日荊面西屯里	校舍	木造洋式瓦葺	四	四六〇坪三七	本府引繼未了分包含ス
同	渡廊下	木造瓦葺	二	二七〇〇	
同	同	木造亞鉛板葺	一	五〇〇	
同	宿直室	木造瓦葺	二	四〇一九	本府引繼未了分包含ス
同	物置	同	一	一五〇〇	
同	同	木造亞鉛板葺	一	一〇〇〇	
同	實習室	同	一	三二〇〇	
同	收納舍	木造瓦葺	一	一二〇〇	
同	農具舍	木造亞鉛板葺	三	七三〇〇	
同	ラムプ室	煉瓦造亞鉛板葺	一	二四七	
同	畜舍	木造瓦葺	一	二五五〇	
同	堆肥舍	木造亞鉛板葺	一	一五〇〇	
同	肥料舍	同	二	四二〇〇	
同	現業事務所	木造瓦葺	一	四六〇〇	
同	動植物實驗室	木造洋式瓦葺	一	七九五〇	
同	化學實驗室	同	一	九〇五〇	地下 六、九三

同	氷庫	同	一	二〇	二五	
同	御眞影奉安所	煉瓦造銅板葺	一	一	三六	
同	武器庫	木造瓦葺	一	一六	〇〇	
同	消防器具置場	同	一	一〇	五〇	
同	養蠶室	同	一	一二四	五七	二階 一一二・五〇 地下 六・〇〇
同	釜場	同	一	一五	〇〇	
同	豚舍	同	一	三八	〇〇	
同	雞舍	同	一	三三	〇〇	
同	作業室	同	二	八三	五九	本府引繼未了分包含ス
同	官舍	木造平家建瓦葺	一六	四九九	六五	奏任官舍 六 判任官舍 一〇(内二戸住二棟) 本府引繼未了分包含ス
同	官舍附屬物置	木造瓦葺	四	一二	六〇	奏任官舍用 本府引繼未了分包含ス
同	同	木造亞鉛板葺	七	一三	八二	判任官舍用 本府引繼未了分包含ス

同	宿舍	木造平家瓦葺	三	九五	〇〇	二戸住 一棟 一戸住 一棟 四戸住 一棟
同	宿舍附屬物置	木造亞鉛板葺	四	九	五〇	
同	宿舍附屬浴室	同	一	一	〇〇	
同	農夫舍	木造瓦葺	一	一一	一八	補習學校用 本府引繼未了
同	寄宿舍	木造平家瓦葺	四	三一六	五〇	
同	同	木造二階建瓦葺	二	一八九	四〇	二階 一八九・四〇 本府引繼未了分包含ス
同	寄宿舍渡廊下	木造亞鉛板葺	四	五一	五〇	
同	寄宿舍浴室	同	一	四〇	〇〇	
同	寄宿舍便所	木造瓦葺	二	一五	〇〇	
同	寄宿舍附屬舍	同	一	六三	七五	
同	食堂及渡廊下	同	一	六三	二五	
同	炊事場	木造亞鉛板葺	一	五一	〇〇	

全羅北道全州郡所陽面大興里	事務所	木造瓦葺	一	四四〇〇		
同	監視所	同	一	二〇七五		
同	農具舍	同	一	三〇〇〇		
總計			八九	二、八四五七〇		

總建坪內譯

校舍及附屬舍	一、二二一・一五	
官舍及附屬舍	五二六・〇七	（奏任官舍及附屬舍　二三八・四六 判任官舍及附屬舍　二八七・六一）
宿舍及附屬舍	一〇五・五〇	
寄宿舍附屬舍	七九〇・四〇	
補習學校々舍及附屬舍	一〇七・八三	
全州演習林附屬建物	九四・七五	

第七　職員

一　現職員（昭和六年八月末日現在）

				本籍	就職年月
校長					
教授					
	農政學、農學大意、農業經營學	主事（農學部長）	農學士　八田吉平	福島	大正一三・一
	森林植物學、造林學、林業	生徒監（林學部長）（生徒課長）	農學博士　植木秀幹	愛媛	明治四〇・三
	森林土木及治水學	總督府技師	林學士　石田常英	宮城	大正一五・九
	獨逸語、森林數學、森林經理學、林業	（演習林長）	林學士　鈴木外代一	富山	同　七・六
	英語、作物學及育種學、實驗遺傳學	（實驗農場長）	農學士　木村隆	宮城	昭和三・三
	物理學及氣象學、農具論、農業工學、土地改良學、數學		農學士　川口清利	茨城	大正一三・二
	英語、植物學、植物病理學、樹病學、細菌學、病蟲害論	（教務課長）	農學士　中島友輔	長崎	同　八・六
	畜產學、家畜飼養學、獸醫學大意、農學大意		農學士　葛野淺太郎	福岡	同　一一・八
	昆蟲學、病蟲害論	農事試驗場技師	パチエラー・オブ・アーツ　中山昌之介	茨城	昭和二・二
		（在外中）生徒監	農學士　廣田豐	宮城	大正一三・九

養蠶學				
森林利用學、林產製造學、英語、林業				
化學、土壤學、農產製造學、農藝化學				
修身、獨逸語、教育學				
配屬將校				
教　練				
助教授				
數學、森林測量學、森林土木及治水學				
園藝學、農學大意				
作物學、園藝學				
獨逸語、動物學、森林保護學及狩獵術、林學大意、林業				
數學				
作物學、朝鮮語				
英語、法學通論、經濟學、行政法大意、財政學、法制經濟				
獨逸語、林政學、森林法律及森林管理學				
教　諭				
修身、理科、農業				
農事試驗場技師	農學士	中村鐵夫	岡山	同　一四・一〇
（圖書課長）	林學士	山林　暹	大阪	同　一一・五
（舍　監）	農學士	趙伯顯	京畿	同　一四・四
（舍　監）	文學士	佐藤得二	岩手	昭和　二・七
	步兵中佐	有留輝三	廣島	昭和　五・三
		飯村俊	茨城	大正　一三・三
（舍　監）		松岡哲仙	鳥取	同　一四・七
（舍　監）		村田芳彥	山口	昭和　二・七
（舍　監）		齋藤孝藏	秋田	大正　一三・四
林業試驗場技手	農學士	柴山榮	大分	同　一五・八
（舍　監）		李台鍾	京畿	昭和　五・三
	法學士	齋藤嘉榮	北海道	同　四・六
	農學士	井上一郎	兵庫	同　六・五
		佐藤勝行	福岡	昭和　五・一一
國語、農業				
國語、算術、農業				
囑託教員				
國語				
體操				
講　師（就職順）				
土地改良學				
土地改良學				
土地改良學				
土地改良學				
作物學				
森林經理學				
土地改良學				
地質學				
朝鮮語				
土地改良學				
養蠶學				
		朴榮穆	慶北	昭和　四・六
		玉川喜三郎	岩手	同　五・七
（舍　監）		細木辰猪	高知	昭和　六・二
（舍　監）		中本軍治郎	廣島	同　四・一一
總督府技師	農學士	橋本左太郎	福岡	大正　一五・三
總督府技師	工學士	勝呂正吾	靜岡	同　同
總督府技手		古田正信	北海道	同　同
總督府技師	農學士	加藤正擴	愛知	同　一五・七
農事試驗場技師	農學博士	永井威三郎	東京	同　一五・八
總督府技師	林學士	松岡脩三	愛媛	同　一五・九
總督府技師	農學士	得能繁男	廣島	昭和　二・一〇
總督府技師	理學士	立岩巖	福島	同　三・五
京城師範學校教諭		寺田常治	茨城	同　同
農事試驗場技手	農學士	坪內俊三	石川	同　四・七
農事試驗場技手		福田順	栃木	同　五・二

第七職員

家畜飼養學、獸醫學大意　農學士　內田幸夫　福岡同　五・四
畜産學　農事試驗場技師　農學士　油井岱治　岩手同　同
土地改良學　總督府事務官　法學士　美根五郎　福岡同　五・五
土地改良學　總督府技師　工學士　佐原辰雄　廣島同　同
土地改良學　總督府技師　農學士　片山敏夫　山形同　六・二
化學、肥料學　農事試驗場技師　農學士　三須英雄　山口同　六・四
體操（柔道）　京城師範學校訓導　依田德藏　長野同　六・五

書記

（庶務課長）　西村久三郎　長崎　大正一四・一
庶務、會計　松原幸高　島根同　三・四
（倉庫監）　橘田實平　山梨同　五・八
教務、庶務　小岩勇岩　手昭和四・二
事務囑託　總督府技手　嶺峻宮城　大正一四・五
雇員　京畿道立水原醫院長　松本利雄　福岡　大正一四・四
庶務課　安部孝次郎　山形　昭和二・二
演習林　森元昇　廣島同　同
庶務課兼教務課

助手

林學部　尹達容　忠北　大正三・四
同　山本豊記　熊本同　二五・四
演習林　申泰登　忠北　昭和六・四
實驗農場　松浦勝二　山口同　三・二
同　倉光壽朔　鳥取同　四・一
植物、昆蟲　李石鍾　京畿同　四・四
實驗農場　德川勝美　廣島同　三・四
農藝化學　吉崎博德　鳥同　四・四
養成所（臨時）　國分喜四郎　福島同　六・一
實驗農場（同）　小芦弘　佐賀同　六・六
土地改良（同）　川本健　愛媛同　六・七
實驗農場（同）　阿世知秋雄　鹿兒島同　六・八
補習學校　早乙女正行　栃木　昭和四・六
圖書課　安敎英　京畿同　五・六
庶務課　李在雨　京畿　大正二五・九

傭夫

第七職員

林業夫
農夫
同
牧夫
傭夫
林業夫
同

給仕

小使

臨時運轉手

板倉寅吉 千葉 大正 八・一
水谷正三郎 愛知 同 一一・四
廣渡清 佐賀 同 一三・五
廣渡良雄 佐賀 同 一三・四
李玉萬 京畿 同 一三・六
金德順 京畿 昭和 三・七
朴相云 京畿 同 五・二
金知榮 京畿 昭和 五・一三
宋榮煥 京畿 同 六・五
田島重政 宮崎 大正 一三・八
李昌成 京畿 同 七・五
崔寅奎 京畿 昭和 五・七
柳春萬 京畿 同 六・八
權永錫 忠北 同 六・三

二舊職員（昭和六年八月末日調）

氏名	職	就職年月日	退職年月日	在職期間
徐丙肅	校長	明治三九・九・一	明治四〇・二・二七	年月五
卞國濬	教授補兼司監	三九・九・三 九・一二	四〇・六・二八	九
尹泰重	教授補助教諭	三九・九・三 四五・七・一三	四二・四・一四	一五・三
尹觀儀	教授	大正一〇・四・二〇 一一・四・一	大正一四・三・二八 明治四三・九・三〇	四・〇
豊永眞里	書記	明治三九・九・三		
岡衛治	囑託教授兼校頭兼任教授兼任教諭	三九・九・一 四一・一・一 四三・一〇・一	四三・九・三〇 四五・四・一	五・五
道家充之	兼任教授	三九・九・	四一・四・一〇	一・七
入交清江	兼任教授	三九・九・	四一・四・一〇	一・七
戸來秀太郎（小笠原）	囑託教授	明治三九・九・ 四一・一・一	四三・九・三〇	四・一
柳田由藏	囑託教授教授教諭	三九・九・ 四一・一・一 四三・一〇・一	四一・四・二二 四四・一二・一六	二・九
原田長太郎	兼任教授	三九・九・	四一・四・一〇	一・七
	書記代辯書記	三九・九・八 四一・一・一	四二・五・三一	二・八

糟谷子之吉	小使	明治三九・一二・三〇	四二・六・一五	二・五
金岩與八	農夫	四〇・一・三一	四二・六・九	二・四
增田誠	農夫	四〇・二・四	四一・一・三一	一一
鄭鎭弘	校長	四〇・二・二七	四一・一・一	一〇
青木武吉	農夫	四〇・五・一八	四二・四・三	一・一〇
韓廷敎	敎授補	四〇・八・八	四三・九・三〇	二・一
本田幸介	校長	四一・一・一	大正八・一二・一〇	一一・一一
宮原忠正	敎授兼任敎諭	四一・一・一	明治四五・三・二七	七・三
	兼任敎諭	四三・一〇・一	大正五・七・一九	
		大正二・六・二八		
下田哲雄	事務助手	明治四一・一・二五	明治四三・四・二二	二・二
兒玉瑳介	助手	四一・一・二五	四一・六・四	四
岸秀次	敎授	四一・三・七	四三・二・一五	一・一一
伏見榮作	農夫	四一・三・一一	大正一一・三・二	一三・一一
曺鼎煥	書記兼敎授補	四一・四・七	明治四二・四・一三	一・〇
向坂幾三郎	講師兼任敎諭	四一・四・二七	四五・三・二七	一三・三
	同兼任敎授	四四・四・一一		
	講師兼任敎授	大正元・九・二		
		七・四・一		
		一〇・八・一一	一〇・五・一八	
			一二・三・二七	

菊池爲行	講師	明治四一・四・二七	明治四一・一一・九	六
松脇武二	講師	四一・四・二七	大正三・一一・一四	六・六
指宿武吉	敎授	四一・六・一	明治四三・二・一五	一・八
中村喜八郎	小使	四一・七・一三	四四・二・二五	二・七
中川文彌	農夫	四一・一二・二六	四三・二・二六	一・二
李容勳	敎授補	四二・四・一六	四四・七・二八	四・一一
	助敎諭	四三・一〇・一	大正六・五・二一	
	助敎諭	大正三・九・三〇		
長岡哲三	講師	明治四二・四・二〇	明治四三・一〇・一	四・六
	助敎諭	大正元・八・二九	大正四・一〇・五	
	兼任助敎諭	大正二・四・七		
宋秉泰	敎授補	明治四二・四・二三	明治四三・四・一九	一一
梁鎭昂	敎授補	四二・四・二三	四二・七・二七	三
長濱直哉（義三郎）	書記	四二・五・三一	大正二・三・三	三・九
崔正燮	小使	四二・六・三〇	明治四四・四・一四	一・九
金聲漢	講師	四二・一〇・一一		
森高源藏	書記	四二・一一・六	四三・一〇・一	一〇
長東正規	給仕	四二・一一・六		
下田安雄	事務助手	四三・四・二三	大正三・九・二七	四・五
	雇	四四・四・一		

李貴孫	吉尾學	牧元給仕	川口清助	野木傳三	林漢龍	野村（東野）稔	澤富四郎	川本精一	花上佐太郎
小使	校醫	給仕	校醫	教諭	助教諭	兼任助教諭	助教授	農夫	農夫
四四・三	四四・二	四三・五	明治四三・三	大正四・七・二六	大正四・一〇・三	四四・一一・九	四四・一二・一九	四五・三・二八	四五・七・一五
五・三一	一五	八・三	一	七・二六	一〇・三	一二・三〇	一二・一九	三・二八	七・一五
四・一	四・一	四・二一	五	一・五	三・〇	一・五	一・九	一・六	二・一

李主貞	朴元洪九	許希泳	朴璿齋	許泳	花上佐太郎	川本精一	澤富四郎	野村（東野）稔	野木傳三
助教授補	助教授	助手	講師	兼任教諭	農夫	農夫	助教授	兼任助教諭	教諭
四三・一〇・一五	四三・一〇・一九	四三・五・二四	四三・四・二一	四三・五・二八	四三・六・二六	四三・七・一〇	四三・一〇・二六	四四・九・一九	明治四三・一二・二五
四・一	四・八	四・一	四・一	四・一	四・一	四・一	四・一	四・一	四・一

李鍾昨	藤原照雄	武田總七郎	小川鷹二	長田豊仕	在里重雄	西村貞良	伊藤孝次	朴敬淳	許龍興
演習林監督兼助教授	農夫	兼任教諭兼任教授	校醫	給仕	農夫	兼任教諭	兼任助教諭	書屋、武器及圖書掛兼書手	助教諭
大正一〇・一一・二一	明治四五・七・一三	大正元・一〇・一一・一九・二四	四四・九・九	四四・一二・二二	四五・四・一七	四五・二・一二	明治四四・一二・六	大正四・一〇・二五	四四・九・一六
三・一	一三・三	五・三一	二・一〇	三・四・二七	六・一二・三一	四・一〇・二七	二・三・一五	一〇・一〇・七	五・三・一六
五・五	一・四	七・八	一・五	二・八	六・七	三・八	一・三	一〇・〇	四・六

金奎承	二村與壯	張文弘	野村（東野）稔	林漢龍	野木傳三	牧元給仕	川口清助	吉尾學	李貴孫
助教諭	小使	小使	兼任助教諭	助教諭	教諭	給仕	校醫	校醫	小使
四四・九・九	明治四四・八・一六	明治四四・六・三	大正元・一〇・一一・一六	大正四・一〇・二五	明治四五・一一・二五	明治四三・三・一	明治四三・一二・一二	四四・二・一五	四四・三・一
九・九	八・一六	一九・一	四五・六	四三・一〇・二五	四三・一〇・二五	四三・一	四三・一〇・一一	四四・二・一五	四四・三・一

加渡元一	張文弘	二村與壯	金奎承	許龍興	朴敬淳	伊藤孝次	西村貞良	在里重雄	長田豊仕
助手	小使	小使	助教諭	助教諭	書屋、武器及圖書掛兼書手	兼任助教諭	兼任教諭	農夫	給仕
明治四四・一〇・一一・一六	明治四四・六・三・一九	大正元・一〇・一一・一六	明治四四・八・一六	四四・九・一六	大正四・一〇・二五	明治四四・一二・六	四五・二・一二	四五・四・一七	四五・四・二二
大正二・七・三一	明治四四・一二・九・三〇	大正二・一〇・一六	四四・二・一〇	四四・三・一六	一〇・一〇・七	二・三・一五	四・一〇・二七	七・一二・三一	三・四・二〇
三・一	一六・一	三・〇	一・五	二・八	三・八	一・三	四・一一	六・七	一・一一

小川鷹二	藤原照雄	李鍾昨	武田總七郎	藤原照雄	小川鷹二	李鍾昨	武田總七郎	藤原照雄	小川鷹二
校醫	農夫	演習林監督兼助教授	兼任教諭兼任教授	農夫	校醫	演習林監督兼助教授	兼任教諭兼任教授	農夫	校醫
四五・四・二三	明治四五・七・一三	大正元・一〇・一一・一九・二四	大正五・一〇・一一・一九・二一	四五・四・二三	四五・四・二二	大正元・一〇・一一・一九・二四	大正四五・七・一三・四・一	明治四五・七・一三	四五・四・二三
二・一〇・一三	四・七・一	七・四・二九	二・九・二四・一	二・一〇・一三	三・四・二〇	七・一二・三一	九・三・二九	四・七・一	二・一〇・一三
一・五	二・一一	七・八	一六・一	一・五	一・一一	六・七	三・八	二・一一	一・五

松田彦三郎	助教諭	大正二・五・二二	七・四・一	四・一〇
五十嵐美輔	書記	二・六・二八	七・四・一	四・九
尹丙燮	助教諭	二・八・一五	三・三・三一	七
山崎森三郎	兼任助教諭	二・一一・一三	六・四・五	三・四
永岡堯	教諭 教授 兼任教授	二・一二・一二 七・四・一 八・六・一六	九・九・二一	六・九
李光馥	演習林監督 助手	二・一二・二五 七・六・三	三・三・二六 一二・四・二〇	五・二
名倉勝	兼任助教諭	三・二・五	三・三・三一	一
吉原勇三	校醫	三・二・一五 四・四・一 七・四・一	一四・三・三一	一一・一
金興根	演習林監督 助手	三・四・二〇 四・四・一	四・三・二三 五・二・一二	一・九
的場萬登	給仕	三・四・二四	七・三・三一	三・一一
古川五太夫	小使 同	三・四・三〇 三・一〇・一五	三・八・一九 八・三・五	四・八
岩崎綱江（野元）	雇	三・一〇・三〇	七・一一・一三	四・〇
上杉綱雄	教諭 教授	四・一二・三 七・四・一	八・八・一三	三・八
杉沼忠三	講師	五・六・八	六・一〇・二	一・四

中田覺五郎	兼任教諭 兼任教授 同	大正五・七・二六 七・四・一 七・六・四	大正八・一・一〇	二・五
岩崎行高	兼任教諭 兼任教授 兼任教授	五・七・二六 七・四・一 七・六・四	九・七・一五	三・一一
鏡保之助	校長代理 兼任教諭 同教授	五・七・三〇 六・五・一六 七・四・一	一〇・八・二六	五・〇
岩田次郎	教諭 教授	五・一二・二五 七・四・一	六・二・一一 一〇・三・三〇	三・一
岸良小次郎	兼任助教諭 兼任助教授 兼任教授	六・四・一五 七・四・一 一〇・三・二九	一〇・三・三〇	三・一一
青屋千歳	講師	六・五・一七	七・二・一九	九
森良吉	講師	七・四・一	八・九・一八	一・五
岡崎俊二	書記	七・四・一	一三・二・一九	五・一〇
宇留島喜六	助教授	七・四・一	九・八・三一	二・四
塚口爲吉	小使	七・五・一〇	一二・四・六	四・一〇
李允載	助教授	七・五・一六	一三・四・五	五・一〇
的場健二郎	給仕	七・五・一六	九・四・一九	一・一一
逑金益一	雇員	七・五・三一	九・六・二二	二・〇

細川殿徳	叙任敕授	同	七・一三	七・一一・二六	四
前田末喜	助教授	七・九・三	八・七・二三	一〇	
伊藤鐵治	講師	七・九・一八	一〇・五・二	二・七	
大森謹平	敕授	八・六・一六	九・一一・九	一・四	
柳安彦	雇員	八・三・三一	一〇・六・九	二・二	
早津一彌	同助手	一一・八・一四	大正九・一一・二六 一五・一二・三	六・二	
高樹宇一	敕授	八・九・八	昭和六・四・二七	一一・七	
的場萬吉	小使	八・一〇・一	大正九・九	一一	
中原永一	助教授	昭和四・八・一二・九	四・九・七	九・九	
橋本左五郎	校長	大正八・一二・一〇	一二・三・一五	三・三	
齋藤辰之助	雇員	九・四・一	昭和四・六・二二	九・二	
李公雨	雇員	九・四・一	二・一・三一	六・九	
李炳徳	給仕雇員	一一・九・二五	一五・三・三一	五・一〇	
樫野慶三郎	雇員	九・六・一	九・一七	三	
西川久	講師同敕任敕授	一一・九・四四・七	八・一一・四・一九	二・一一	

本橋平一郎	助教授	大正九・九・二〇	大正一〇・八・二二	一一	
市島吉太郎	囑託敕員敕授	九・一一・二〇	昭和三・七・一九	七・九	
河村悦郎	助手	九・一〇・六	大正一一・四・二四	一・六	
松浦輝馬	小使	九・一一・一	一一・四・七	一・五	
草場榮喜	敕授	一〇・二・二八	一三・一二・一九	三・九	
大島清助	農夫	一〇・四・一	一五・三・六	四・一一	
岡本半次郎	講師拿任敕授	一三・五・六・一九	一三・一二・九	三・七	
舟木衛之助	雇員	一〇・七・四	一四・四・四	三・九	
増村嘉門	同助教授	一〇・七・四・二一	一二・六・五	一・一〇	
田中芳夫	雇記員書	一一〇・八・二八・二五	一三・四・五	二・八	
渡邊九郎	助教授	一一〇・八・四・一〇	一一・四・二二	八	
鈴木眞吉	講師	一〇・八	一三・一二・九	三・三	
山本一彌	副手	一〇・八・三一	一〇・一一・二六	二	
井芹武	同助教授	一一〇・一〇・一四	一四・一〇・一〇	四・〇	
神邊利重	副助手	一一〇・一〇・五	一一・五・二三	六	

細田謙次郎	助手	一〇・一一・一〇	一三・六・二	二・六
石綿政治	助教授 同	一〇・一一・二六 一一・四・一	一四・一・一〇	三・一
村岡璋	助手	一一・二・七	一三・四・五	二・二
金順植	給仕 雇員	昭和 一一・二・二〇 一二・一二・一五	昭和 四・八・八	七・五
柳光治郎	副手	大正 一一・三・一〇	大正 一二・四・六	一・〇
松浦春松	小使	一一・四・六	一二・四・一〇	一・〇
寺戸彈雄	雇員	一一・五・五	一三・八・六	二・三
重川逸嗣	副手 助手	一一・六・一 一二・四・一四	一二・四・一六	一〇
立山軍藏	講師 教授	一二・四・四 一三・一二・二四	一三・五・一四 一五・九・七	二・九
日野原信	雇員	一二・四・五	一二・八・六	四
安井實之助	副手 助手	一二・四・七 一三・六・三〇	一四・四・一四	二・〇
安藤唯一	助手	一二・四・二三	一二・一二・一四	七
福田福盛	副手	一二・四・二七	一三・一〇・九	一・五
田中慶次	小使	一二・五・一	一五・八・三一	三・四
大工原銀太郎	校長	一二・五・三	一五・三・一九	二・一〇
影山勇	雇員	一二・八・六	一四・三・三一	一・七

橋本恒五郎	講師	大正 一二・九・一七	大正 一三・一二・一五	一・三
鈴木恭介	講師	一二・一一・九	一五・一・三九	二・二
加藤重吉	小使	一三・二・一六	一四・四・一八	一・二
最所龜之助	書記	一三・三・二四	一四・一・一六	九
丸山長清	助手	一三・四・一	一四・四・二四	一・〇
越智昌雄	副手	一三・五・一三	一三・一〇・二	一・四
白井規一	講師	一三・五・一三	一三・一二・二四	七
中島彌市	書記	一三・五・一三	一五・一二・二三	二・七
高橋昇	講師	一三・五・一七	一五・一・二九	一・八
市村毅	講師	一三・六・五	昭和 三・五・八	三・一一
松尾茂	教授	一三・六・一九	六・五・六	六・一一
梅谷與七郎	兼任教授 講師	一三・七・九 一四・一・二四	大正 一三・一二・二四 昭和 六・七・二一	六・一一
和田正三	助教授	一三・八・四	大正 一五・一〇・二五	二・二
金川渉	雇員	一三・八・一四	昭和 四・一一・五	五・二
柳澤弘	助手	一三・八・一九	大正 一四・八・三一	一・〇
田中弘吉	講師	一三・八・二二	一三・一二・二四	四

鈴木文夫	講師	一四・一・二四	昭和二・一・二一	一四・五・一四	三		
夏目與市	副手	一四・四・一〇	一四・四・四	二			
三浦榮屋	雇員	一四・四・一	一五・八・七	一・四			
奥田正助	助手	一四・四・一七	一五・一・三〇	九			
田中敎義	講師	一四・四・六	一五・一〇・四	一・五			
釘田操	助手	一四・四・二三	昭和二・一・二一	一・八			
木藤重德	講師兼任敎授	一四・四・二五	大正一五・一一・二七	一・七			
横山信勝	助手	一四・四・二八	一五・五・二四	一・〇			
北川彌一郎	助手	一四・五・一	一四・九・一四	四			
足立行夫	副手	一四・五・二二	一五・四・二	一・〇			
山本實	副手	一四・九・一〇・三〇	昭和三・三・二四	二・七			
西出秀吉	助手	一四・一〇・一六	二・一・二八	一・三			
中村哲夫	講師	一四・一一・三〇	大正一五・一一・三〇	一・一一			
淺野健一	講師	一五・三・六	昭和三・四・三〇	二・一一			
增田傳八	助手	一五・三・三一	二・五・一四	一・一			

黃一周	臨時雇員	大正一五・四・一四	大正一五・一一・二七	七			
西次雄	講師	一五・四・一九	昭和三・六・一	二・一			
柳幸太郎	林業夫	一五・四・二七	大正一五・一一・三〇	八			
尹泰東	講師	一五・六・二二	昭和三・五・一	一・一〇			
刀彌富衛	給仕	一五・六・二五	四・四・二〇	二・九			
本田宇三郎	助手	一五・八・二八	大正一五・九・三〇	一			
久間健一	助敎授	一五・一〇・三一	昭和四・一二・二三	三・一			
李廷善	臨時雇員	一五・一一・三〇	昭和二・一二・二一	一・一			
新井利邦	助手	大正一五・一一・一八	昭和元・一二・二八	一			
鎌塚扶	講師	昭和二・一・五	四・一〇・八	二・八			
李炳世	林業夫	二・一・一五	四・一一・六	一・一一			
伊藤正明	助手	二・二・一七	四・一一・三〇	二・九			
小濱喜太郎	助手	二・二・二一	三・一一・一九	一・八			
廣瀨敏宏	助手	二・三・一四	四・三・二九	二・〇			
大野謙一	講師	二・三・二三	二・七・八	三			
甲斐進	助手	二・四・一九	三・三・二四	一一			

和田初二	助手	二・五・一四	三・二・二二	九
高木千丈	講師	二・五・二五	二・八・三〇	三
福井義皆	助手	二・七・二七	二・一〇・六	二
中村藤吉	講師	二・八・八	二・一二・二八	四
碓井忠平	講師	二・一〇・二八	四・一一・三〇	二・一
木村徹	助手	二・一一・一五	五・七・一二	二・七
金錫浩	小使兼巡視心得	三・一・一		一・六
	小使兼運轉手	三・一〇・三	四・七・一七	
田中弘	給仕	三・一・二六	四・三・二三	一・一
尹甲容	臨時雇員	三・二・三		二・四
	雇員	三・四・二一	五・六・四	
尹福連	給仕	三・四・一三	六・二・二八	二・一〇
武內晴好	講師	三・五・一六	五・四・四	一・一〇
吉田貴垣	配屬將校	三・六・三〇	五・三・七	一・八
星子新藏	講師	三・七・二〇	五・二・七	一・六
竹上文雄	講師	三・八・二二	四・一一・三〇	一・三
劉占善	小使	三・一〇・一一	六・五・二〇	二・七
劉允喜	給仕	三・一〇・一三	五・一一・一一	二・〇

中島三郎	講師	昭和三・一〇・二六	昭和五・四・四	一・五
劉千萬	林業夫	四・四・二	五・二・一二	一〇
裵相河	講師	四・四・二〇	四・一〇・八	六
柴田正悟	教諭	四・六・一〇	五・九・五	一・二
中村元一	臨時助手	四・八・一		八
	助手	四・一一・三〇	五・一・一六	
	助手	六・一・二四	六・五・六	
李在衡	雇員	四・九・三	五・五・三一	八
朴東植	臨時小使兼運轉手	四・一〇・一四		一・一
	小使兼運轉手	五・四・七	五・一一・一四	
李貴成	小使	五・二・一	五・五・五	三
三森善正	臨時助手	五・四・一一	五・六・一五	二
近藤馨	臨時助手	五・四・一一		九
	助手	五・一二・三一	六・一・二四	
原喜代太郎	臨時助手	五・五・一七		一・一
	助手	六・六・二六	六・六・二七	
淺川繁喜	臨時助手	五・五・二三	六・一・二四	八
渡邊寛成	臨時助手	五・六・一六	五・七・二九	一
朴順龍	臨時運轉手	五・一一・一五	六・三・二七	四
片多博	臨時助手	六・五・一三	六・六・三〇	一
山田光次	給仕	四・四・八	六・八・二六	二・四

第八生徒

一生徒數（昭和六年八月末日現在）

區別 / 科別		第一學年			第二學年			第三學年			合計		
		內地人	朝鮮人	計	內地人	朝鮮人	計	內地人	朝鮮人	計	內地人	朝鮮人	計
農學科		二九	一一	四〇	三三	一三	四六	三四	一四	四八	九六	三八	一三四
林學科		一六	八	二四	三	二	五	二	六	八	二一	一六	三七
計		四五	一九	六四	三六	一五	五一	三六	二〇	五六	一一七	五四	一七一
附置實業補習學校		九	七	一六							九	七	一六
附屬實業教員養成所													
附屬實業學校		一	一	二	一		一				二	一	三
補習學校													
計		五五	二七	八二	三九	一七	五六	三六	二〇	五六	一三〇	六四	一九四

二生徒氏名（ABC順）

農學科第三學年（三十八名）

（中、農ハ鮮内ノ中學校、農學校ヲ示シ 中ハ在滿中學校ヲ示ス）

馬場國俊（中、長崎）　卞　敬燮（高普、慶南）
藤井修一郎（中、福岡）　尹　武烈（高普、慶北）　卞　敬燮（高普、慶南）
石井一郎（農、靜岡）　岩谷律藏（中、東京）　石橋正道（中、東京）　金原信夫（中、靜岡）

河合武雄（中、富山）　金　相賢（高普、全北）
康　炳胄（高普、平北）　黃　鍾壽（高普、全南）
姜　鎭馨（高普、忠南）　松田達男（中、宮城）　上月五郎（中、熊本）　松本喜太郎（中、大分）
中西義夫（農、京都）　中野惟俊（中、大分）
南　榮熙（高普、忠南）　丹羽政雄（中、愛知）　鬼塚秀逸（中、長崎）
大谷茂久（農、佐賀）　李　丁明（高普、慶北）
櫻井秀夫（中、大阪）　成　樂昌（高普、忠南）　島崎岩雄（中、福岡）
篠原謙三（中、香川）　史　宗善（高普、江原）
末松　勇（中、福岡）　高橋邦弘（中、鹿兒島）　山本四郎（中、兵庫）
楊　麟錫（農、慶北）　吉次正美（中、佐賀）

林學科第三學年（二十一名）

吳　桂煥（中東、京畿）　濱中益太郎（中、大阪）　橋本重一（農、愛知）
廣瀨貞雄（中、大分）　善　熙（高普、忠北）　木本　豊（中、大分）
金　弼裕（高普、咸南）　傳　一（中、佐賀）　森　正（中、愛媛）
岡田次男（農、愛知）　河內一郎（中、東京）　李　隆根（高普、京畿）
崔　鍾千（高普、京畿）　坂本　繁（中、長崎）　宋　龍柱（高普、忠北）
竹內長一（中、愛知）　谷岡雅俊（中、高知）　內田　勇（農、熊本）

矢田虎雄（中、山口）　山田勇次（中、佐賀）　箭島宏（中、山口）

農學科第二學年（三十四名）

青木等（中、福岡）　朴壽德（高普、平南）　間基雄（中、長崎）

久富靜雄（中、山口）　市丸千代藏（中、福岡）　神崎勝實（中、福岡）

韓昌愚（高普、忠南）　川瀨薰（中、岐阜）　城戸好秋（中、長崎）

金鍾九（農、忠北）　金東浩（農、全北）　黃琦淵（高普、京畿）

溝口大三（農、佐賀）　椋梨彌七（中、山口）　中園貞紀（中、福岡）

西田武一（中、福岡）　西村信枝（中、山口）　野澤信郎（中、岡山）

大倉幸次（農、東京）　大澤季夫（中、埼玉）　李升圭（高普、咸南）

林周永（高普、全北）　柳基燮（高普、黃海）　崔炳華（高普、京畿）

島崎英士（中、福井）　篠崎八一郎（農、長崎）　佐藤泰介（中、廣島）

瀨田豊（中、廣島）　曺圭白（農、忠南）　高木平一（中、鹿兒島）

鄭熙燮（高普、咸北）　德永利夫（中、佐賀）　若林秀雄（中、福岡）

全德敏（高普、江原）

林學科第二學年（二十三名）

玄信圭（高普、平南）　原垣英三（中、廣島）　堀克重（中、大分）

法師山一（中、佐賀）　岩城進（中、愛媛）　梶原然（中、福岡）

金昌鶴（高普、平南）　北原作衞（中、福岡）　北島米一（中、佐賀）

工藤哲夫（中、大分）　松井時雄（中、山形）　松島二雄（中、鹿兒島）

三橋界（中、佐賀）　中村良雄（中、熊本）　佐治格（中、新潟）

堺正德（農、福岡）　椎原國紀（中、鹿兒島）　城谷省一（中、長崎）

田口太吉（中、福岡）　高松武雄（中、福岡）　田邊力（中、熊本）

植田芳夫（中、兵庫）　山田只夫（中、山口）

農學科第一學年（四十名）

赤塚清信（中、鹿兒島）　関丙昱（高普、忠南）　藤井慶治（中、福岡）

藤井義典（中、福岡）　嚴士直（農、平北）　原豪一郎（中、福岡）

堀野長信（中、大阪）　井出口強（農、佐賀）　井上莊太郎（中、京都）

伊東謙二郎（中、大分）　河野建（中、福岡）　劒持猛夫（中、岡山）

金光泰（高普、京畿）　前田尙（中、鹿兒島）　三谷正（中、島根）

宮川與志雄（高普、石川）　水野健太郎（中、福岡）　村岡武治（中、山口）

村田俊一（中、兵庫）　野口三夫（中、佐賀）　岡本大二郎（中、兵庫）

鬼塚一秋（中、長崎）　李弼圭（農、忠南）　李尙奎（高普、平南）

李容佾（高普、慶北）　龍堂寬祐（中、大分）　佐方敏男（中、鹿兒島）

崔璣燮（高普、黃海）　崔範烈（農、京畿）　崔弘基（高普、京畿）

佐野龍男（中、福岡）　車鳳淵（高普、平南）　申瑾澈（高普、江原）
杉正次（中、兵庫）　上田公平（中、宮城）　上野隆（中、佐賀）
山本巖（農、愛媛）　山本芳廣（農、長崎）　山崎龍一郎（中、福岡）
吉田芳正（農、熊本）

林學科第一學年（二十五名）

阿部時次（中、愛知）　安宅鎭（高普、京畿）　赤井節夫（中、岡山）
張喜鎭（高普、忠南）　權重鎬（高普、慶北）　玄基岳（高普、平南）
羽澄馨（中、愛知）　伊森三次（中、福岡）　飯塚英儀（中、長崎）
尹一相（高普、京畿）　伊藤重勝（中、長崎）　石井啓二（中、山口）
岩永隆信（中、長崎）　金德良（高普、慶北）　菊岡良雄（中、長崎）
光田正二（中、岡山）　森井精三（農、廣島）　古賀勉（中、福岡）
中村茂朝（中、奈良）　小野熙（中、宮城）　小笠原敏夫（中、岩手）
李鍾乾（農、忠南）　山本茂（農、靜岡）　崔鍾台（高普、忠南）

實業補習學校教員養成所（十六名）

權彝鵬（忠北）　白昌基（慶北）　井上直吉（佐賀）
岩田勝省（廣島）　韓東國（咸南）　金熙玉（咸北）

紺社敏夫（兵庫）　康應寶（平北）　久保邦雄（鹿兒島）
中間利政（福岡）　朱炳模（黃海）　秋允燁（咸南）

實業補習學校第二學年（九名）

金麟基（京畿）　洪性學（京畿）　宗榮韶（京畿）
李光均（京畿）　李萬秀（京畿）　李鍾大（京畿）
劉柱烈（京畿）　鄭淳模（京畿）　山口利幸（岡山）

同　第一學年（十名）

安業清參（宮崎）　朴鍾文（京畿）　文正善（京畿）
白南亨（京畿）　金寄興（京畿）　金根培（京畿）
高聖德（京畿）　洪錫榮（京畿）　李益宰（京畿）
柳瀹錫（京畿）

三　生徒道府縣別

道府縣	計	農學科 第一學年	農學科 第二學年	農學科 第三學年	林學科 第一學年	林學科 第二學年	林學科 第三學年	養成所
福岡	二七	六	三	二	五	二	一	一
長崎	二二	二	三	二	四	一	一	二
佐賀	二二	八	一	三	二	三	三	二
山口	二二	八	一	三	二	三	三	二

大分	八	二		二		二	二	
兵庫	六	三		一		一		一
廣島	六		二		一	一		二
東京	四		一	二			一	
大阪	三	一		一			一	
宮城	三	一		一	一			
京都	二	一		一				
新潟	一					一		
奈良	一				一			
福島	一							一
山形	一					一		
石川	一	一						
島根	一	一						
京畿	二	三	二	一	二		三	
慶北	七	一		三	二			一
忠北	五		一	一			二	一
黃海	三	一	一					一
江原	三	一	一	一				
鹿兒島	八	三	一	一		二		一
愛知	六			一	二		三	
熊本	五	一		一		二	一	
岡山	四	一	一		二			
静岡	三			二	一			
愛媛	三	一				一	一	
香川	二			二				
埼玉	一		一					
岐阜	一		一					
岩手	一				一			
福井	一		一					
富山	一			一				
高知	一						一	
忠南	二	二	二	四	三			
平南	六	二	一		一	二		
咸南	四		一				一	二
平北	三	一		一				一
全北	二		一	一				
全南	二		一	一				
慶南	一			一				
咸北	二		一					一
合計	一九六	四〇	三四	三八	二四	二五	二	一六

四　入學志願者及入學者數

年別		入學志願者數	入學受驗者數	入學許可者數	農學科 入學志願者數 內地人本科	農學科 入學志願者數 朝鮮人本科	農學科 入學志願者數 朝鮮人特科	農學科 入學志願者數 計	農學科 受驗者數 內地人本科	農學科 受驗者數 朝鮮人本科	農學科 受驗者數 朝鮮人特科	農學科 受驗者數 計	農學科 入學許可者數 內地人本科	農學科 入學許可者數 朝鮮人本科	農學科 入學許可者數 朝鮮人特科	農學科 入學許可者數 計	林學科 入學志願者數 內地人本科	林學科 入學志願者數 朝鮮人本科	林學科 入學志願者數 朝鮮人特科	林學科 入學志願者數 計	林學科 受驗者數 內地人本科	林學科 受驗者數 朝鮮人本科	林學科 受驗者數 朝鮮人特科	林學科 受驗者數 計	林學科 入學許可者數 內地人本科	林學科 入學許可者數 朝鮮人本科	林學科 入學許可者數 朝鮮人特科	林學科 入學許可者數 計
明治	三九	｜	｜	三三																								
	四〇	二二	｜	二九																								
	四一	一七二	｜	四〇																								
	四二	六七六	｜	八〇																								
	四三	四二一	｜	四〇																								
	四四	｜	｜	四〇																								
	四五																											
	一	五七八	三九四	四〇																								
	二	六四八	四〇三	四〇																								
	三	八六八	六〇二	四〇																								
	四	一八九	一四〇	四〇																								
	五	二〇九	一四五	四〇																								

	大正														昭和				
	六	七	八	九	一〇	一一	一二	一三	一四	一五	一	二	三	四	五	六
	一四二	九六	四四	五六	八七	一六八	一九二	二八三	二三〇	二一六	二二五	二五五	二八二	二六六	二六七	二三一
	九二		二二	四八	七〇	一四八	一四〇	一八八	一六〇	一六一	一六一	二三一	二二一	二三三	二三六	一九七
	二二	二〇	二二	一六	三二	六三	七六	七二	六一	六〇	六六	五五	六三	五八	六一	五九
	二一	一〇	一四	一三	二三		八〇	一〇四	五七	六六	八〇	八〇	九五	一〇〇	一一五	八九
	二二	八六	三〇	四三	六四		二	二九	六三	九三	九七	八八	八八	八六	六二	五二
									五〇							
	一四二	九六	四四	五六	八七	・一六八	二四四	一八九	一七〇	一五九	一七七	一八三	一八六	一八六	一七七	一四七
	一四		一二	一三	一九	七四	四八	七〇	四五	五四	七一	八一	八二	七九	一〇七	七六
	七八		一二	三六	五一	一	二	一四	三七	六三	八九	七八	七九	七九	五一	四七
									三八							
	九二		二二	四八	七〇	九五	八五	一一九	一二〇	一一七	一四〇	一五九	一六一	一五八	一五八	一二三
	七	五	九	九	一五	二六	二三	二七	一八	一七	一六	二一	二五	二六	二七	二五
	一五	一五	三	七	一七	一	五	五	一六	一八	二〇	一九	一一	一三	一三	一〇
	二三		一六		三二			六	三							
							五〇	五八	三七	三〇	五四	四七	三六	五七	五七	三五
							四	一〇	二四	二七	二三	二三	二二	二三	二六	二二
						・一六八	五九	二六	一七	七五	七六	一九	一三	一六	一六	一〇
						六八	三七	九四	六〇	二三	八〇	六九	六二	七一	九〇	七四
						一四	四	五〇	一七	二二	五〇	四三	五二	五一	一三	一六
						一四	三七	一六	八	二一	二一	一九	二一	二一	五二	二二
	一四	一四	一四	一四	一四	一四	一四	一四	一五	一四	一四	一四	一六	一六	一九	一六
	三三	三三	三三	六九	三五	二九	一	六	三五	二四	二四	二五	二五	二五	二六	二四
	一八	一八	一四	二五	一	六	一八	三四	一四	一四	一四	一四	一六	一七	一五	一八
	八	二六	二四	二四	二六	三六	二六	二四	八	二	二	五	七	五	二二	二四

農林兩科ヲ分タズ、便宜上農科ノ部ニ記入
特科ノ制モナシ

備考 ●印ハ農林兩科ヲ合計シタル數ナリ

五 在學中ノ諸入費大略

區別	第一學年 額	第二學年 額	第三學年 額	計
經常費 授業料	三五・〇〇〇円	三五・〇〇〇円	三五・〇〇〇円	一〇五・〇〇〇円
食費平均十箇月合計	一三〇・〇〇〇	一三〇・〇〇〇	一三〇・〇〇〇	三九〇・〇〇〇
寮費	二四・〇〇〇	二四・〇〇〇	二四・〇〇〇	七二・〇〇〇
校友會費	二〇・〇〇〇	二〇・〇〇〇	二〇・〇〇〇	六〇・〇〇〇
校友會積立金	八・〇〇〇	六・〇〇〇	六・〇〇〇	二〇・〇〇〇
校友會入會金	三・〇〇〇	—	—	三・〇〇〇
修學旅行費積立 農學科	三〇・〇〇〇	三〇・〇〇〇	三〇・〇〇〇	九〇・〇〇〇
修學旅行費積立 林學科	四二・〇〇〇	四二・〇〇〇	四二・〇〇〇	一二六・〇〇〇
文房具其ノ他小遣	五〇・〇〇〇	五〇・〇〇〇	五〇・〇〇〇	一五〇・〇〇〇
合計 農學科	三〇〇・〇〇〇	二九五・〇〇〇	二九五・〇〇〇	八九〇・〇〇〇
合計 林學科	三一二・〇〇〇	三〇七・〇〇〇	三〇七・〇〇〇	九二六・〇〇〇
臨時費 身元保證金	五〇・〇〇〇	—	—	五〇・〇〇〇
參考書類	三五・〇〇〇	三五・〇〇〇	三五・〇〇〇	一〇五・〇〇〇
夏服	二五・〇〇〇	—	—	二五・〇〇〇
冬服	三五・〇〇〇	—	—	三五・〇〇〇
外套	四〇・〇〇〇	—	—	四〇・〇〇〇

時				
帽子 冬	四·〇〇〇	—	—	五·〇〇〇
帽子 夏	一·〇〇〇	—	—	
實習服	四·〇〇〇	—	—	四·〇〇〇
卷脚絆及地下足袋	三·〇〇〇	三·〇〇〇	三·〇〇〇	九·〇〇〇
靴	七·〇〇〇	—	七·〇〇〇	一四·〇〇〇
費 合計	二〇四·〇〇〇	三八·〇〇〇	四五·〇〇〇	二八七·〇〇〇
總計 農學科	五〇四·〇〇〇	三三三·〇〇〇	三四〇·〇〇〇	一,一七七·〇〇〇
總計 林學科	五一六·〇〇〇	三四五·〇〇〇	三五二·〇〇〇	一,二二三·〇〇〇

第九 卒業生

一 卒業生數

卒業年次	修業區別	農林學校 林學速成科(朝鮮人)	農林學校 獸醫速成科(朝鮮人)	農林學校 本科(朝鮮人)	朝鮮總督府農林學校 本科(朝鮮人)	朝鮮總督府水原農林專門學校 內地人	朝鮮總督府水原農林專門學校 朝鮮人	朝鮮總督府水原高等農林學校 農 內地人	朝鮮總督府水原高等農林學校 農 朝鮮人	朝鮮總督府水原高等農林學校 林 內地人	朝鮮總督府水原高等農林學校 林 朝鮮人	計
明治	四〇	一二										一二
	四一	七		二一								二八
	四二		二〇	二〇								四〇
	四三			二九								二九
	四四				二八							二八
	四五				二四							二四
大正	二				二八							二八
	三				二八							二八
	四				三三							三三
	五				三三							三三
	六				三七							三七
	七				二五							二五
	八				二三							二三
	九					七	二					一八
	一〇					四	五					九
	一一					九	五					一四
	一二							(一)九	(一)△六			一五
	一三							(五)一四	(八)△一六			三〇
	一四							二一	(三)七	一六	五	四九
	一五							一九	(七)一二	一四	(三)三	四八
昭和	二							二〇	(五)一〇	一七	(六)六	五三
	三							一五	(二)一八	一三	(二)八	五四
	四							一四	六	一三	六	三九
	五							一七	一六	一二	四	四九
	六							一六	一三	一二	四	四五
計		一九	二〇	七〇	二五九	二〇	一二	一四五	一〇四	九七	三六	七九一

附置實業補習學校教員養成所 內地人	朝鮮人	計
一四	二	一六
九	二	一一
一一	三	一四
七	四	一一
四一	一一	五二

備考 △印ハ農林兩科ニ分レ居ラズ。括弧內ノ數字ハ內書ニシテ舊規程又ハ特科ノ卒業生ヲ示ス

二 卒業生就職表 (昭和六年八月末日現在)

區別	農林學校 林學速成科修業(二回)	農林學校 獸醫速成科修業(一回)	農林學校 本科卒業(三回)	朝鮮總督府農林學校 本科卒業(九回)	朝鮮總督府水原農林專門學校卒業(三回)	朝鮮總督府水原高等農林學校卒業 二回	朝鮮總督府水原高等農林學校卒業 七回 農	朝鮮總督府水原高等農林學校卒業 七回 林	計	附置實業補習學校 教員養成所卒業(四回)
官吏	六	六	一八	八〇	七	一五	八四	八九	三〇五	|
教員	|	|	八	四四	一〇	一七	四〇	一一	一三〇	四九
會社銀行團體	|	|	四	一六	七	二	三五	二	六六	|
兵役	|	|	|	|	|	|	二	四	六	|
自營其ノ他	一一	一〇	三〇	七五	一二	八	三五	一九	二〇〇	|
死亡	二	四	一〇	四四	五	三	八	八	八四	三
計	一九	二〇	七〇	二五九	四一	四五	二〇四	一三三	七九一	五二

三 卒業生氏名 (△印死亡) (ABC順)

林學速成科第一回修業生 (十二名) 明治四十年四月

安奎應(平北) 張斗柄(平北) 金元日(咸北) 金義鎔(慶南)
金光河(平南) 金化俊(平北) 金寶伍(平南) 金正學(全南)
金宗元(平北) 金相謙(平北) 崔泰鏞(平北) 曺秉采(京畿)

林學速成科第二回修業生 (七名) 明治四十一年四月

△朴基保(平北) 權柄壽(京畿) 權命相(忠北) 金炳國(京畿)
△金容起(忠北) 鄭台鉉(京畿) 鄭河亨(京畿)

獸醫速成科第一回修業生 (二十名) 明治四十二年四月

朴元浩(平南) 朴敬淳(平北) 張翼聲(咸南) 池鉢容(京畿)(鍾均)
玄正銖(咸北) 邊泰奎(平南) △金炳一(平南) 金洪燮(咸南)
金泰玉(平南) 金達鉉(咸南) △黃珞圭(京畿) 李營基(京畿)
△李英浩(慶南) 李鳳燮(江原) 李昌夏(京畿) 車萬軫(咸南)
△宋駋鏞(咸北) 鄭敎河(平北) 鄭燦先(平南) 全奉學(黃海)

本科第一回卒業生 (二十一名) 明治四十一年四月

△安喜永(京畿) 文衡旋(江原) 朴宗圭(京畿) 權彝哲(全北)

權錫圭（京畿）　尹鼎鉉（京畿）
金錫永（京畿）　金運鏞（京畿）
李必熙（忠北）　李康烈（京畿）
申鉉泰（京畿）　申完植（京畿）
全載億（京畿）

本科第二回卒業生（二十名）　明治四十二年四月

朴勝武（京畿）　朴昌熹（忠北）
韓忠赫（咸南）　韓禎柱（平北）
康大翼（平北）　許興龍（平北）
林漢龍（京畿）　李容勳（京畿）
崔文澤（平南）　△崔元慶（平北）

本科第三回卒業生（二十九名）　明治四十三年四月

安秉一（黃海）　朴鍾舜（平南）
元洪九（平北）　吳永鍵（平南）
△金允玉（平北）　金仁垕（咸北）
康國寶（平北）　康之恒（平南）
△李垕根（咸南）　李圭煥（京畿）

金榮祥（京畿）　金勳（京畿）
△洪在夏（京畿）　姜大駪（京畿）
李思震（忠北）　申鉉九（京畿）
曺鼎煥（京畿）　俞奭濬（京畿）

△田成俊（平北）　△吳盛根（京畿）
金洙梧（咸南）　金達林（咸南）
李弼寧（忠南）　李鶴林（平南）
梁鎭昂（平北）　梁完鎬（忠南）
宋秉泰（京畿）　△曺仁學（平北）

明治四十三年四月

沈載昱（忠南）　趙承律（咸南）
尹丙燮（京畿）　金永鎭（平南）
金正鳳（京畿）　洪淳寧（全南）
許希泳（平北）　羅永鉉（黃海）
李萬憲（黃海）　李韶榮（忠南）

△李貞圭（江原）　△崔中順（京畿）
鄭瑩澤（咸南）　鄭基都（平南）
全夏植（慶南）

本科第四回卒業生（二十八名）　明治四十四年四月

朴榮穆（慶北）　朴潤亨（平南）
△朴大駿（平南）　朴在善（平南）
△韓用淳（平南）　△金炳文（京畿）
金炯達（慶北）　金基永（京畿）
黃永老（江原）　洪鍾福（京畿）
△李濩葉（平南）　李南奎（江原）
△李承基（京畿）　△劉興鳳（平北）

申鉉重（京畿）　宋國龍（平南）
鄭國鎬（平南）　楊世鶴（咸北）

本科第五回卒業生（二十四名）　明治四十五年四月

閔泳鶴（慶南）　張文華（平北）
△張南植（忠南）　△嚴昌燮（京畿）
金敎賢（京畿）　金明涉（平南）
李起夏（京畿）　△李萬實（京畿）
李澤英（平南）　梁大煥（京畿）

△朴舜哲（平南）　朴宗洽（平南）
△趙益景（平南）　吳錫龍（平北）
金炳杰（岡山）（平南）　金奎承（平北）
金相伯（慶北）　金相揖（平北）
李元極（黃海）　李寅華（平南）
李信鳳（平北）　朱珍鉉（咸南）
鄭煥樹（忠北）　都昌奎（京畿）

明治四十五年四月

趙仁行（京畿）　張起鉉（平北）
徐丙哲（京畿）　郭麟浩（平南）
△金錫源（平北）　許均（江原）
李震善（京畿）　李鍾昨（平北）
△崔益培（京畿）　崔斗煥（京畿）

△孫洪倫（京畿）　鄭漢表（慶北）

本科第六回卒業生（二十八名）　大正二年三月

△朴盛根（京畿）　朴彰鉉（京畿）
白禹鉉（忠南）　金柄佶（慶北）
金基晃（京畿）　△金盛玉（京畿）
△洪淳完（全南）　洪潤根（平北）
任光宰（忠南）　△任定彬（京畿）
李光馥（京畿）　李容恂（京畿）
石忠均（京畿）　宋柱淳（平南）

本科第七回卒業生（二十八名）　大正三年三月

安秉春（忠北）　△朴稚奎（京畿）
文勝勳（平北）　權寧炯（慶北）
金知泰（咸南）　金熙永（京畿）
金貞德（京畿）　金容宅（慶南）
△姜仁遠（京畿）　李漢昌（忠南）
李又白（平南）　崔大烈（全南）
宋洙格（全北）　△宋泰鎬（忠北）
鄭繼烈（黃海）　鄭基琇（平南）

大正二年三月

趙炳楚（咸南）　△吳湫銓（全南）
金鳳翰（黃海）　金賢洙（黃海）
金晟元（演守）（忠南）　金泰鎬（京畿）
高濟元（京畿）　姜漢鈺（慶南）
李炳九（京畿）　李允載（京畿）
△崔載貞（京畿）　△宋駟憲（京畿）
宋孝淳（平南）　全洪燮（咸北）

大正三年三月

△朴泳夏（京畿）　朴聖鎭（慶南）
△彭漢基（慶南）　△尹炳文（京畿）
金興根（京畿）　△金龍濟（忠南）
金雄燮（京畿）　高濟夢（京畿）
李南洙（咸南）　林承烈（炳洞）（京畿）
崔義淳（京畿）　申大範（江原）
鄭鋅（京畿）　全日永（京畿）

本科第八回卒業生（三十三名）　大正四年三月

朴璡柱（慶南）　朴震璧（慶南）
權勉洙（江原）　白南雲（全北）
咸基燮（江原）　金文準（全南）
金泰年（貞植）（全南）　金容庠（咸南）
洪在鎬（江原）　姜奎元（慶北）
南宮煖（江原）　南昌祐（忠南）
李明馥（京畿）　李相來（咸北）
崔商翼（慶北）　崔德運（平南）
△鄭鎬英（江原）

本科第九回卒業生（三十三名）　大正五年三月

朴永植（全南）　△朴起春（咸南）
朴泰洪（慶南）　文光烈（命鎭）（慶南）
韓璣敎（京畿）　金敎億（忠南）

朴東翼（咸北）　趙永熙（咸南）
白璐準（慶北）　方熙春（江原）
金永默（咸北）　金九鉉（咸北）
金宅洙（忠北）　高悌源（京畿）
姜龍求（全北）　許塘（咸北）
李彪永（咸南）　李軒求（忠南）
柳根龍（全北）　△崔鳴圭（江原）
車化善（黃海）　鄭灝基（慶南）

朴晶昱（全南）　△朴鍾禹（平南）
△嚴章煥（江原）　尹達容（忠北）
金龍得（京畿）　金龍在（平北）
金承烈（慶北）　金昌燮（平南）
金相殷（咸南）　△高丙奭（平北）
李熙淳（咸北）　△李賢洙（咸南）
姜錫麟（京畿）　李壽雨（慶南）
李龍求（忠南）　李奭夏（忠北）

李相玉（京畿）　李廷善（全北）
申漢均（慶北）　辛錫圭（全北）
△鄭龍善（慶南）

本科第十回卒業生（三十七名）　大正六年三月

馬東奎（咸北）　朴仁觀（咸南）
陳容駱（咸南）　張勉（京畿）
吳章洙（慶北）　尹悳吉（慶北）
咸聖熙（江原）　金元植（咸北）
金泰寧（全北）　△黃景秀（京畿）
洪承龍（平南）　黃廷奎（全北）
李炳奎（忠南）　△李河永（平北）
李廼楨（平北）　李璐澤（全北）
宋鎭永（黃海）　宋琓秀（全南）
都奎煥（慶南）

本科第十一回卒業生（二十五名）　大正七年三月

閔定鎬（平南）　朴海洙（江原）
趙聖澤（全北）　趙昌植（平南）

柳興湜（忠北）　崔顯榮（京畿）
朱亮塤（咸南）　△鄭恒基（慶北）

△朴寬彬（平北）　朴定根（平北）
元泰允（江原）　權寧翊（京畿）
咸秉業（平北）　韓根祖（平南）
金樂權（全南）　△金成實（忠北）
高錫八（平南）　黃尙海（咸南）
南基徹（忠南）　李文炯（江原）
李圭熙（慶北）　李起東（忠北）
△柳寅昇（全北）　崔泰瑢（咸北）
鄭贊溶（忠南）　鄭禹錫（慶南）

朴在善（忠南）　趙豐鎬（京畿）
玄彦東（忠南）　權重斌（忠南）

郭楨吉（忠北）　韓載文（慶北）
金東潤（江原）　金東珪（忠南）
△李鳳元（平北）　李寬雨（忠北）
李德鳳（黃海）　△李敎奎（江原）
全昶（京畿）

本科第十二回卒業生（二十三名）　大正八年三月

安殷植（平南）　朴永緖（忠北）
朴用燮（忠南）　張道鍵（平北）
韓昌熙（忠南）　金璟載（黃海）
洪基觀（平南）　李基燦（京畿）
陸泰鎭（咸北）　梁洪錫（忠南）
宋夏東（京畿）　鄭敬謨（全北）

農林專門學校第一回卒業生（十八名）　大正九年三月

青木勝哉（長崎）　朴文赫（平南）
吳元錫（黃海）　賀屋寅雄（長崎）
河崎幸人（大分）　金昌鎬（忠南）
△任敏浩（全南）　陸重均（慶北）

金曉起（京畿）　金圭七（慶北）
黃鐸麟（江原）　李炳壽（忠南）
李圭信（江原）　李奭求（忠南）
曺圭詠（忠南）　鄭寅哲（忠南）

朴綏秉（京畿）　朴錫寬（全南）
白燦基（忠北）　表潤根（忠南）
金喜周（全南）　黃道俊（江原）
李光熙（京畿）　陸洪均（慶北）
柳文永（京畿）　崔秉一（京畿）
全昌根（江原）

趙伯顯（京畿）
片岡基（島根）
洪鍾烈（平南）
崔龍煥（忠南）

關戸春雄（東京）　手島榮（大分）

農林專門學校第二回卒業生（九名）　大正十年三月

文大洙（咸南）　金致斗（咸南）　洪升億（平南）
永井時雄（宮城）　中田龜雄（山口）　鶴田純男（鹿兒島）（宇都）
△山本一彌（宮崎）

農林專門學校第三回卒業生（十四名）　大正十一年三月

趙慶來（咸北）　藤波止（大分）　白樂乾（忠南）　△一色爲幹（愛媛）
岩佐東作（京都）　木村義輔（大分）　金雄珏（忠南）　近藤忠（福井）（牧野）
森昇（香川）　大島治人（山口）　△李求赫（咸北）　李台鍾（京畿）
△舘拾男（石川）　山口清治（佐賀）

第一回卒業生（十五名）　（●印、舊規程ニヨル卒業生以下同ジ）　大正十二年三月

安東圭之介（大分）　安藤唯一（岐阜）　海老名昌二（千葉）　●白南紀（京畿）
久間健一（愛媛）　岩永鶴松（宮崎）　●小松仁兵衞（京都）　柳成浩（京畿）
澤谷靜（靜岡）　瀨戸渡（長崎）　申泰登（忠北）　宋乙秀（全南）
鄭相浩（全南）　△宇多田正雄（山口）　俞奭濬（京畿）

第二回卒業生（三十名）　（▲印、追試驗ニヨル卒業生以下同ジ）　大正十三年三月

●赤岡雅夫（愛媛）　●安宅洙（忠北）　安在駿（京畿）　▲張錫淵（平南）

●權亨祚（慶北）　●金浩植（京畿）　△金正龜（京畿）
高龍在（京畿）　黃斗燁（平南）　●丸山長清（鹿兒島）
三浦貞次（東京）　●守山昇（福岡）　▲長濱航七（鹿兒島）　永杉正英（福井）
內藤益男（山口）　大石保祿（長崎）　●李炳穆（京畿）　△●李洪楨（咸南）
●李晟鉉（平南）　▲●李鍾業（平南）　劉泰璉（咸南）　●宋在哲（忠北）
鈴木全（千葉）　鈴木良（道久）（香川）　高瀨五郎（大阪）　▲津藤武男（山形）
●浦川滿（佐賀）　●渡邊長（本邊）（新潟）

第三回卒業生（四十九名）　（○印ハ特科卒業生以下同ジ）　大正十四年三月

農學科（二十八名）

足達孝（福岡）　文奉午（全南）　○元喜聖（慶北）　橋口修己（鹿兒島）
本田宇三郎（大阪）　笠松順三（兵庫）　神邊利重（群馬）　○金南薰（京畿）
金鍚熙（江原）　金佑圭（忠北）　北川彌一郎（滋賀）
△松尾正義（新潟）　三根秀一（佐賀）　中島三郎（長野）
野間春一（廣島）　野村直彥（山口）　岡崎正彥（兵庫）
劉龍吉（全南）　坂井榮次（佐賀）　高木文雄（佐賀）
丹野正躬（福岡）　寺崎幸一（佐賀）　橫山信勝（山口）
（土井）　山口玄二（長崎）

林學科（二十一名）

阿部要（山口）　原清之（愛媛）
伊藤明（愛媛）　韓炳國（忠南）
金炳周（平北）　金恒季（京畿）
中島規矩夫（宮崎）　荻野茂（福岡）
佐々木正己（福岡）　佐藤敎（栃木）
渡島繁（鹿兒島）

第四回卒業生（四十八名）　大正十五年三月

農學科（三十一名）

△阿部收（新潟）　新井利邦（兵庫）
藤田善彌（新潟）　○權榮達（慶北）
尹禎晧（京畿）　岩瀨榮（福岡）
黃承洪（咸南）　森下次郎（福岡）
中村榮一郎（廣島）　大久保信（茨城）
○李基潞（京畿）　○李稷淳（平北）
佐野正人（福岡）　重川逸嗣（愛媛）
寺島準一（香川）　富江藤七（滋賀）

林學科（十七名）

家入一雄（熊本）　石堂譚（鹿兒島）
加藤北二郎（千葉）　△木村代嗣（熊本）
小池金次（群馬）　姜太萬（全北）
大坪半三（佐賀）　李晋皞（平南）
仙波鐵廣（愛媛）　田邊滋（福井）

朴載龍（忠北）　朴勝烈（慶北）
○吳世煥（京畿）　秦多藏（愛媛）
岩田（川瀨）高（長崎）　○金泰壎（平北）
村上良英（山梨）　中原助雄（宮崎）
尾崎平治（長崎）　○李徽載（忠北）
盧尙昱（平南）　坂田松之十（熊本）
○孫東滿（全南）　竹內一夫（兵庫）
辻良貞（愛媛）

淺田正雄（山口）　○尹樂憲（京畿）
△加藤順三（宮崎）　○金在錫（全南）
松村隆壽（熊本）　松永健吉（佐賀）
竹崎俊助（宮崎）　▲田宮（三浦）欣平（安齊）（新潟）
山本幸夫（新潟）

第五回卒業生（五十三名）　昭和二年三月

農學科（三十名）

有田眞夫（福岡）　○趙命植（平南）
具然和（京畿）　池田元彥（山口）
岩津一夫（大分）　菊池覺（愛媛）
○金雄鎭（京畿）　○黃鍾憲（京畿）
三原愿（福岡）　三谷次延（宮崎）
長門正壽（長崎）　任大淳（京畿）
△島田謙造（高知）　宋鳳郁（黃海）
德永一道（福岡）　上田勤（旭）（山口）

△濱砂飄郎（宮崎）　樺澤與伍榮（新潟）
的野巖（福岡）　松隈司郎（佐賀）
村上久人（熊本）　○李喜燊（忠北）
山田藤吾（福岡）　山口盛久（熊本）

福井義皆（德島）　具在書（京畿）
稻津信隆（宮崎）　引頭寅雄（山口）
○金榮浩（慶北）　○金守萬（慶南）
馬郡義四郎（佐賀）　松田英助（東京）
宮崎智（福岡）　百崎忠太（佐賀）
野田靜雄（靜岡）　△重松睦二（大分）
武居雄吉（山本）（山口）　○鄭萬鍾（慶南）

林學科（二十三名）

△福田庄一（長崎）　嘉村傳吾（佐賀）
香月達夫（佐賀）　○金升龍（咸北）